

JATCO Sustainability Report 2026



Jatco

ジヤトコ サステナビリティレポート
2026

編集方針

当サステナビリティレポートは、お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域社会などジャトコのすべてのステークホルダーを対象としています。ジャトコのサステナビリティ活動への継続的な取り組みをご理解いただくとともに、みなさまからのご指摘を新たな課題発掘への手がかりとし、今後の取り組みに生かしていく予定です。ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<アンケート>

<https://forms.office.com/r/32KDqbwgJn?origin=lprLink>



参考ガイドライン

「GRI（Global Reporting Initiative）スタンダード」

報告対象期間

2025年4月～2026年3月まで

報告対象範囲

ジャトコ株式会社および国内・海外連結子会社を対象としています。

報告サイクル

年次報告として毎年発行（前回は2025年10月）

発行年月

2026年10月

発行責任部署および問い合わせ先

経営企画・広報部

https://www.jatco.co.jp/inquiry/agreement_other.html

目次

CEOメッセージ	3	人的資本：ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上	
ジャトコについて		ダイバーシティ&インクルージョン	46
企業情報	5	人財育成	47
企業理念	6	労働安全衛生	50
価値創造のあゆみ	7	事業基盤：誠実な経営と事業基盤の強化	
目指す姿	8	信頼される品質	57
コア技術	9	人権	60
モノづくりの考え方	10	持続可能で責任ある調達	61
サステナビリティマネジメント		ステークホルダーエンゲージメント	64
ジャトコのサステナビリティ	14	ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス	65
環境：持続可能な地球環境への貢献		災害対策（物理的ハザード）	68
環境マネジメント	19	情報セキュリティ	70
脱炭素化の推進	24	データ	
クルマの電動化への貢献	28	社会性データ	72
循環型経済の構築	31	GRIスタンダード対照表	
大気・水資源・土壌保全	34	GRIスタンダード対照表	74
事業：モノづくりを活かしたモビリティ・イノベーション			
移動の可能性を拓けるソリューション	38		
エネルギー効率の追求	40		
社会：地域社会との共生および発展への貢献			
コミュニティの発展	42		
社会貢献活動	43		

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

CEO メッセージ

サステナビリティ経営を通じて、人々の、社会の、地球の未来に貢献します

近年、気候変動の深刻化や地政学的リスクの高まりなど、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。これまでの常識や過去の経験だけでは将来を見通しにくい時代だからこそ、企業には、社会課題の解決と持続的な成長を両立する責任がこれまで以上に求められています。

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、持続可能な社会の実現と企業の成長を両立するサステナビリティ経営を推進しています。その実現に向けジャトコとして取り組むべき優先課題として、18項目のマテリアリティ（重要課題）を定めています。本メッセージでは、その中でも特に重要と考える取り組みの電動化、資源循環、そして人財についてお伝えします。

まずは自動車の電動化への貢献について、当社は2033年までに電動車両向けユニットの年間生産台数500万台を実現する目標を掲げています。2025年度には、日産自動車株式会社と共同開発した電動パワートレイン「X-in-1」の量産を開始しました。今後も安定した量産体制を構築し、高い性能と品質を通じてお客様の競争力向上に貢献するとともに、自動車の普及を支えることで脱炭素社会の実現に寄与してまいります。

また、自動車の電動化に加え、資源循環も持続可能な地球環境への貢献に向けた重要な取り組みです。自動車産業は、従来の大量生産・大量消費型の経済から、資源を有効に活用する循環型

経済への転換期を迎えています。当社はこれまでも、製造工程における廃棄物の削減や再資源化に加え、リマニファクチャリング事業をはじめとする製品・部品の再製造を通じて、資源循環に取り組んできました。今後は、サステナブル材料の活用拡大や、リユース、再製造、リサイクルを組み合わせた循環の仕組みをさらに発展させ、パートナーとの共創による新たな価値の創出を目指します。

一方、気候変動への対応には、自動車の電動化に加え、製品のライフサイクル全体を通じた環境負荷の低減が欠かせません。その実現には、新たな技術開発とイノベーションが必要です。私は、こうした大きな社会課題に正面から向き合うことが、新たな価値創造につながると確信しています。ジャトコは、長年培ってきたものづくり技術とエネルギーマネジメント技術を活かし、社会課題の解決につながる新たな価値と技術の創出に挑戦し続けます。

そして、これらすべての挑戦を支えるのは「人財」です。事業環境が変化する中で一人ひとりが主体的に考え、挑戦し、多様な価値観を尊重しながら成長できる組織づくりが、新しい時代の価値創造につながります。あわせて当社は、従業員の心身の健康と将来を見据えたウェルビーイングを、持続的な成長を支える重要な経営基盤と捉え、健康経営を推進しています。2019年から8年連続で「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定され、2024年から2026年の3年連続で健康経営度調査の最上位である1位から50位の評価をいただいています。従業員が安心して能力を発揮し、生き活きと挑戦できる環境づくりを進めることで、企業としての活力を高めていきます。

ジャトコはこれからも、サステナビリティを事業活動の中核に据え、社会課題の解決を新たな価値と成長につなげていきます。技術と情熱を結集し、人々の暮らし、社会、そして地球のより良い未来に貢献してまいります。



ジャトコ株式会社 代表取締役社長兼CEO
佐藤 朋由



ジヤトコについて

企業情報

企業理念

価値創造のあゆみ

目指す姿

コア技術

モノづくりの考え方



企業情報

会社名	ジャトコ株式会社（英文名：JATCO Ltd）
事業内容	自動車用変速機、 電動パワートレインおよび 部品の開発・製造・販売 実験受託・エンジニア派遣
設立	1999年6月28日
本社所在地	静岡県富士市今泉700番地の1
従業員数	10,500人（2026年3月31日現在、連結）
代表	代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO） 佐藤 朋由
資本金	299億3,530万円
株主	日産自動車（75%）、三菱自動車工業（15%）、 スズキ株式会社（10%）

財務状況（連結）

	単位：億円			
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
売上高	5,400	6,217	5,641	5,742
営業利益	28	241	36	168
当期純利益	△48	158	△389	△178
	(参考)			

国内関係会社

- ジャトコ ツール株式会社
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号
- ジャトコ プラントテック株式会社
〒417-0023 静岡県富士市吉原宝町1番1号

海外関係会社

- ジャトコ 米国会社
1974 Midway Lane, Smyrna, TN 37167, USA
- ジャトコ メキシコ社
Carretera Panamericana Km 75, Col. Los Arellano, C.P. 20340. Aguascalientes, AGS., Mexico
- ジャトコ 韓国エンジニアリング社
Lotte IT Castle 2-4F, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- ジャトコ 韓国サービス社
Lotte IT Castle 2-412, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea
- ジャトコ（広州）自動変速機有限公司
N0.8, Lihong 2 Road, Science City, Guangzhou Hi-Tech Industrial Development Zone, Guangzhou, Guangdong, 510530, China
- ジャトコ（蘇州）自動変速機有限公司
No.2 Tangqiao Road (M), Tangshi Community, Yangshe Town, Zhangjiagang City, Jiangsu Province, 215600, China
- ジャトコ フランス社
ZAC des Godets - Batiment C, 1-4 Impasse de la noisette, 91370 Verrières le Buisson, France
- ジャトコ 英国会社
Unit 6, International Advanced Manufacturing Park (IAMP), International Drive, Sunderland, Tyne and Wear, England, SR5 3FH, United Kingdom
- ジャトコ タイランド社
700/999 Moo 3, Amata Nakorn Industrial Estate, Thumbon Nongkakha, Amphur Phanthong, Chonburi 20160, Thailand

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

企業理念

—— コーポレートパーパス ——

私たちの存在意義

技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる

モビリティは、人やモノの移動を可能にする。移動は、ただ動くことではない。
無限に広がる空間を動けば、新しい出会い、新しい経験が生まれ、新しい世界が開ける。
だからモビリティの可能性が拡がり、一人ひとりが思う通りの移動ができれば、
全ての人々の心に感動が生まれ、人々の交流に活力が溢れる。そして世界はより自由で豊かになる。
ジャトコは、そんな世界の実現を目指し、技術と情熱でモビリティの可能性を拡げます。

—— ミッション ——

私たちは、社会から信頼される企業として、
グリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービスを通し、
モビリティに新しい価値を提供します。

—— 価値観：T-E⁺-A-M ——

Team leadership by everybody 全員によるチームリーダーシップ	Entrepreneurship アントレプレナーシップ	External mindset 外界志向・顧客志向
Aspiration to win 勝利へのこだわり	Monozukuri excellence モノづくりの極み	

激しく変化する事業環境の中で、ジャトコは改めて自社が社会に存在する意義を問い直しました。

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスは、予測が難しい未来に向けて私たちの向かう方向性を示しています。

また、自らの強みを活かし、モビリティを通してよりよい社会の実現に貢献したいという、私たちの願いでもあります。

ジャトコは、コーポレートパーパスの実現に向けて、新しい価値を提供し続けます。

【技術】

ジャトコにとって技術は最も重要な資産であり価値の源泉です。
これまで磨き続けてきた技術を大切に、さらに深化させ、未来を切り拓く思いを込めています。

【情熱】

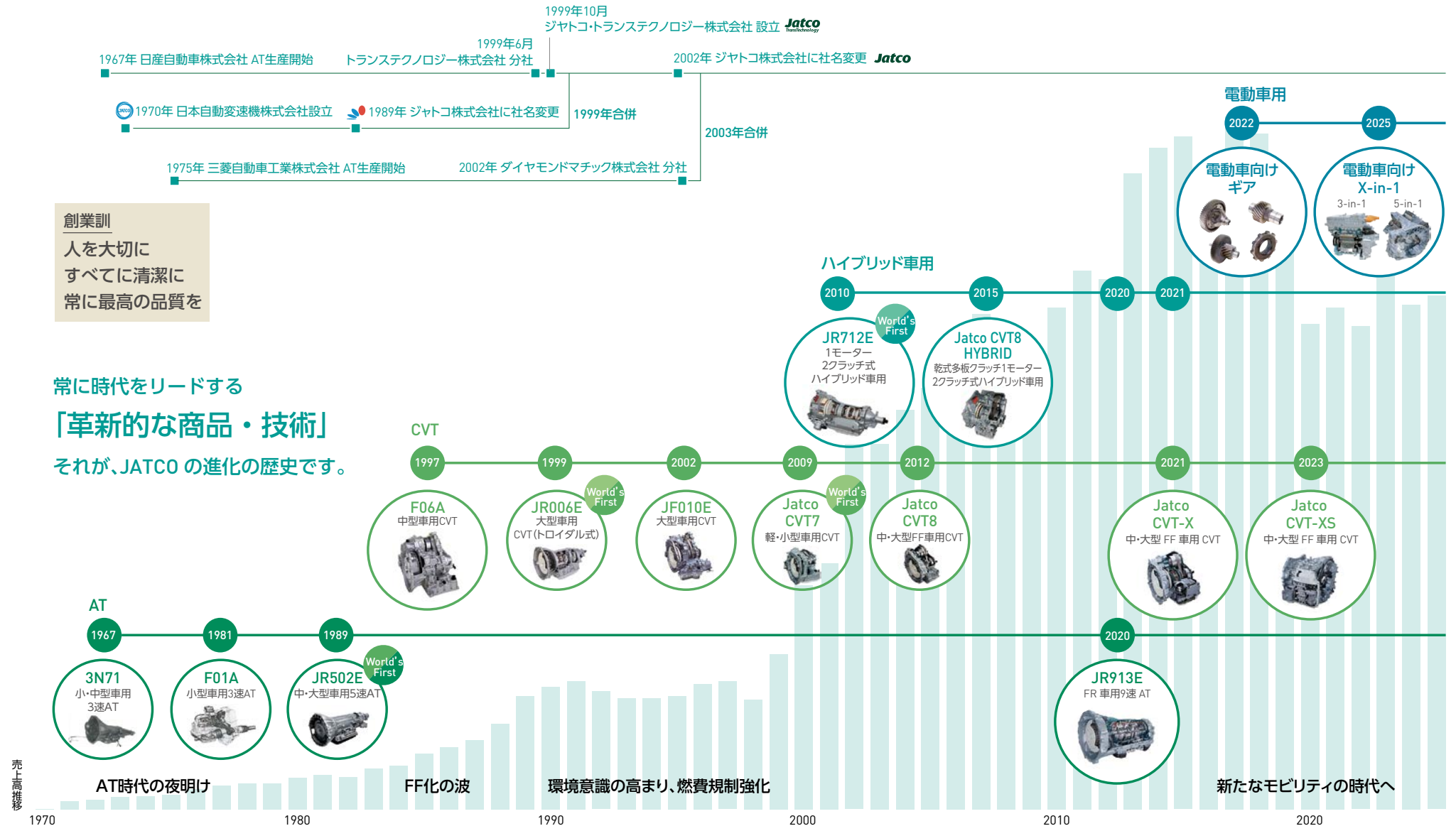
ジャトコは、モノづくりへの情熱、イノベーションへの情熱、そしてお客さまへの情熱で、新たな可能性を探索します。
情熱は私たちのチャレンジの原動力となります。

【モビリティ】

社会活動での移動とその手段の全てがモビリティです。
クルマを走る地表だけでなく、海、空、宇宙へと、モビリティの範囲は広がっていきます。
ジャトコの活動エリアもどんどん拡げていきます。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

価値創造のあゆみ



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

目指す姿

ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、自動車用トランスミッションメーカーとして長年培ってきた技術を活かし、移動がもたらすより良い社会の発展に貢献していきたいと考えています。加速する電動化の中で、電動パワートレインメーカーとしても、独自技術を活かした競争力のある商品を提供することで、より豊かな電動車両の未来の実現に貢献します。また、その技術を自動車以外の新しいモビリティにも広げ、あらゆるモビリティへのドライブユニット提供の可能性を探っていきます。ジャトコならではの技術とノウハウを最大限に活用し、お客さまや社会に価値ある新しい商品やサービスを提供することで、環境課題や社会課題の解決を視野に入れながら、持続可能な社会の成長とジャトコの成長を両立させていきます。

あらゆるモビリティにドライブユニットを提供



X-in-1 (3-in-1)



X-in-1 (5-in-1)



超小型e-Axle

**サステナビリティ
への
関心の高まり**

カーボンニュートラル
サーキュラーエコノミー
クルマからモビリティへの
価値変化



移乗機構付
車いす

**安全で快適な
移動の実現**



電動アシスト
自転車用
ドライブユニット

**持続可能な
社会の実現への
貢献**



電動バイク用
2速インホイール
モータードライブユニット

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

コア技術

ジャトコのコアコンピテンシー

前身会社の一つである日本自動変速機の創業以来、ジャトコが世に送り出した自動車用オートマチックトランスミッションの累計台数は1億3,200万台以上にのびります。これら CVT・AT の開発生産を通して磨いてきた、動力伝達機構の領域における、開発能力、生産技術がジャトコの強みです。

開発においては、ユニット、コンポーネントの設計・製造に加え、常に自動車メーカーとともに車両システムを開発に携わってきました。これにより、車両の制御、通信も含め、動力性能や静粛性、熱マネジメントまで対応することが可能です。また、生産においては、高精度の設計・加工技術や、高品質の製品をグローバルな生産拠点で量産し、安定的に供給することを強みとしています。

これらのコアコンピテンシーを最大限に生かし、電動パワートレインや新たなモビリティへの貢献など、新しい価値の提供を追求していきます。

車両～商品～コンポーネントすべてで価値を提供

車両システム開発

- 動力性能
- 静粛性
- 熱マネジメントシステム



ユニット開発

- 電動化ユニットシステム
- e-Axle など



コンポーネント開発

- コア部品
- ギア、モーター、原材料など



CVT・ATの動力を伝達する機能を担うギアなどの設計・加工技術



アルミ casting



鍛造



ギア加工



機械加工

高品質の商品をグローバルで安定的に供給する技術



グローバル量産



品質確保

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

モノづくりの考え方

お客さま視点で目指す「世界No.1のモノづくり」

ジャトコは、お客さまの変化に限りなく早く対応し、安全 (safety)、品質 (Quality)、時間 (Time)、コスト (Cost) における世界No.1のモノづくりを目指し、独自の生産方式「JEPS」(JATCO Excellent Production System) を構築・運用しています。

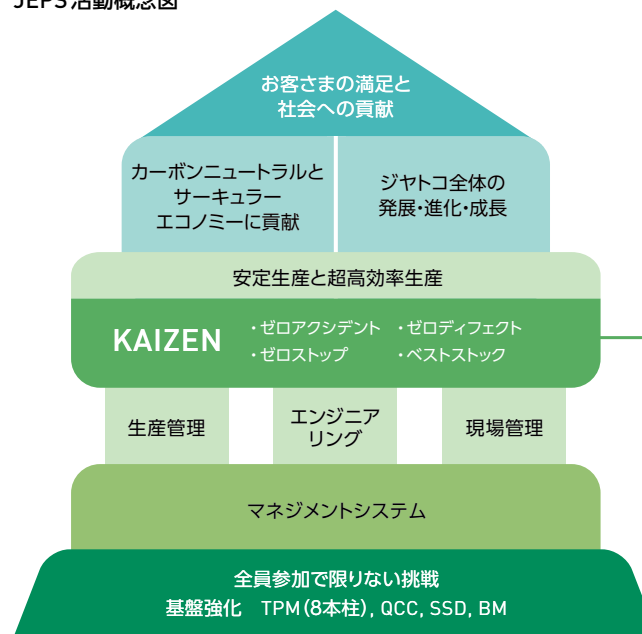
JEPSは、素材仕入から加工、そして組立から出荷に至るまで、タイムリーで柔軟な生産・運搬を行うことで、一切のムダを排除するシステムです。

より良い製品を安定的に生産し、安定的にお客さまに供給できる、超高効率な生産を目指します。

JEPSで競争力を強化!

JEPSの目指すべき姿は、競争力を向上させ、収益に貢献することです。そのためには、全員参加で基盤を強化し、4つのKAIZEN指標を定めて、終わりのない改善サイクルを回し続け、ジャトコの発展・成長とともに、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーを含めた社会への貢献を目指しています。

JEPS活動概念図



JEPS活動

SQTCE^{*1}すべての領域で競争力向上にチャレンジ

生まれの良いモノづくりの実現 (MP^{*2}サイクル)

量産後「品質リスク」を残さない品質設計と計画通りの結果を出す工程設計を進めます。

DXツール開発&活用による高効率寄与

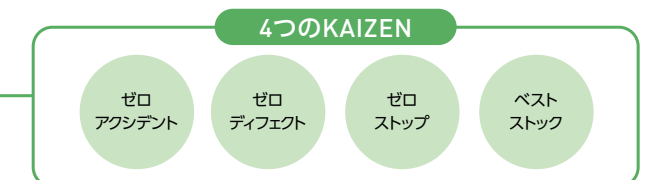
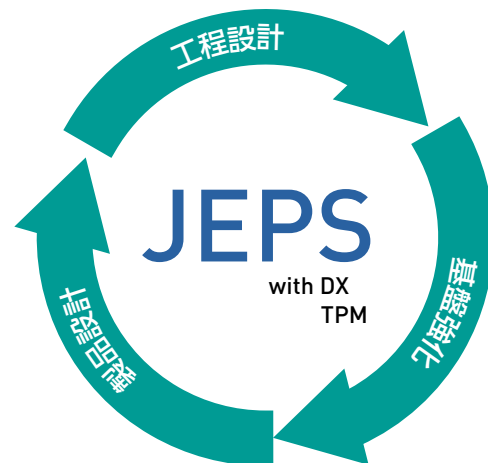
さまざまな停止ロスの最小化 (点検、測定、調整等) 問題の予知・予防、クイックアクションを行います。

全員参加TPMによる基盤強化で結果を出す

限らない改善の実行と設備に強い人材育成 (製造、保全、技術、品証、etc.) を行います。

*1 Safety, Quality, Time, Cost, Environment

*2 Maintenance Prevention



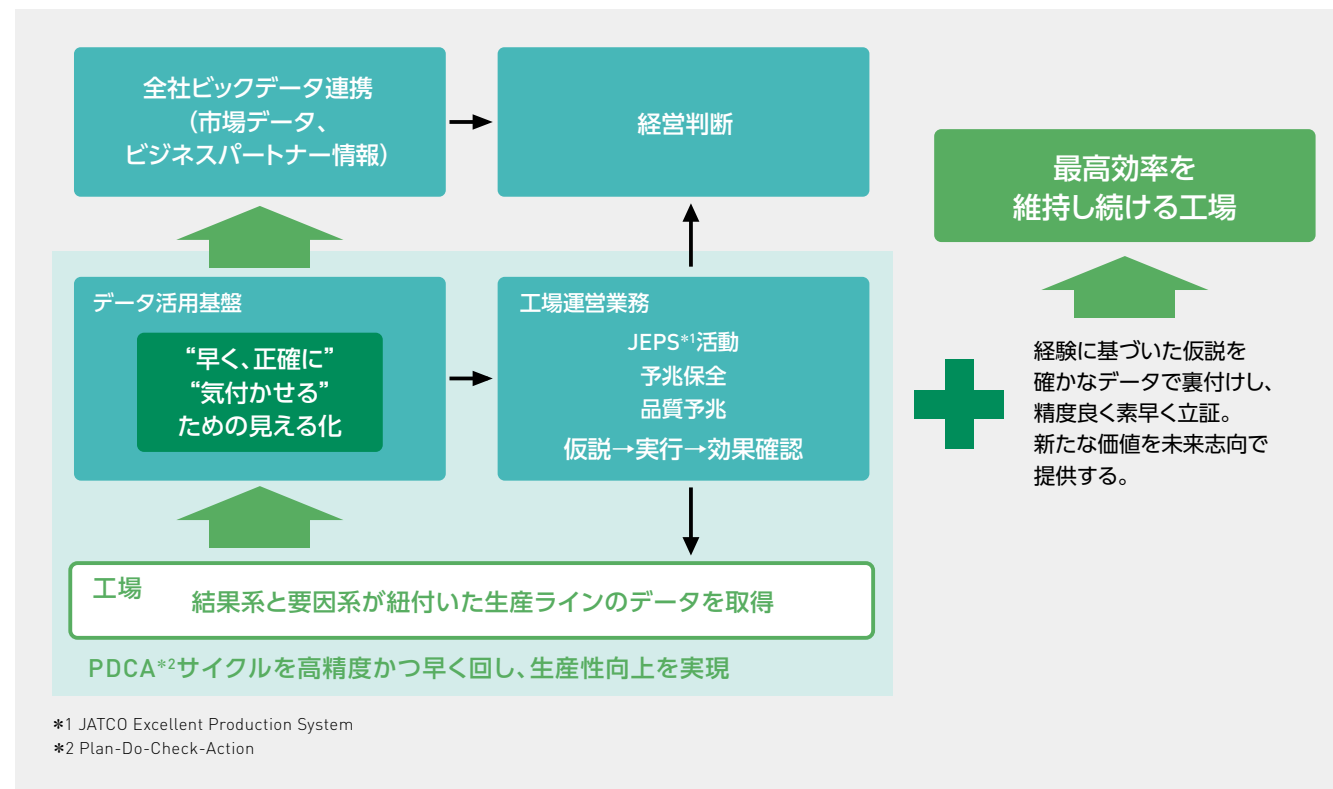
イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

モノづくりの考え方

スマートファクトリー化の実現

ジャトコは工場のスマートファクトリー化を推進しています。デジタルソリューション部を中心に、モノづくりのDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、生産性向上や省エネルギーを推進しています。

ジャトコのスマートファクトリー構想

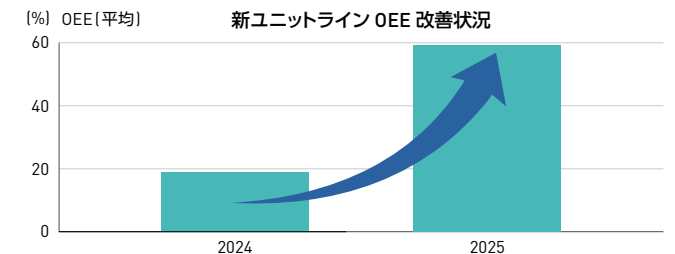


設備の稼働状況を可視化

ジャトコの工場は素材仕入れ、加工、組立、検査、出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同期させることで、一切の無駄を排除するシステムを組んでいます。途中で生じたエラーにより生産が止まれば次の工程、またその次の工程へと影響が出てしまいます。

そうした影響をなくすためにも、生産工程の設備状態を常時見えるようにすることで「止まらない工場」を目指しています。職場で発生した品質問題などを直ちに解決するQRQC^{*}を基本とし、稼働状況が一目で分かる稼働管理ソフトウェアを内製で作成。これにより、チョコ停や故障などの現象を素早く把握し対策を打つことで、生産ロスを減らすことが可能になりました。さらに、トレーサビリティデータを蓄積・分析することで、品質の安定化と未然の不良防止を実現。不良品の発生を事前に予測し、廃棄品削減と生産性向上の両立を図っています。新ユニットラインの立ち上げ段階から本内製システムを導入し、設備稼働状況を可視化することで、安定した生産体制の早期構築とOEE向上に貢献しました。ジャトコは究極の効率と品質を目指し、デジタル技術の幅を広げながらスマートファクトリーを実現しています。そして、1台のユニットを製造するために消費するエネルギーを最大限削減し、カーボンニュートラルの実現に寄与します。

設備総合効率(OEE)実績



* Quick Response Quality Control

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

モノづくりの考え方

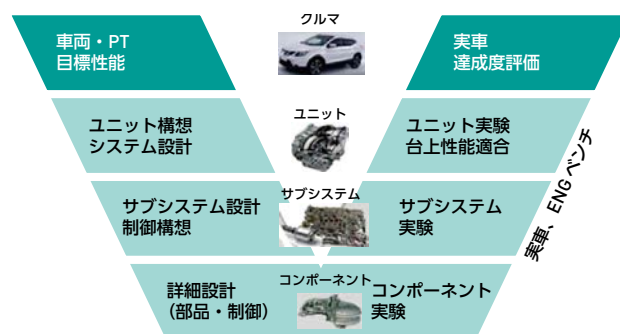
ジャトコの製品開発および生産準備のプロセスでは、初期段階から高精度かつ詳細な設計検討を行い、性能を作り込む「フロントローディング」を推進しています。

これにより、後工程での修正や実機による試行錯誤の繰り返しを抑制し、開発・生産におけるエネルギー効率の向上を図り、社会の環境負荷低減に貢献しています。

システムズエンジニアリングのVプロセスによる開発

多様化・高度化する製品への性能要求に対し、設計と実験の繰り返しを削減するため、システムズエンジニアリング(SE)のVプロセスの考えを導入しています。

Vプロセスにおける各システム階層での設計・検証にはMBD(Model Based Development: モデルベース開発)手法を活用しています。これは実際にクルマを走行させたときに各機能部品に発生する現象をコンピューター・シミュレーションで予測し、バーチャル評価を行うものです。



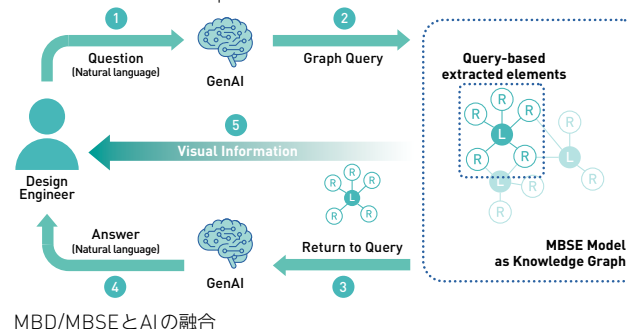
これらSEとMBDを組み合わせたMBSE(Model Based Systems Engineering)のアプローチにより、フロントローディングを推進し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

バーチャル評価とAI融合による環境負荷低減

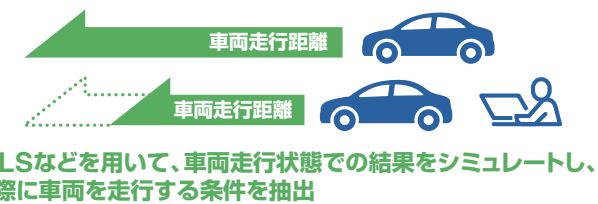
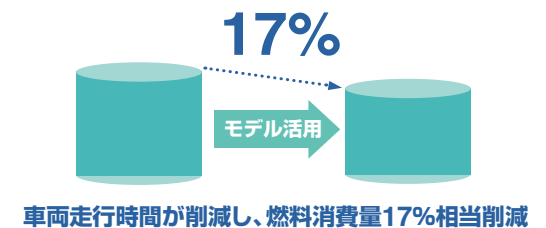
Vプロセスの実験プロセスでは、これまで実車で実験していたものをバーチャル評価(HILS*など)に置き換えています。また、新たに織り込む制御システムなどもバーチャル上で確認することで、実車に搭載した際に手戻りなく開発できるようになりました。これらバーチャル評価が進むことで、開発期間が短縮できることはもちろん、実車を使った実験が減り、試作品の削減や実験用燃料の削減など環境への効果もあります。

また、MBD/MBSEとAIを融合した手法に取り組み、情報抽出の効率化を図ることによって30%の時間削減が見込まれ、今後既存商品や次世代商品に適用し、開発期間の短縮だけでなくフィジカル実験の削減によるガソリン使用量の削減にも貢献していきます。

* Hardware In The Loop Simulation



バーチャル実験による効果例



世界一の開発効率を目指し MBD 推進センターなど外部団体へ参画

モノづくりの輪を広げ、日本の自動車産業の発展に貢献するため、ジャトコは、国内自動車メーカー、部品メーカーからなるMBD推進センターに参画しています。MBD推進センターでは、大学などが創出したモデルを自動車メーカーと部品メーカーがすり合わせ、同じモデルを開発に使用することで、自動車業界全体として、手戻りのない世界一の開発効率を実現することを目指しています。

このMBD推進センターに当社も参画することで、カーボンニュートラル対応等を含む自動車技術革新に貢献しています。



サステナビリティ マネジメント

ジャトコのサステナビリティ



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ジャトコのサステナビリティ

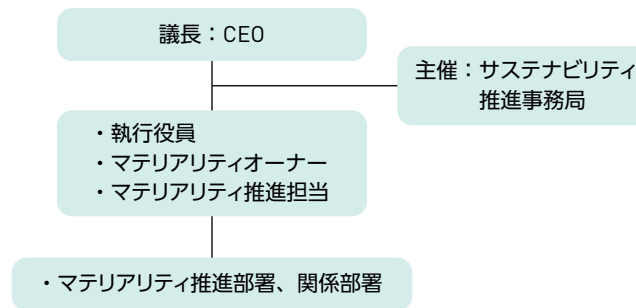
サステナビリティを価値創造の力に

「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というジャトコのパーパスには、モビリティは単なる移動手段ではなく、新たな出会いや経験を生み出し、一人ひとりの可能性を拓けるものであるという想いが込められています。私たちは、誰もが自由に移動できる社会の実現によって、人と人との交流が活性化し、新たな感動や価値が生まれることで、世界がより自由で豊かな場所になると信じています。ジャトコは、このような未来の実現を目指し、「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」という強い想いを胸に事業を展開しています。

パーパスの策定と時期を同じくして、私たちはサステナビリティを企業活動の中核に据え、18のマテリアリティ（重要課題）を定め、その実現に向けた活動を推進してきました。それぞれの課題について目標とロードマップを設定し、進捗状況のモニタリングと情報開示を継続することで、サステナビリティを着実に経営と事業活動へ組み込んできています。

また、2026年度からはCEOを議長とするサステナビリティ委員会を設置しました。委員会では、経営層と各部門が連携してマテリアリティへの取り組み状況や課題を共有するとともに、事業戦略との整合や将来に向けた方向性について議論しています。サステナビリティを特定部門の活動ではなく経営そのものとして推進する体制を強化し、企業価値の向上と社会価値の創出を一体的に進めています。

サステナビリティ委員会 体制



私たちを取り巻く環境は、気候変動、資源制約、高齢化、地域社会の変化など、ますます複雑化しています。こうした環境変化の中で企業に求められるのは、社会課題への対応にとどまらず、その解決を通じて新たな価値を生み出すことです。私たちは、社会課題の解決と経済価値の創出は決して相反するものではなく、持続的な成長を実現するための両輪であると考えています。

その考え方を具現化する取り組みの一つが、新規事業の創出です。当社では、パーパスの実現と社会課題の解決、そして長年培ってきた技術や知見を起点として、新たな事業機会の探索を進めています。

特に、マテリアリティの一つである「移動の可能性を拓けるソリューション」では、高齢化の進展や地域交通の課題など、移動を取り巻くさまざまな社会課題に着目し、自動車領域にとど

まらない新たな挑戦を進めています。移乗機構付き車いすや電動アシスト自転車向け、電動バイク向けのドライブユニットなどの開発を通じて、人々の生活をより便利で豊かなものにするとともに、移動に関する社会課題の解決に貢献する新たな価値の創出を目指しています。

事業環境の変化が激しく、多様で複雑な課題に直面する時代だからこそ、私たちは深化と探索を止めることなく、社会課題の解決と企業成長の両立に挑戦し続けます。そして最終的には、サステナビリティという言葉を超えて捉えるのではなく、すべての従業員が日々の業務の中で自然に実践し、自ら価値を創造する企業文化を育んでいきたいと考えています。ジャトコはこれからも、技術と情熱を原動力に、人々の暮らし、社会、そして地球のより良い未来の実現に貢献してまいります。



企画・人事部門長 執行役員
坂上 尚

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

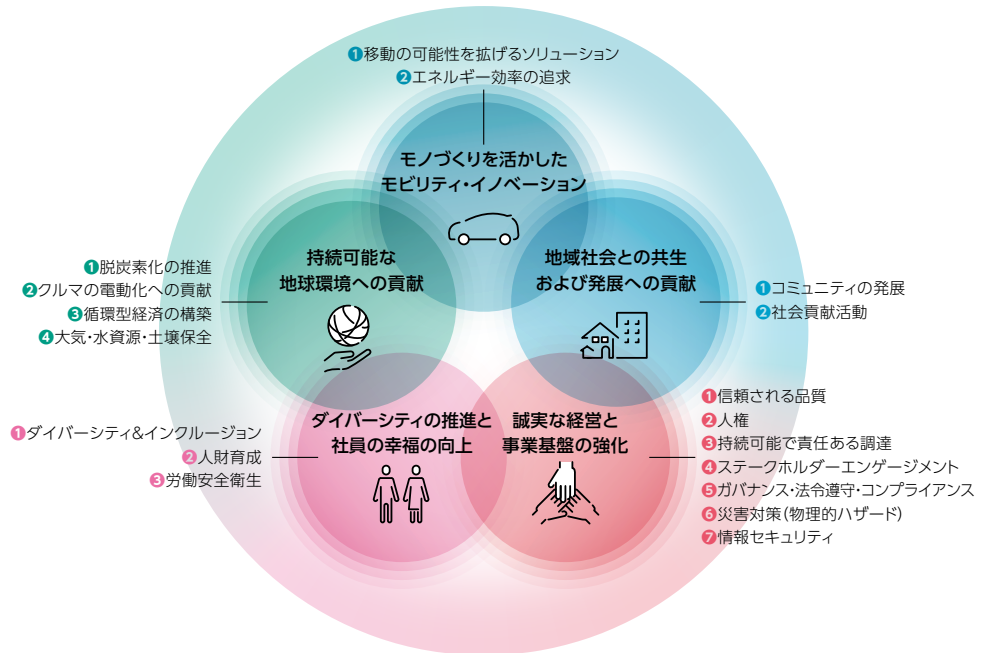
ジャトコのサステナビリティ

サステナビリティ基本方針

- 社会課題の解決**
 ジャトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というパーパスのもと、サステナビリティを経営の中核と捉え、あらゆる事業活動やその他の活動を通じて経済の発展に貢献し、社会課題の解決に取り組めます。
- 独自価値の提供**
 ジャトコは、革新的技術で独自の価値を提供することにより、クリーン、安全で快適でワクワクするモビリティが創造する社会の発展に貢献します。
- 社会との対話**
 ジャトコは、お客さま、従業員、ビジネスパートナーのみなさま、地域社会等、全てのステークホルダーとコミュニケーションをとりながら、持続可能な社会の実現を目指します。
- 従業員の主体的な取り組み**
 ジャトコは、全ての従業員一人ひとりがサステナビリティを意識し、主体的に取り組むことによって、企業としてサステナビリティの活動を推進し、レベルアップを図っていきます。

マテリアリティ（重要課題）

ステークホルダーのみなさまの関心と当社の成長の方向性を合わせるため、ジャトコは当社が優先的に取り組むべきサステナビリティのマテリアリティ（重要課題）として、5分野18項目を特定しました。これらの重要課題については、経営会議でも論議を行い、事業活動に織り込んでいくことにより、確実に取り組みを進め、企業価値の創出につなげていきます。



重点課題特定プロセス

ジャトコのマテリアリティは以下のプロセスで特定しました。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ジャトコのサステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）と目指す姿

中長期的な企業価値創出に向けて、マテリアリティごとに目指す姿を設定しています。

マテリアリティ(重点課題)		目指す姿	SDGs
持続可能な地球環境への貢献	脱炭素化の推進	「ライフサイクル全体」「生産」「開発」「環境活動」の4つの領域の取り組みで、2030年までにCO2 46%削減(13年比)、2050年までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現する。	
	クルマの電動化への貢献	トランスミッションで培った技術を活かし、競争力があり電動車両の商品力向上に寄与する電動パワートレインを提供することで、脱炭素社会の実現に向けた電動車両の普及に貢献する。	
	循環型経済の構築	地球環境保護と持続可能な社会への貢献を目指し、リペア/リユース/リビルト/リサイクルなど事業活動の様々なプロセスにおける効果的な資源循環の仕組みを構築することで、製品・サービスの新たな付加価値を、ステークホルダーに提供し続ける。	
	大気・水資源・土壌保全	生産活動において投入される資源や、外部に放出される物質の管理を徹底し、省資源・環境負荷低減に取り組むことにより、環境へのインパクトゼロを目指す。	
モノづくりを活かしたモビリティ・ソリューション	移動の可能性を広げるソリューション	革新的な独自の技術により、クリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービス実現の可能性を追求し、モビリティへの新しい価値を提供する。	
	エネルギー効率の追求	製品のエネルギー効率の向上や、車両全体のエネルギー効率改善に貢献する技術開発により、社会全体のCO2削減と環境負荷低減に貢献する。	
地域社会との共生及び発展への貢献	コミュニティの発展	ジャトコの技術やアセットを活かし、地域の活性化や課題解決に積極的にかかわることで、地域と企業が共に発展できる社会を目指す。	
	社会貢献活動	よき企業市民として、「環境」「社会」「福祉」を重点領域とする活動に従業員が積極的に参加することにより、社会課題の解決とよりよい社会の実現に貢献する。	

マテリアリティ(重点課題)		目指す姿	SDGs
ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上	ダイバーシティ&インクルージョン	従業員の多様な価値観と個性を尊重し、一人ひとりが活躍できる組織を実現し、そこから生まれる新しい発想で、お客さまと社会に新しい価値を提供する。そのために、女性や障がい者の活躍を促進する。	
	人財育成	従業員は会社の「財産」であるとの考えに基づき、一人ひとりが、成長を実感できる働きがいのある職場を実現する。従業員にあらゆる成長の機会を継続的に提供し、従業員と会社が共に成長する。	
	労働安全衛生	従業員が、安全、健康で生き生きと働ける職場環境を実現する。「安全絶対」で、災害火災のない職場づくり、安全に強い人づくりに、「健康経営」で、従業員のフィジカルとメンタルの健康の継続的な改善に取り組む。	
誠実な経営と事業基盤の強化	信頼される品質	お客さまの期待に応える製品品質と品質マネジメントを実現し、お客さまの信頼を獲得する。社員一人ひとりが高い品質意識を持ち、全社課題として取り組む。	
	人権	人権尊重を事業活動の基盤と認識し、社会に信頼される企業として全てのステークホルダーの人権を尊重し、適用される法令・基準を遵守する。全従業員がこの認識を共有し、最高の倫理基準に基づいて行動する。	
	持続可能で責任ある調達	ビジネスパートナーとの相互信頼を構築し、お互いの持続的な成長を目指す。サプライチェーンでの環境、社会に配慮したビジネスや、安定した部品・材料供給に向けた取り組みを実践する。	
	ステークホルダーエンゲージメント	主要ステークホルダーの関心事について積極的に対話を行い信頼関係を構築する。ステークホルダーの声を企業活動に反映することで、持続的な企業の成長と社会の発展を実現する。	
	ガバナンス・法令順守・コンプライアンス	企業理念や行動規程の浸透、「内部統制システムの基本方針」に基づく内部統制の維持・強化により、規律ある透明性の高い事業運営を行う。常に状況をモニターし課題に対応すると共に、定期的に従業員の教育を実施する。	
	災害対策(物理的ハザード)	企業活動の根幹を揺るがす様々なリスクを想定し、事業継続のための体制を構築する。定期的な訓練を実施し、継続的な課題解決を実施する。	
	情報セキュリティ	経営層から現場まで、セキュリティ規程を周知徹底する。情報資産の特定とリスク評価、最新の予防的セキュリティ対策の実装により、全従業員が責任感をもって、情報資産流出などのリスクに対応する。	

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ジャトコのサステナビリティ

社外からの評価・第三者認証

社外からの評価

 <p>EcoVadis 国際的なサステナビリティ評価 2026年3月「COMMITTED」 バッジ評価取得</p>	 <p>プラチナくるみん 2015年より連続認定</p>	 <p>健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門 ホワイト500 2019年より上位500社連続認定 ※3年連続で最上位 グループの「1-50位」</p>	 <p>スポーツエールカンパニー 2021年より5回目の認定</p>	 <p>自転車通勤推進企業 宣言プロジェクト 2025年に認定取得</p>	<p>マネジメントシステムに関する第三者認証</p> <p>環境マネジメントシステム 国内外の生産拠点において、環境マネジメントシステムの最新規格である「ISO14001：2015版」の認証を取得しています</p> <p>品質マネジメントシステム 国内外の生産拠点において、自動車産業向け品質マネジメントシステム「IATF16949」の認証を取得しています</p>
--	--	---	--	---	---

SDGs達成に向けた貢献

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ジャトコは世界共通の目標であるSDGsを支持し、その目標達成に貢献してまいります。2022年4月には、本社を構える静岡県富士市が掲げる「SDGs未来都市行動宣言」に登録するなど、SDGs未来都市「富士市」の実現に向けて行動しています。本レポートでは、SDGsとのつながりを示すため、関連する取り組みを記載したページにSDGsの各アイコンを掲載しています。





環境

持続可能な地球環境への貢献

環境マネジメント

脱炭素化の推進

クルマの電動化への貢献

循環型経済の構築

大気・水資源・土壌保全



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

環境マネジメント

ジャトコの環境方針

ジャトコは、環境活動を重要な経営課題の一つと位置付け、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。環境方針のもと、イノベーション、脱炭素、資源循環、汚染予防を重点領域とし、環境マネジメントシステムの継続的な改善を通じて環境性能の向上を図るとともに、グローバルに環境負荷低減活動を推進しています。

環境方針

全ての事業活動を通じて 持続可能な地球環境に貢献

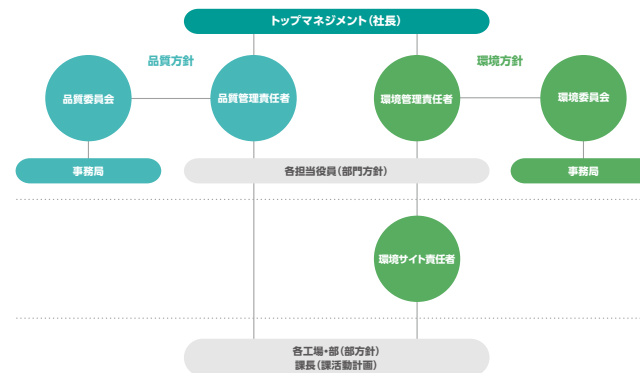
- イノベーション… エネルギー効率の高い商品と環境技術の開発及び生産
- 脱炭素 …………… 2050年にバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル達成
- 資源循環 …………… 資源を最大限に活用するサーキュラーエコノミーの推進
- 汚染予防 …………… 環境問題の未然防止及び法令の遵守
- 継続的改善 …………… 組織の人々の協働・共創による環境マネジメントシステムの有効性向上

環境マネジメントの推進体制

ジャトコの環境マネジメントは、各グローバルサイトに環境責任者、サイト責任者を任命し、各環境管理責任者の責任と権限のもと、環境マネジメントシステム (EMS) を推進しています。また2011年には、品質と環境のマネジメントシステムを統合しました。

ジャトコ全体のEMS推進は、各環境管理責任者、サイト責任者で構成される全社環境委員会で、総合的に審議と評価を行い、フォローする体制をとっています。すべての部門や生産拠点で全社共通のEMSを運用することで企業としてのベクトルを一元化し、環境マネジメントを強力に推進していることがジャトコのEMSの大きな特徴です。

ジャトコの品質・環境マネジメント推進体制



グローバルでISO14001を取得

ジャトコは、国内外のすべての生産拠点で、環境マネジメントシステムの最新規格である「ISO14001:2015版」を取得しています。ジャトコがグローバルに展開する生産拠点では、環境への負荷を最小限に抑えるために、日本の生産拠点と同様の環境保全策を展開しながら、各拠点独自のアイデアも積極的に実施しています。これからも環境への影響を抑えた生産を、世界の拠点で展開していきます。



グローバル全拠点で「ISO14001:2015版」を取得。（写真は一部）

ISO14001取得拠点



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

環境マネジメント

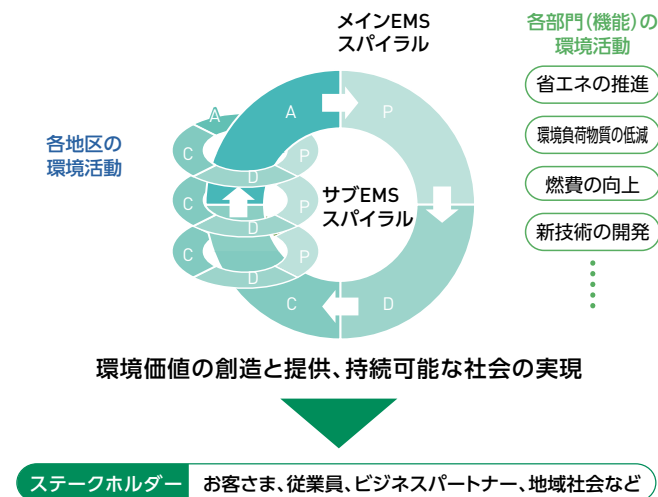
環境活動推進体制

地区別の環境委員会で地域にあった活動を推進

ジャトコでは地区別に環境委員会を設置し、その地域にあった環境活動を実施しています。

ジャトコ全体のPDCAサイクル（メインEMSスパイラル）と地区および部門ごとのPDCAサイクル（サブEMSスパイラル）という2種類のPDCAサイクルを相互に連動させ、各取り組みの方向性を統一し、より効果的な活動ができるよう継続的な改善を行うことで、ステークホルダーへの環境価値の創造・提供を目指しています。

ジャトコの環境活動概念図



中長期視点での環境課題への対応

地区ごとの環境マネジメントを行う、EMSの推進と並行して、中長期の環境課題への取り組みも進めています。社会情勢や事業環境の変化、企業理念や各種上位方針などとの関連において、ジャトコが取り組むべき環境課題について、現状把握、リスク分析、必要なアクションの検討を行い、実行につなげます。個々の課題について、ジャトコ全体を俯瞰しながら、社内を横断した企画・マネジメントを実施しています。また、海外拠点での環境活動の

企画・マネジメントなども連携しながら推進しています。

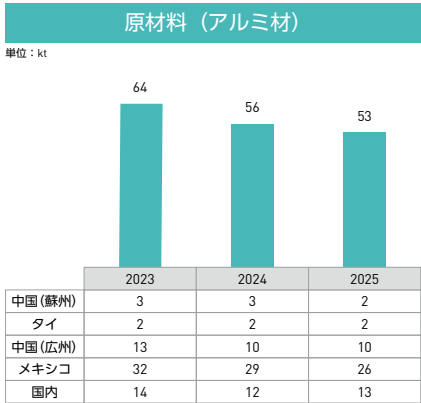
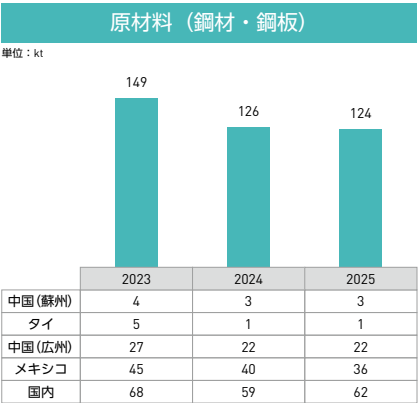
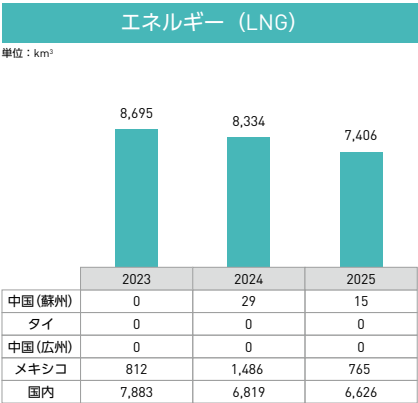
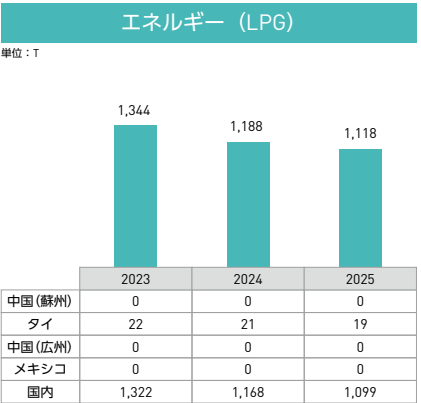
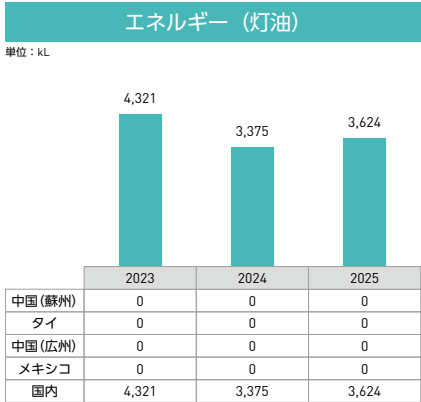
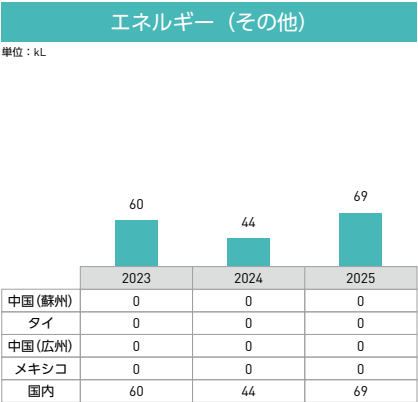
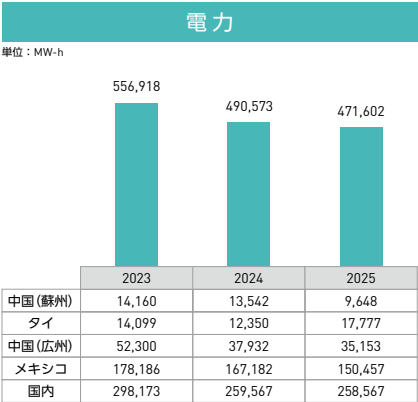
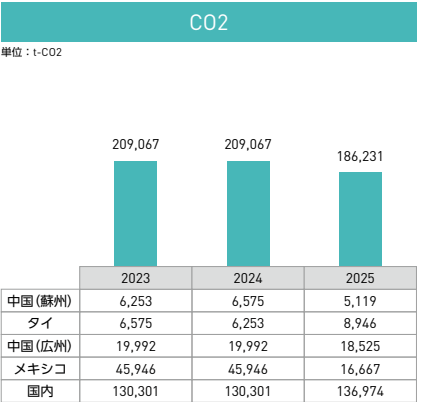
ジャトコでは環境課題への取り組みを8つの機能に分類し、それぞれの機能軸が連携して環境マネジメントを展開しています。特に、「脱炭素」「資源循環」「環境負荷低減（汚染防止）」は、最重要課題として、中長期の取り組みも強化しています。「地球温暖化防止」「環境保護」「資源の有効活用」という3つの分野での取り組みを強化しています。



環境マネジメント

マテリアルバランス

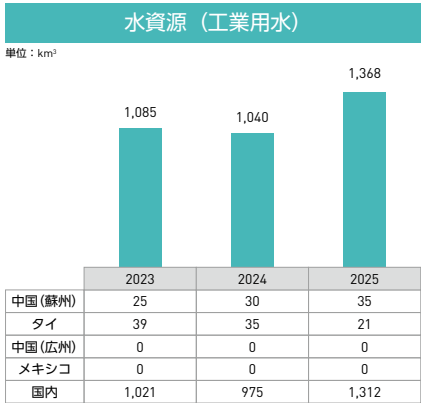
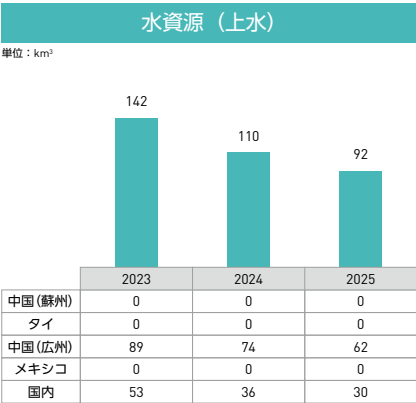
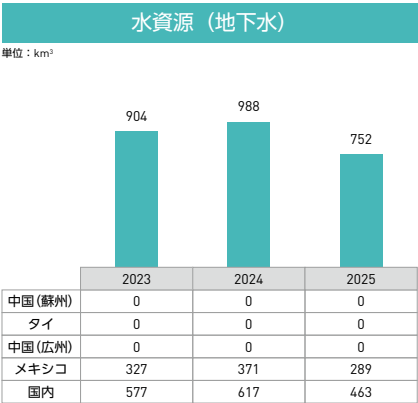
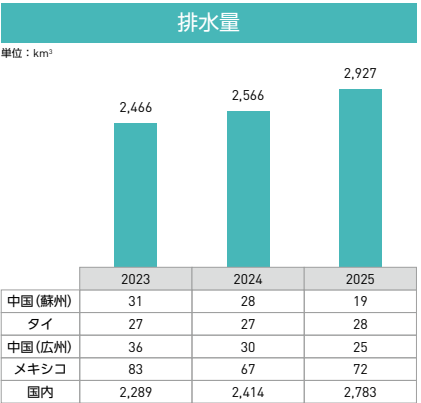
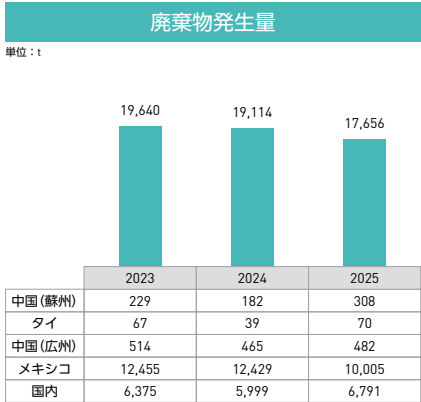
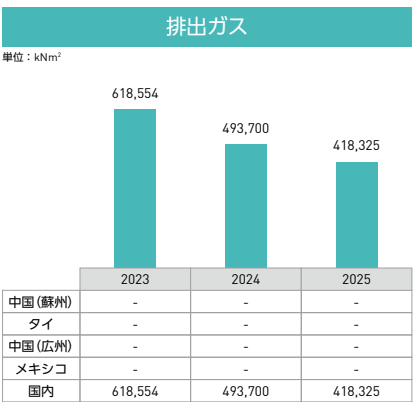
ジャトコは循環型経済形成を目指し、適切な資源の使用と排出量低減に取り組んでいます。



*国内：ジャトコ、ジャトコ プラントテック、ジャトコ ツール

環境マネジメント

マテリアルバランス



*国内：ジャトコ、ジャトコ プラントテック、ジャトコ ツール

環境マネジメント

PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減

ジャトコは年度ごとに環境負荷低減のための取り組み事項を「環境目標」として掲げ、その実現を目指しています。また、毎年度の取り組み結果を踏まえ、次年度以降の目標を設定することで、環境パフォーマンスの継続的改善を図っています。2025年度は環境関連の重大な法令違反や条例違反による行政処分は受けていませんが、社内で必要な措置と検討を行いました。

環境目的	項 目	2025年度目標	2025年度実績	評価	2026年度目標
環境マネジメントシステムの継続的改善	定期的レビュー実施	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	○	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）
	内部環境監査員の養成	必要人員	11名	○	必要人員
法規制の遵守、環境問題の未然防止	行政、官公庁からの指摘	指摘件数 0件	指摘件数 0件	○	指摘件数 0件
	著しい環境側面の維持管理	定期見直し実施率 100%	定期見直し実施率 100%	○	定期見直し実施率 100%
	環境法関連教育の実施	環境教育の実施（2回）	環境教育の実施（2回）	○	環境教育の実施（2回）
	環境事故防止	ABランク事故 0件 Cランク事故 2件	ABランク事故 0件 Cランク事故 3件	×	ABランク事故 0件 Cランク事故 2件
脱炭素	売り上げ当たり 換算 CO2排出量	42.9t-CO2/ 億円	41.3t-CO2/ 億円	○	35.9t-CO2/ 億円
資源の有効活用	廃棄物削減の推進 廃棄物総発生量の削減	1.982kg/ 売上億円	1.916kg/ 売上億円	○	1,910kg/ 売上億円
環境負荷低減に向けた技術開発	エネルギー効率（資源節約）に優れたトップレベル 製品の開発	各商品別 QCT KPIの目標達成率 100%	100%	○	各商品別 QCT KPI の目標達成率 100%
	商品の環境負荷物質管理と削減	商品への規制対象物質含有調査と法規制への対応状況の確認100%	100%	○	商品への規制対象物質含有調査と法規制への対応状況の確認

脱炭素化の推進



カーボンニュートラルへの取り組み

ジャトコは、2050年までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現することを目標に掲げ、「ライフサイクル全体」「生産」「商品開発」「環境活動」の4つの領域で取り組みを推進しています。

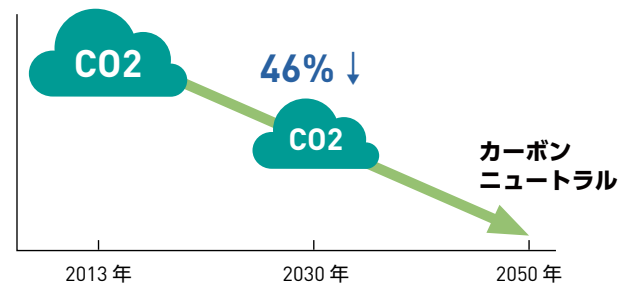
気候変動への対応が重要な経営課題となる中、当社はカーボンニュートラルの実現を全社の重点課題と位置づけ、CO2削減を全社KPIとして取り組んでいます。

生産における省エネルギーや再生可能エネルギー導入の拡大に加え、商品開発およびサプライチェーンにおいてもライフサイクル全体でのCO2排出低減を推進し、バリューチェーン全体での削減を進めています。当社は、脱炭素と成長の両立に取り組みながら、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

2030年までにCO2排出量

46%減*を目指す

*起点より



ライフサイクル全体での取り組み

自社でのCO2排出 (Scope1,2) だけでなく、原材料調達からリサイクルまで (Scope3) の環境影響も評価しCO2排出削減に努めます。



生産における取り組み

生産活動におけるCO2排出削減に向け、省エネルギー活動の深化や設備の高効率化、工程の最適化を推進しています。加えて、再生可能エネルギーの導入や電力の低炭素化を進めるとともに、エネルギー使用量の見える化により、全社で継続的な削減活動を展開しています。



商品開発における取り組み

既存商品の効率向上や次世代自動車向けの新商品開発を進め、CO2排出の低減に寄与します。



環境活動など包括的な取り組み

地域やNPO 法人との協働による環境活動など包括的な取り組みを強化し、よき企業市民としてもCO2削減に責任も果たしていきます。



カーボンニュートラル推進体制

カーボンニュートラル実現に向けた戦略策定や進捗確認のため、当社はサステナビリティ委員会のもと、マテリアリティ『脱炭素化の推進』に基づき、全社横断の脱炭素推進体制を構築しています。

4つの領域の各担当が参加し、マテリアリティオーナーを議長とし支援・意思決定による迅速な課題解決と全社活動の活性化を目指しています。

議長: マテリアリティオーナー

事務局: 経営企画・広報部

推進メンバー:

- ライフサイクル全体での取り組み
調達部門・営業部門
- 生産における取り組み
生産部門・品質部門
- 商品開発における取り組み
開発部門役員
- 包括的な取り組み
企画部門役員

2025年度 CO2排出量実績 (グローバル)

単位: t-CO2

拠点	Scope1	Scope2	計
国内	39,916	104,834	144,750
海外	2,199	47,180	49,378
計	42,115	152,014	194,129

脱炭素化の推進

ライフサイクル全体での取り組み

サプライチェーン領域（調達）

ジャトコは、サプライチェーン全体でのCN 達成に向けて、Scope3のカテゴリー1（購入した製品・サービス）におけるCO2排出量の見える化を推進しています。

私たちは、取引先様であるビジネスパートナーとの情報交換の場を設けることで、お互いの取り組みを共有しながら活動を促進しています。サポートが必要なビジネスパートナーには、随時お話を伺う機会を設けており、共に問題解決に向けた取り組みを行っています。

ジャトコはSBT 認証取得に向けて、ビジネスパートナーと協働しながら環境改善を進め、CO2排出量削減に努めています。持続可能な社会の実現に向けて、私たちは引き続き努力してまいります。



ビジネスパートナーとの情報交換の場

サプライチェーン領域（物流）

ジャトコは、部品輸送におけるCO2排出量低減を進めており、2013年から2025年までにCO2排出量を12%削減しました。

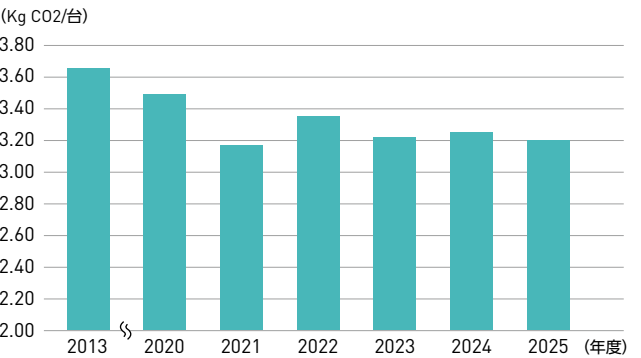
部品輸送に伴うCO2排出量を削減するために、日本国内のお客さまの理解を得ながらモーダルシフトを推進しています。

具体的には、2009年度より、広島方面（約780km）からジャトコの生産拠点がある静岡県までの調達部品の輸送を、トラックから鉄道輸送に切り替えました。この結果、83.3% のCO2削減効果をあげることができました。

また、2019年9月よりジャトコ富士地区から京都八木地区へのジャトコ生産部品の輸送にダブル連結トラックを導入し、高積載率での輸送を行うことによりCO2削減に繋がりました。

今後もモーダルシフトや積載効率アップにより環境にやさしい部品輸送に取り組んでいきます。

輸送におけるユニット当たりのCO2排出量



2025年度までに輸送におけるCO2排出量



物流からのCO2排出量

	単位	2023	2024	2025
合計	t-CO2	4,344	3,795	3,786
インバウンド	t-CO2	2,834	2,458	2,631
インターナル	t-CO2	1,422	1,223	1,031
アウトバウンド	t-CO2	88	114	124

荷量比率

	単位	2023	2024	2025
トラック	%	94.3	94.3	94.1
鉄道	%	5.7	5.7	5.9



鉄道輸送



ダブル連結トラック
 写真：(株) バンテック提供

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

脱炭素化の推進

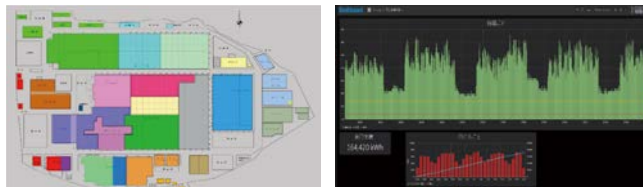
生産領域での取り組み

電力見える化ダッシュボードを活用した電力削減活動

約870t-CO2/年

工場の電力使用状況をリアルタイムで把握できる「電力見える化システム」を導入・活用しています。

本システムにより、土日等の非稼働時間帯における無駄な電力の可視化を行い、従業員の省エネルギー活動に役立てています。また、全従業員が社内ポータルサイトから担当エリアの電力使用状況を確認できるため、自主的な節電活動の促進と継続的なエネルギー使用量の削減に繋がります。

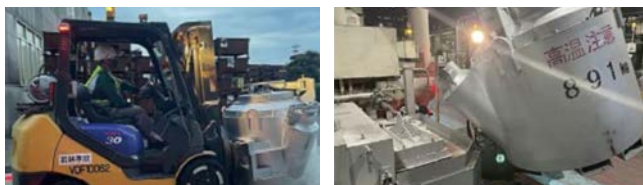


富士3地区鋳造工場
溶湯運搬寄せ止め

約820t-CO2/年

富士3地区では、各工場毎（第2鋳造・第3鋳造）に溶解炉があり、溶かしたアルミ（溶湯）はそれぞれの工場内でのみ使用していました。

今回ボット等の必要な機材を導入して、第2鋳造の溶解炉で溶かした溶湯を、第3鋳造まで運搬することを可能とすることで、寄せ止めによる効率化を図りました。

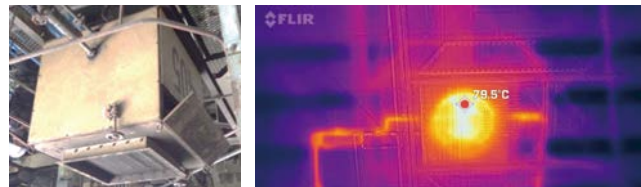


富士1地区
蒸気暖房の効率化

約327t-CO2/年

富士1地区では、工場暖房に使用する蒸気設備の運用改善を推進しています。

蒸気配管数量や供給圧力の適正化、運転方法の見直しにより、都市ガス使用量を約17%削減し、CO2排出量低減とエネルギー効率向上を実現しました。



熱処理炉
寄せ止め停止

約193t-CO2/年

工場の熱処理工程では、浸炭焼入れ焼戻し処理に関して、各炉の負荷率管理を行い、効率の悪い従来のガス浸炭炉を停止させて、真空浸炭炉への寄せ止め移行を進めております。

炉の効率的な稼働によるCO2排出量削減に取り組んでいます。



富士2・3・4・A地区
蒸気最適供給

約1,081t-CO2/年

富士2・3・4・A地区の蒸気は、2地区動力棟のボイラーにより一括で供給しているため、蒸気配管長は全体で約7km、最大8.4GJ/hの配管放熱ロスが発生してしていました。

今回4地区へ専用に個別ボイラーを設置することにより、2地区からの蒸気配管を撤去して、配管放熱ロス低減を図りました。



八木地区構内駐車場
ソーラーカーポート

約521t-CO2/年

ジャトコでは再生可能エネルギー導入として、京都八木工場の構内駐車場へ太陽光PPAモデル（電気購入契約）にてソーラーカーポートを設置しました。

事業所で消費されている電力の約2.8%を賄える予定です。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジヤトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

脱炭素化の推進

開発における取り組み

電動パワートレインX-in-1の共同開発と生産開始

ジヤトコは電気自動車(EV)用の電動パワートレイン「X-in-1」を日産自動車と共同開発・生産し、脱炭素に貢献しています。

包括的な取り組み(環境活動等)

日産リーフバッテリー再利用、太陽光発電外灯

富士1地区・本社地区外灯設備を太陽光仕様へ変更し、商用電力ゼロによりCO2ゼロ化しました。

CO2削減効果は0.8t-CO2/年・台となっており、蓄電池は日産リーフの使用済みバッテリーを再利用しサーキュラーエコノミーにも貢献。

非常時には着脱可能で災害用ポータブル電源(容量140,000mAh)として使用可能となっています。



富士本社に設置中の太陽光発電外灯

富士市ゼロカーボンシティに向けたパートナー協定

2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「富士市ゼロカーボンシティ」実現のため、2023年10月に富士市と「パートナーシップ協定」を締結しました。富士市には温室効果ガス排出量の削減目標や成果を報告しています。また、ジヤトコの活動は、市内の小学4年生向けに配布される地球環境啓発冊子「こどもゼロカーボンチャレンジ」にも掲載されています。



「こどもゼロカーボンチャレンジ」

富士市ゼロカーボンシティ締結式

グリーンカーテンプロジェクトの実施

京都八木地区では、「グリーンカーテンプロジェクト」と題し、工場建屋につる性の植物を絡ませることで、直接日光を遮断。日差しを遮ることで、放射熱の発生と侵入を抑えています。



省電力機器の利用と消費電力の見える化

富士地区の事務棟には会議室のCO2排出量が一目で分かる工夫を凝らし、省エネ意識を向上させる活動を進めています。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

クルマの電動化への貢献



独自技術を生かした電動化商品の投入

ジャトコはCVT・ATのメーカーとしてこれまで1億3,000万台以上の製品を世に送り込んできました。一方で、10年以上前から電動化時代に備えてノウハウを積み重ねてきました。2010年に世界で初めて1モーター 2クラッチシステムを採用したFR ハイブリッド車用トランスミッション、JR712Eを開発。さらに、電動車向けのモーターやギアボックスの供給も開始しました。2025年からはギア・モーター・インバーターを一体化したX-in-1の市場投入のため、富士地区での生産ラインを立ち上げました。今後も競争力のある電動パワートレインの開発・製造により、脱炭素社会の実現に貢献します。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

クルマの電動化への貢献

2033年までの電動車両向けユニット年産500万台へ着実に準備

ジャトコは電動車両向けユニットの年間生産台数を2033年に500万台にする目標を掲げています。2025年度より、日産自動車様と共同開発してきた電動パワートレイン「X-in-1」の量産を行っています。我々は、この量産立ち上げを着実にいき、性能と品質で日産車の競争力と魅力を上げることに貢献していきます。

電気自動車用：3-in-1

「3-in-1」は2025年発売の新型「日産リーフ」、2026年後半発売の三菱「エクリプス スポーツバック」に搭載され、効率的なエネルギーマネジメントや優れた走行性能を実現します。

3-in-1（電気自動車用）



「日産リーフ」



画像出典元 日産自動車株式会社

三菱「エクリプス スポーツバック」



画像出典元 三菱自動車株式会社

e-POWER用：5-in-1

「5-in-1」は、第3世代e-POWERの高い性能を担う中心的電動ユニットで、2025年から欧州の「キャシュカイ」、2026年には日本市場向け新型「エルブランド」、新型「キックス」、北米向け新型「ローグ」に搭載されました。

5-in-1 ハイブリッド(e-POWER)用



第3世代e-POWER搭載車ラインナップ

「キャシュカイ」



画像出典元 日産自動車株式会社

「キックス」



画像出典元 日産自動車株式会社

「エルブランド」



画像出典元 日産自動車株式会社

「ローグ」



画像出典元 日産自動車株式会社

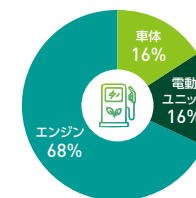
e-POWERの進化

第3世代e-POWERでは以下5つの構成部品を一体化した5-in-1 e-POWER電動ユニットと発電特化型エンジンにより燃費と静粛性が大幅に向上しました。



画像出典元 日産自動車株式会社

燃費向上寄与度

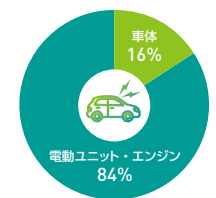


燃費：高速
15%向上

モード平均
9%向上

画像出典元 日産自動車株式会社

静粛性向上寄与度



静粛性
5.6 dB低減 車室内騒音レベル

画像出典元 日産自動車株式会社

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

クルマの電動化への貢献

ジャトコ独自開発の超小型 e-Axle

ジャトコはオリジナルの e-Axle の研究開発も進めています。ノートパソコンに隠れるほどの超小型サイズでありながら十分な出力を発生するこのユニットは、業界トップクラスのサイズ効率を誇ります。e-Axle の独自開発において、高出力密度化(小型化)は最重要課題の一つです。多くのお客さまの車両に載せられるサイズであることから、ビジネスチャンスが広がると考えています。

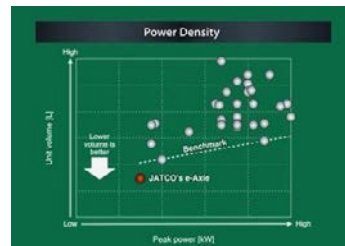
高出力密度化に(小型化)挑戦

e-Axle の高出力密度化は、単なる小型化、つまりサイズダウンにとどまらず、車両全体の軽量化や資源の効率的活用を実現し、車両設計における自由度を大幅に向上させます。電気自動車への移行に伴い、バッテリー搭載による車両重量の増加は避けられません。この重量増のため車両タイプによっては必要な駆動力の増大が求められ、前後両軸に e-Axle を配置する必要性が高まります。e-Axle の高出力密度化は、この課題のソリューションにもなります。



次世代技術者の育成も視野

さらに、次世代技術者の育成も重要な視点として、この試作ユニットを実車に搭載し、実走行テストによる性能検証の機会を積極的に設けています。ユニットテストカーには、前後両軸にユニットを搭載。実践的な取り組みを通じて技術者が経験を積むことで、将来を見据えた高度な技術力を確実に蓄積し続けています。



ラインナップ拡充目指す

このように、電動化としては、まず X-in-1 で電動化事業をしつかりと芽吹かせてメインボリュームゾーンの車両をカバーし、中長期的には小型化の技術開発などを通じて将来的なラインナップ拡充を目指します。今後も引き続き強力に電動化を推し進めていきます。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

循環型経済の構築



メッセージ

環境保護やSDGsへの関心の高まりを背景に、国際的な環境規制の強化や資源枯渇リスクへの対応が求められる中、自動車産業は、従来の消費型経済からサーキュラーエコノミーへの歴史的な転換期を迎えています。この転換は、自動車産業の持続的な成長に不可欠なものであり、当社もその一員として、責任を持って変革を推進していきます。

当社はこれまでも、「循環型経済の構築」を重要課題（マテリアリティ）として位置付け、資源依存の低減を目指しながら、製造工程における廃棄物の削減と再資源化に取り組んできました。また、リビルト事業や補修用部品供給事業を通じて、製品の長寿命化と資源の有効活用を推進しています。

今後は、社会的要請や環境規制の高度化を見据え、サステナブル材料の活用拡大を進めるとともに、リユースやリサイクルを含む資源循環の仕組みを加速していきます。

また、社外パートナーとの共創を通じて循環価値を創出し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



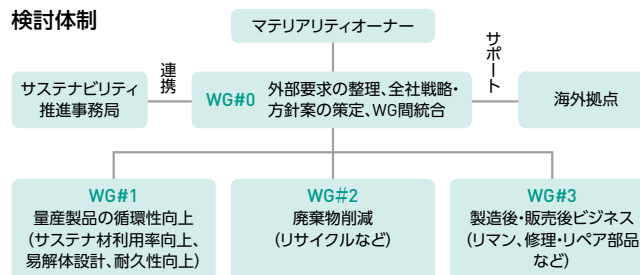
執行職 CTO
大曾根 竜也

ジャトコのサーキュラーエコノミーの考え方

ジャトコは、製品を長く使い、資源を無駄なく活用することで、資源循環を目指しています。

これまで、CVT・ATのリビルト事業や補修用部品供給、生産現場における廃棄物削減と再資源化を通じて、資源の有効活用に取り組んできました。

今後は、サステナブル材料の活用や循環配慮設計、資源循環を支えるデータ基盤の強化を進め、製品ライフサイクル全体で資源効率の向上を目指していきます。



廃棄物対策への取り組み

分別の徹底で廃棄物を再資源化

ジャトコでは、資源を効率的かつ持続的に利用するため、徹底した分別による再資源化に努めています。廃棄物処理方法として単純焼却処分や埋立処分を打ち切り、マテリアルリサイクル（再生利用）やサーマルリサイクル（燃料化）を実施することにより、日本国内の事業所では生産段階における廃棄物の再資源化率 100%を達成しています。

再資源化率

100%達成

範囲：日本

全員参加による廃棄物削減活動

ジャトコ従業員は常に、3Rの視点で廃棄物削減に取り組んでいます。

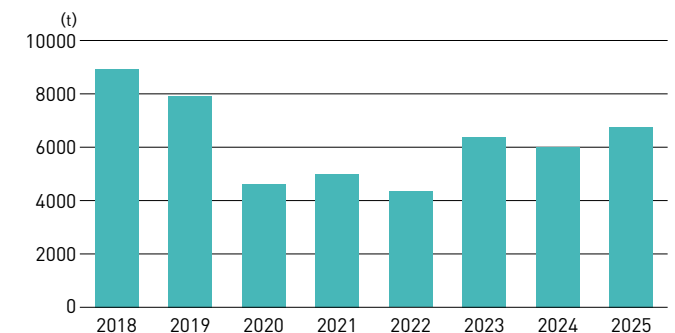
各事業所で廃棄物総量削減の目標を立て、各職場が実施した取り組みのアイデアを登録することで、廃棄物削減情報の共有化と職場ごとのモチベーションの向上を図っています。2025年の廃棄物量は、6,791tで2006年に対し65.6%削減されました。

2025年度の廃棄物総量

65.6%削減

(2006年度比)

廃棄物発生量実績



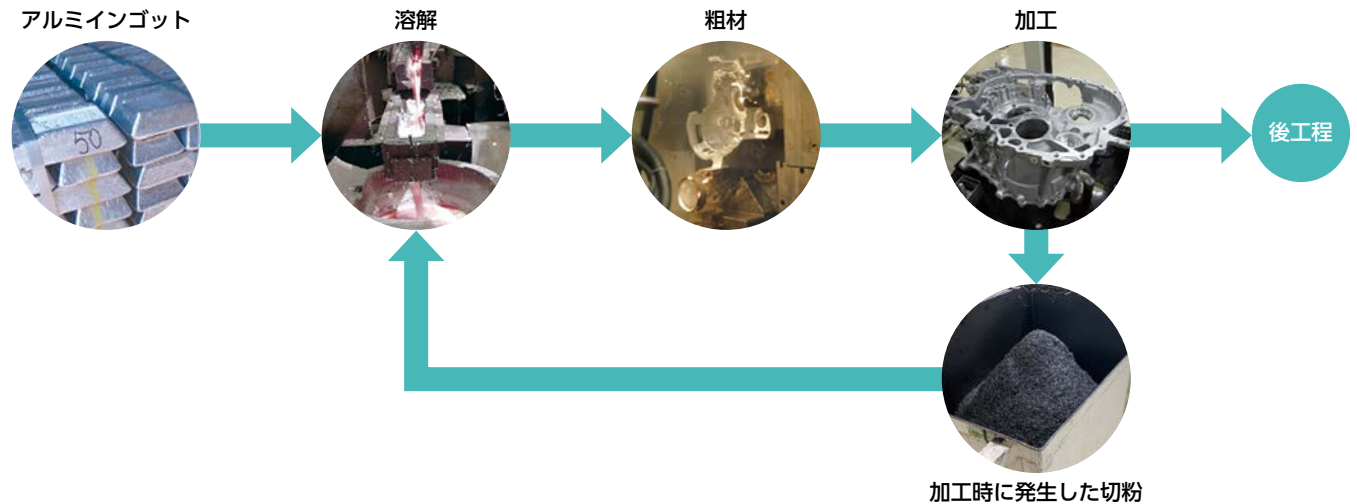
イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

循環型経済の構築

アルミ廃材のリサイクル

生産過程においてアルミ粗材を切削加工する際、アルミの削りカス=切粉が発生します。

ジャトコではこれら発生した切粉を自社で回収し再度溶解、不純物を取り除いた後、粗材加工工程を経て製品として再利用しています。アルミ切粉をリサイクルすることで、新規資源投入の削減、廃棄物削減だけでなく、省エネルギー・温室効果ガス（CO2）排出量の削減に貢献しています。



サーマルリサイクルから マテリアルリサイクルへの転換

従来、部品梱包用廃棄ビニールは、産業廃棄物処理パートナーを通じてRPF化（固形燃料）し、サーマルリサイクル（熱回収）を行っていました。

新たに樹脂製品資源化パートナーとの連携により分別ルールを見直し、ポリエチレン製梱包ビニールのマテリアルリサイクル（材料リサイクル）を実現しました。

現在は一部の製造ラインで運用していますが、今後は全社展開を進め、さらなる資源循環の推進を目指します。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

循環型経済の構築

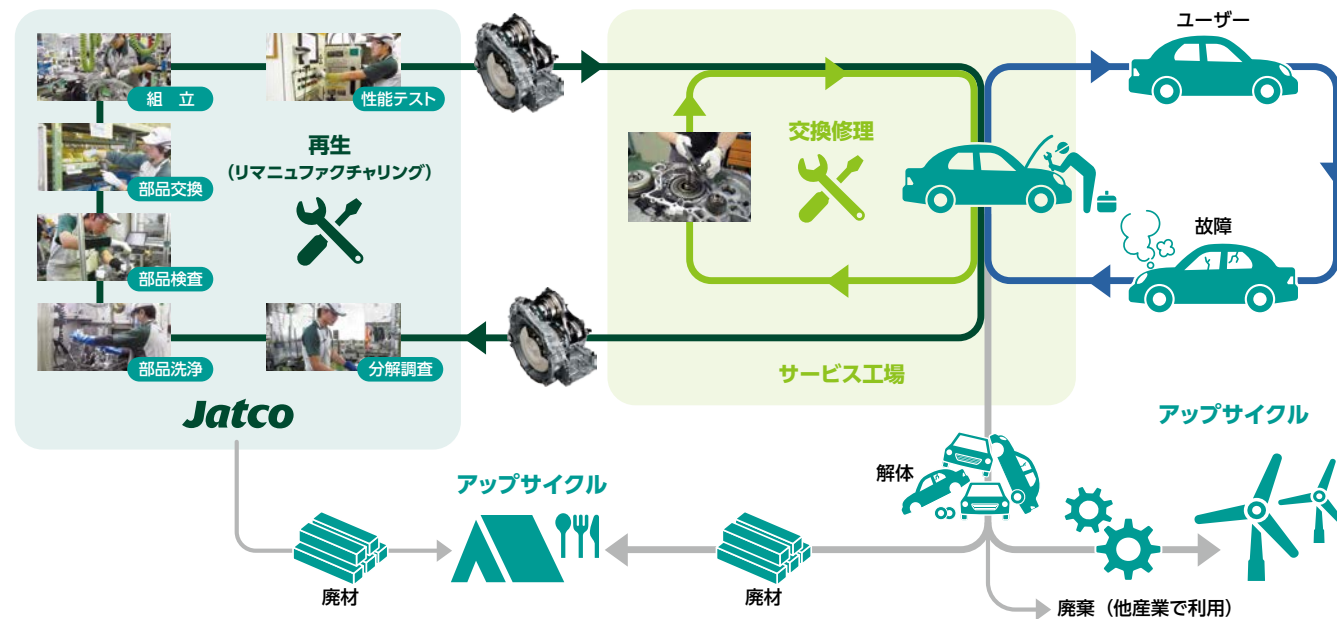
ユニット修理・再生への取り組み

ジャトコは、資源依存の最小化、廃棄物削減の観点から、市場に出たユニットの修理技術の開発や、リユース事業に取り組んできました。当社製 CVT・AT が故障した場合は、まず故障部位を特定し可能な限り、その場で故障部品の交換修理を行います。

部品交換が困難な場合は、ユニットを回収し、分解調査、洗浄、検査、交換、組立、性能テストを経て、新品と変わらない品質のアフターサービス部品として再生し、お客さまに提供します。

また、CVT・ATとしての再生が困難なユニットは、材料としての再利用を進めます。

これらの活動でアップサイクルを含めた、ユニットや部品の再利用の更なる可能性を探索し、サーキュラーエコノミーの効果的な仕組みの構築に取り組んでいきます。



2023-25 年度グローバル出荷実績

修理用部品： 65,500 台

再生ユニット： 119,000 台

アップサイクルの取り組み

中型陸上風力発電機における発電用増速機（ナセル）

使用済み日産リーフのモーターやインバーターなどを陸上風力発電用の増速機（ナセル）へ再利用を検討中。



発電用増速機（ナセル）

アウトドア用エコナイフ「ARUNEMO」

自動車用トランスミッション製造時に出る端材を活用して製作。富士市を拠点とする木材と革製品のメーカー2社とも連携し、地域活性化にも貢献。



エコナイフ「ARUNEMO」

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

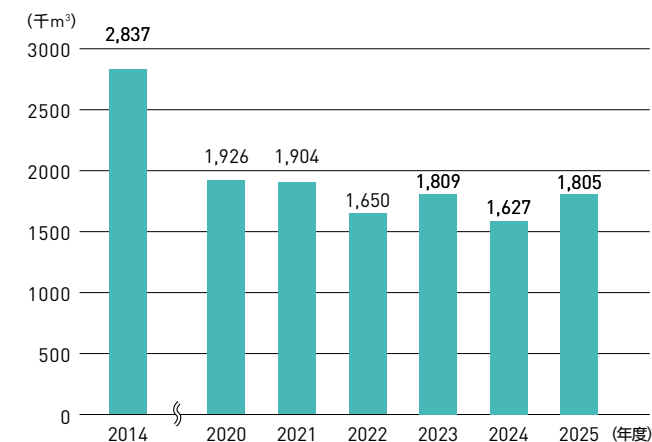
大気・水資源・土壌保全



毎年2%の水削減が目標

ジャトコは工場での生産に伴う水使用量を把握し、削減への取り組みを進めています。親会社である日産自動車株式会社が策定した「ニッサン・グリーンプログラム」に則り、地球規模の水枯渇対策として2014年度から本格的に水使用量の削減に取り組んでいます。毎年2%削減することを目標に置き、2025年度は生産増加に伴い2014年度比63.6%の削減となりました。

水使用量



高水準の浄化を継続的に維持

排水にあたっては国や市町村の基準を遵守するのはもちろん、それ以上に厳しい社内基準を設けて浄化を実施しています。各地区の特徴に応じて、活性炭吸着法、限外ろ過法、高速凝集沈殿法、接触酸化法、砂ろ過、加圧浮上などの施設を組み合わせることで、高水準の浄化を継続的に維持しています。

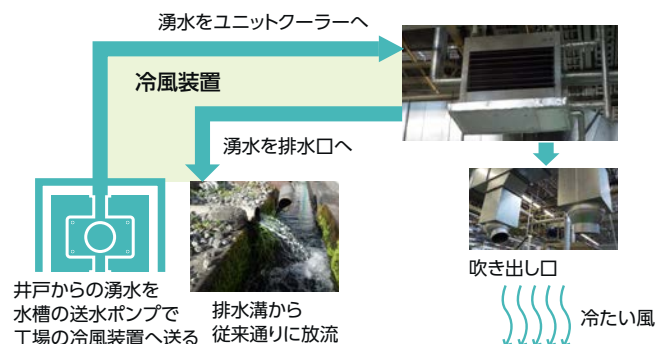
また、国内の各事業所では水道の蛇口に節水バルブを取り付け、水使用量削減に取り組んでいます。



水処理設備

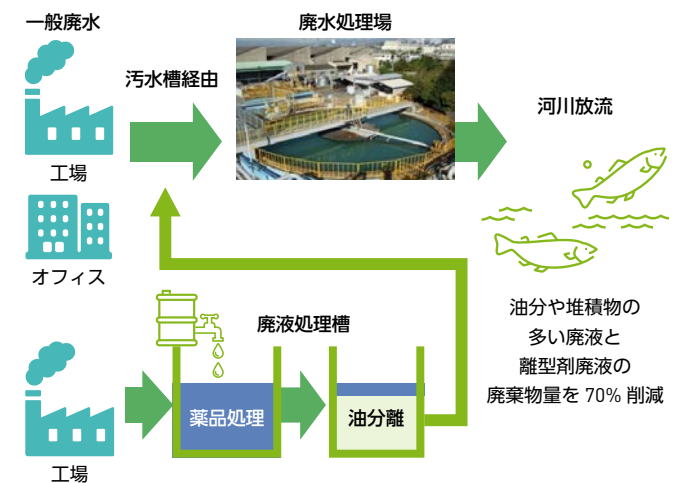
富士山湧水クールファン

富士山麓に位置する富士第1地区工場は敷地内に湧水がわいています。従来は排水溝から放流していましたが、湧水の温度が1年中15-17℃を維持するため、工場内の冷風装置を経由し、天然のクーラーとして活用しています。



工場の廃液を削減

工場やオフィスから排出される汚水は、社内の水処理施設に送られ安全な水に処理してから河川に放流しています。しかし、油分や堆積物の多い濃廃液や離型剤廃液は水処理施設で安全な水質に処理できないため、廃棄物として外部で処理していました。そこで使用薬剤や浄化方法の見直しを繰り返し行い、濃廃液と離型剤廃液の社内での処理が可能となりました。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

大気・水資源・土壌保全

冷却水循環装置の導入で排水を再利用

ジャトコでは、生産設備の冷却や洗浄・切削油の希釈に使用している水の浄化のため、冷却水循環装置を導入し、排水の再利用を推進しています。



鑄造設備の冷却水循環装置

水リスク管理と法令遵守の推進

ジャトコでは、環境事故防止パトロールを実施し、雨水排水系統、油水分離槽、排水処理設備、各種タンク・配管を対象に潜在的な流出リスクを評価しました。その結果を踏まえ、環境側面評価の見直し、定期点検の強化、緊急遮断手順の整備、従業員教育を実施するとともに、連続監視設備や自動遮断弁の導入検討を進めています。今後も河川や土壌への汚染防止に努め、水質関連法令の遵守と地域環境の保全を継続して推進していきます。水リスクの低減と法令遵守の徹底に取り組んでいます。



環境事故防止特別監査での確認

持続可能な水資源の大切さを学ぶ

一般公開しているジャトコ工場見学では、排水浄化の重要性や仕組みについて子供たちに学んでもらう場を設けています。実際のデモンストレーションを交えながら、子供たちの学びを深め、若い世代に持続可能な環境についての理解を促し、環境保護意識を育てることを目指しています。



小学生向け工場見学での実験の様子

大気汚染軽減の取組み

ジャトコでは熱処理連続炉へのリジェネバーナー採用を進めております。リジェネバーナーは、燃焼過程で発生する熱エネルギーを効率良く回収し、再利用する装置です。この技術を連続炉へ取り込むことで、エネルギーの消費を抑えるだけでなく、排出される煙やガスの温度を下げ、結果として有害物質の排出量を減少させることができます。私たちは、環境保護と経済成長を両立させるため、今後も持続可能な技術の社内推進を進めて参ります。



リジェネバーナー装置

大気・水資源・土壌保全

化学物質の管理活動

揮発性有機化合物の管理

揮発性有機化合物（VOC）対策は、一般社団法人日本自動車部品工業会（JAPIA）の行動計画に基づき、2010年度までに全VOC排出量を30%削減（2000年度比）することを目標とした活動を実施しました。その結果、2006年度までに98%削減することができ、2010年度には99%を達成、2025年度も99%を削減しました。



土壌汚染・地下水汚染対策

土壌・地下水汚染対策として、有機塩素系溶剤の使用を全廃し、現在は過去の有機塩素系溶剤の使用履歴と環境への影響をモニタリングしています。

有害大気汚染3物質の削減

有害大気汚染3物質^{*1}の排出量については、2006年度に100%削減を達成し、2025年度も維持しています。

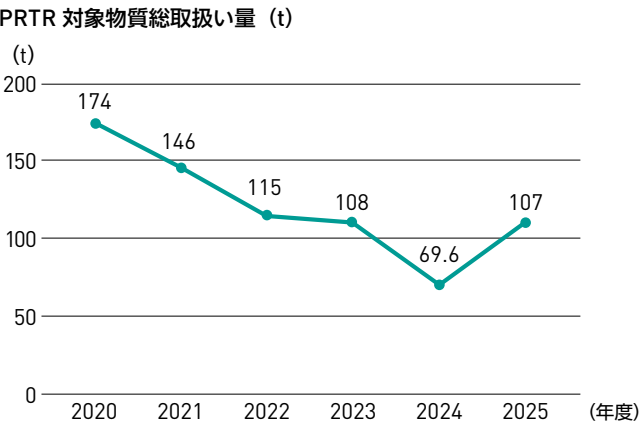


PRTR^{*2}対象物質の管理

ジャトコが取り扱う、PRTR 対象化学物質の国内生産拠点合計の排出量と移動量は下表の通りです。

区分	科学物質名	取扱量	排出量			移動量
			大気	水質	土壌	
特定第一種	ダイオキシシン	0	53.9	0	0	0
	ベンゼン	0	0	0	0	0
第一種	エチルベンゼン	0	14	0	0	0
	キシレン	35,300	17.2	0	0	0
	トリメチルベンゼン	63,600	2.8	0	0	0
	ノルマル-ヘキサン	570	67	0	0	0
	トルエン	3,500	216	0	0	0

単位：kg（ダイオキシシン類はmg-TEQ/Nm³）
*1 有害大気汚染3物質：ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン
*2 PRTR：Pollutant Release and Transfer Register の略。特定化学物質の環境への排出量の把握 および管理の改善の促進に関する法律



生産拠点別環境 大気データ（2025年度実績）

対象：国内生産拠点
規制値：法・条例・協定のうち、最も厳しい値を表記
測定値：最大値を表記（同じ設備が複数ある場合は、最も厳しい規制値を持つ設備の数値を記載）

NOx：窒素酸化物 SOx：硫酸酸化物 TSP：浮遊粒子状物質

	施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
					最大	平均
富士地区	小型ボイラー（22基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.004	0.00003
		NOx	ppm	100	55	27
		SOx	Nm ³ /h	0.002	0	0
	金属加熱炉（16基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.01	0.002
		NOx	ppm	150	22	13
		SOx	Nm ³ /h	0.018	0	0
	鋼材加熱炉（4基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.003	0.001
		NOx	ppm	150	8	5
		SOx	Nm ³ /h	0.026	0	0
	アルミ溶解炉（11基）	ばいじん	g/Nm ³	0.06	0.0035	0.01
		NOx	ppm	150	42	13
		SOx	Nm ³ /h	0.019	0.0051	0.00046
	乾燥炉（1基）	ダイオキシシン	ng-TEQ/Nm ³	5	1.2	0.397
		ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.01	0.009
		NOx	ppm	56	21	19
	乾燥焼却炉（1基）	SOx	Nm ³ /h	0.0048	0	0
		ダイオキシシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.0000036	0.0000036
	乾燥焼却炉（1基）	ダイオキシシン	ng-TEQ/Nm ³	5	0.0000026	0.0000026

	施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
					最大	平均
富士宮地区	小型ボイラー（6基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0	0
		NOx	ppm	100	87	80
		SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0
	金属加熱炉（3基）	ばいじん	g/Nm ³	0.05	0.035	0.0165
		NOx	ppm	150	58	18
		SOx	Nm ³ /h	0.01	0	0

	施設名	項目	単位	規制値 (協定値含)	実測値	
					最大	平均
八木地区	連続浸炭炉	ばいじん	g/Nm ³	0.1	ND	ND
		NOx	ppm	150	55	28
		SOx	Nm ³ /h	5	ND	ND



事業

モノづくりを活かした モビリティ・イノベーション

移動の可能性を広げるソリューション

エネルギー効率の追求



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

移動の可能性を広げるソリューション



「モビリティの可能性を広げる」 アントレプレナーシップの醸成

ジャトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を広げる」というコーポレートパーパスのもと、長年培ってきた技術と知見を活かし、人々の移動に新たな価値を提供する取り組みを進めています。社会課題やお客様ニーズが多様化し、モビリティに求められる役割も変化する中、私たちは従来の自動車分野にとどまらず、自転車やパーソナルモビリティをはじめとする新たな領域へ挑戦の幅を広げています。こうした挑戦を支える原動力が、社員一人ひとりのアントレプレナーシップです。自ら課題を見つけ、新たな価値の創造に向けて挑戦する企業文化を育むため、社内ビジネスコンテストや共創活動などの取り組みを継続的に展開しています。生まれたアイデアは市場や顧客との対話を通じて磨かれ、実証実験や事業化へと発展するものも生まれています。

私たちは、多様な移動手段の提供を通じて、人々の生活をより便利で豊かにするとともに、社会課題の解決にも貢献していきます。これからも技術と挑戦する精神を掛け合わせ、新たなソリューションの創出を通じて、移動の可能性を広げ続けます。

Lifmy が目指す社会課題の解決

日本では少子高齢化が進み、介護を必要とする人が増加する一方で、介護現場では慢性的な人手不足や介護従事者の身体的負担が大きな課題となっています。特に移乗介助は腰痛の要因にもなり、多くの介護現場で改善が求められています。こうした課題に対し、ジャトコは「モビリティの可能性を広げる」という理念のもと、移乗機構付き車いす「Lifmy (リフミイ)」を開発しました。

Lifmyは利用者自身の力を活かした立ち上がりを支援し、自立した生活を後押しすることを目指しています。開発にあたっては、介護現場の声を取り入れるとともに、大学機関との人体動作解析研究や、工業技術研究所との連携により、人が自然に立ち上がる動きを科学的に分析しました。利用者の尊厳と自立を支えながら、介護従事者の負担軽減にも貢献する製品を目指しています。

ジャトコはこれからも、モビリティ技術を社会課題の解決に活かし、高齢になっても、障がいがあっても、誰もが自分らしく暮らせる持続可能な社会の実現に貢献していきます。

Lifmy (リフミイ) の由来

「My (私の)」「Life (暮らし)」「Lift me (私を支えて)」

という想いを込めて名付けられました。

Lifmyには、ご利用者さま「ご自身の暮らし」を大切にし、「ご利用者さまを支え、応援する」存在でありたいという願いが込められています



多彩なカラーで使用頂く方々にわくわくを。



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

移動の可能性を広げるソリューション

電動バイク用2速自動変速インホイールモータードライブユニット

中国の電動バイク用ドライブユニットの有力メーカーである九洲科技と共同開発。2速の自動変速機とモーターを一体化したこのユニット「GLIDE BOOST（中国名：加驰）」は最大トルク250Nm、最高時速100km/hを超え、30度という厳しい勾配を上ることができます。

2026年7月より量産開始し、中国市場で販売開始しました。



2速自動変速インホイールモータードライブユニット

電動アシスト自転車用ドライブユニット

独自技術でアシストモーターと変速機構を一体化した2-in-1ドライブユニット「GLIDE AXCEL（グライドアクセル）」の製造・販売を行っています。バッテリー残量や航続距離のモニタリング、ユーザーの好みに合わせたアシスト量の変更などができるスマホアプリとの組み合わせでお客様への楽しさと安全と健康に貢献します。

2026年4月にホダカ株式会社の「THIRD BIKES」ブランドの電動アシスト自転車に採用され販売を開始しました。



2-in-1リアハブユニット



THIRD BIKES ブランド 電動アシスト自転車

台車アシスト装置の開発

物流業界では、労働力不足や作業者の高齢化が進む中、重量物搬送時の身体的負担軽減と作業効率向上が重要な課題となっています。ジャトコでは、台車の搬送を電動でアシストする装置の開発を進めています。重い荷物を積載したかご台車の移動負担を軽減し、安全で快適な作業環境の実現に貢献します。

本製品は、物流現場の生産性向上と働きやすい職場づくりを支援する新たなソリューションとして、早期事業化を目指しています。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

エネルギー効率の追求



ジャトコは、パワートレインの専門メーカーとして、よりエネルギー効率の高いユニットを提供すべく、常に技術を磨き、環境性能と運転性能を両立させた商品を提供してきました。今後市場投入する電動パワートレインにも、この技術をしっかりと活かしていきます。

Jatco CVT-XS

環境性能と運転性能を飛躍的に進化させたCVT

Jatco CVT-XS は当社がトランスミッションの専門メーカーとして技術の粋を集めた集大成となる商品で、環境性能と運転性能が飛躍的に向上しています。従来トランスミッションと同サイズでギアレシオを約13% 拡大すると共に、メカオイルポンプを小型化することによってメカニカルロスを低減しました。

これらの改善により車両の燃費が向上し、米国での温室効果ガス・燃費規制（GHG/CAFE）への対応にも貢献しています。



Jatco CVT-XS



3-in-1：電気自動車用



5-in-1：e-POWER用

X-in-1

主要部品の共用化とモジュール化を実現した電動パワートレイン

X-in-1は、モーターやインバーター、ギアなどの主要部品を一体化した電動パワートレインです。部品をコンパクトにまとめることで、小型・軽量化を実現し、車両のエネルギー効率向上に貢献しています。

また、電気自動車（EV）向けの3-in-1と、e-POWER向けの5-in-1で主要部品を共用化することで、生産効率を高め、製造時のエネルギー使用量の削減にもつなげています。さらに、レアアース使用率1%以下のモーターを採用し、資源使用量の低減による環境負荷低減にも取り組んでいます。

現在は、インバーターのパワーモジュールに次世代半導体材料「SiC（シリコンカーバイド）」を適用した高効率技術の開発を進めています。SiCは電力変換時のエネルギーロスを低減できるため、車両の電費・燃費向上や航続距離の拡大に貢献することが期待されています。ジャトコは、こうした技術革新を通じて、より環境性能に優れた電動パワートレインの実現に取り組んでいます。

高効率 超低粘度減速機油

EVの省電力に貢献する超低粘度油

EVの省電力に貢献できる超低粘度油を開発しました。

この油は、EVシステムの減速機のフリクションを大幅に低減できるため、バッテリー容量を増やさずに航続距離を延ばすことが可能です。

その結果、EVのコスト低減と普及に貢献し、地球温暖化防止につながるCO2の削減を実現します。





社会

地域社会との共生および発展への貢献

コミュニティの発展

社会貢献活動



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

コミュニティの発展



地域社会のみなさまとともに

ジャトコグループは、地域社会に愛される「よき企業市民」となることを目指しています。企業活動は地域社会とのかかわりの中で営まれるものであり、コミュニティの一員として主体的に社会とかわり、さまざまな形で地域社会に貢献することが重要な責務と考えます。

ジャトコグループの技術やアセットを活かして地域課題の解決に積極的に取り組むことは、「この地域にあってよかった」と思ってもらえる存在となり、企業にとっても有益です。こうした取り組みは、地域と企業が互いに成長・発展していくことにつながります。例えば、自動車用ユニットの技術を活かして電動自転車用ドライブユニットを新たに開発し、地域が抱える観光振興や健康増進などの課題解決とともにチャレンジしています。また、岳南電車「ジャトコ前」駅の花壇を整備し、地域のみなさまに生活の豊かさを提供しています。

複雑化する社会課題に対応しながら、ジャトコグループは常に地域社会との対話を通じた地域活性化や社会・環境課題の解決に貢献していきます。



花咲く*ジャトコ前駅プロジェクト

取り組み事例

富士地区：地域高校の部活動合宿支援

吉原工業高校剣道部の夏季合宿において、ジャトコ富士見台寮を宿泊施設として提供しました。地域の高校生が安心して練習に専念できる環境を支援するとともに、寮施設の有効活用を通じて地域とのつながりを深めました。



富士地区：地域医療の充実を支援

ジャトコは、富士市立中央病院の「ラピッド・ドクターカー」導入に寄付を行いました。迅速な救急医療の提供を支える取り組みへの支援を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域づくりを応援しています。



タイ：学生を対象とした水耕栽培学習活動支援

ジャトコタイランド社は、地域の学校と連携し、水耕栽培に関する学習支援活動を実施しました。生徒が栽培技術を実践的に学ぶ機会を提供し、次世代を担う人材育成につながる取り組みを行いました。



メキシコ：州環境保護局から持続可能な企業認証を取得

ジャトコメキシコ社は、州環境保護局より持続可能な企業認証を取得しました。日頃から進めている環境保全活動や法令順守への取り組みが評価されたものであり、環境に配慮した事業運営を継続しています。



富士市と進める地域づくり

ジャトコは、本社所在地である富士市とともに持続可能な地域社会の実現を目指し、経済・社会・環境の各分野における取り組みを推進しています。

主な取り組み

- ・「富士市スタートアップサポーターズ」
- ・「SDGsプロジェクト」
- ・「ふじグリーンパートナー」
- ・「生物多様性ふじサポーター」

これらの活動が評価され、2026年に富士市SDGs未来都市推進企業登録制度において「活動段階A認定」を取得するとともに、「SDGs活動先導企業」に認定されました。

今後も地域との対話や連携を大切にしながら、持続可能な地域づくりに取り組んでいきます。



認定式



認定証

社会貢献活動



基本方針

3つの重点分野「環境」「教育」「福祉」

ジャトコグループの社会貢献活動は、良き企業市民として地域社会へ貢献するために、「環境」「教育」「福祉」の3つの重点分野を設定しています。従業員の知恵と力で活動を推進しています。

社会貢献活動を通して、活動の現場や地域からダイレクトな反応をもらえることも従業員にとっての大きなメリットとなります。



ありたい姿

従業員一人ひとりが自律した社会貢献活動へ

ジャトコグループでは、執行役員・執行職が社会貢献リーダーとなり、全社の活動を推進しています。また、各部署の従業員自らが活動を提案し、企画・実施することも大きな特徴です。

そのため、今では社会貢献活動を実施するたびに従業員一人ひとりに社会課題の意識が芽生えてきています。

ジャトコグループでは今後も地域の課題解決につながるような社会貢献活動を実施していくことで、地域社会から信頼され、必要とされる企業を目指します。

社会貢献リーダー メッセージ

様々な社会貢献活動を通じて、参加した従業員の生き生きとした姿や地域の皆様の笑顔に触れ、社会貢献活動がジャトコの文化として着実に根付き、地域社会の課題解決に貢献していることを強く実感しています。今後も私たちの取り組みが、社会課題の解決に対する意識をさらに高めるきっかけとなることを願っています。



社会貢献リーダー
新規事業本部 執行職
秋山 佳信

グローバルで12,772人が参加

ジャトコグループの社会貢献活動はグローバルに行われており、世界中でそれぞれの地域ニーズに合った活動に取り組んでいます。

2025年度は、グローバル全体で12,772人の従業員が参加。「環境」「教育」「福祉」各分野でさまざまな活動を行いました。

活動事例（一例）

分野	参加人数	主な活動事例
日本	5,267	キッズエンジニア（小学生） 教育講座 学校&企業訪問（小・中・高校生） 富士山クリーンルート3776清掃 電動車椅子サッカーサポート 全国知的障がい者サッカー大会（ジャトコカップ）
メキシコ	3,557	障がい者施設・老人ホームへの食料品・生活用品寄付 ペットボトルキャップの寄付 困窮家庭へのリサイクル資源提供支援
中国	2,027	会社周辺の美化活動 下鉄駅環境保護活動植動 地下鉄駅周辺の環境美化活動
フランス	58	バッテリーの寄付 ペットボトルキャップの寄付 ランニング参加費の一部を慈善団体へ寄付
アメリカ	106	動物保護施設へのペットフードの寄付 食料品・ベビー用品の寄付 地域の子どもや大人を対象としたパソコン講習
タイ	1,319	学生への水耕栽培野菜の栽培指導 ペットボトル回収・スクールバッグリサイクル活動 子どもたちへのヘルメット寄贈、交通安全啓発活動
韓国	438	公園美化ボランティア活動 ホームレス支援炊き出し・衣類寄付ボランティア活動 ペットボトルキャップリサイクル活動

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

社会貢献活動

各地区清掃活動

環境 教育 福祉

富士地区をはじめ、各地域で多くの清掃活動を実施し、地域社会へ貢献します。各拠点年間52回清掃活動を実施し、計1,214名の従業員・従業員のご家族が参加されました。



参加従業員の声

地域のためと思って参加しましたが、近隣の皆さまから感謝の言葉をいただき、やりがいを感じました。活動を通じて地域とのつながりを実感するとともに、自分自身も前向きな気持ちや充実感を得ることができました。

キッズエンジニア2025

環境 教育 福祉

小学生を対象に、電気自動車の模型を使って、歯車の仕組みを学び、モノづくりの楽しさを体験するプログラム。完成した模型は、専用コースで走らせ、タイムを何度も計測しながら、最適な歯車の組み合わせを見つけていきます。ものづくりに興味を持った子ども達が、将来、日本を支える技術者になってくれることを期待しています。



イベント参加者の声

・タイムがランキング表示されたので、何度も挑戦したくなり楽しかった。また参加したい。
・いつもは見られない、一生懸命に取り組む息子の姿に感心しました。

電動車椅子サッカー全国大会

環境 教育 福祉

ジャトコが継続してサポートする電動車椅子サッカーの全国大会では、フットガードの脱着を行う「ジャトコピット」や試合運営のサポートなど、大会に欠かせない存在として活躍。障がいのある選手たちが電動車椅子を巧みに操作し、迫力あるプレーに会場は感動に包まれます。



選手からの声

ジャトコの皆さんには、大会運営を通じて私たち選手が安心してプレーできる環境を支えていただき、とても感謝しています。温かい応援やサポートが、選手一人ひとりの挑戦する力にもつながっています。

安養川清掃活動（韓国）

環境 教育 福祉

ジャトコ韓国では、2020年6月からジャトコ韓国とソウル市衿川区が協約を結んで実施している安養川の環境浄化活動です。美しい秋の風景の中で清掃活動をし、地域社会へ貢献します。



参加従業員の声

地域環境の保護に直接参加することで、企業の社会的責任を果たす機会となりました。

静岡県高校生インターンシップ受入（タイ）

環境 教育 福祉

ジャトコタイでは、静岡県教育委員会主催の「高校生海外インターンシップ」に賛同し、2025年も県内高校生7名を受け入れました。7月に富士地区での事前研修を行い、8月にタイへ渡航し、現地での交流や文化に触れる機会を設けました。ジャトコは今後もグローバル人材育成や企業の魅力を知る機会を支援していきます。



インターンシップ参加の高校生からの声

ジャトコタイ工場の見学を通じて、ものづくりの魅力を実感しました。海外の働き方や文化の違いを学び、異文化交流を通じて、協力し合うことの大切さも学ぶことができました。

食料品の寄付（メキシコ）

環境 教育 福祉

ジャトコメキシコでは、さまざまな障がいを持つ子どもたちを支援する施設へ食料品の寄付を行っています。この取り組みはジャトコ従業員の献身と協力によって実現した活動です。今後も必要としている方々に笑顔を届けてまいります。



参加従業員の声

自分にできる範囲で助け合いの手を差し伸べ、少しでも社会に貢献できたことは、大切な経験となり、子どもたちと楽しいひとときを過ごしました。



人的資本

ダイバーシティの推進と
社員の幸福の向上

ダイバーシティ&インクルージョン

人財育成

労働安全衛生



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ダイバーシティ&インクルージョン



ジャトコのダイバーシティ

時代の変化に対応しながらグローバルにビジネスを展開しジャトコが成長していくために、従業員が大切にしている価値観の一つとしてダイバーシティを位置づけています。多様な価値観を持った従業員が共存し、互いを尊重しながら意見を交わすことで、新しい発想が生まれ、より良い価値をお客さまに提供することを方針とし、さまざまな取り組みを行っています。

働き方の多様性

ジャトコでは、全ての従業員のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）向上のため、仕事の生産性の向上と共に、誰もが安心して働き生きと働ける職場環境の構築を目指しています。フレックスタイム制度や、育児・介護・不妊治療など幅広い視点からの家族サポートを目的としたライフサポート休暇、在宅勤務制度、勤務間インターバル制度などを早い時期から導入し、多くの従業員が活用しています。その実績が高く評価され、2015年から、次世代育成支援対策推進法に基づく特例認定（通称：プラチナくるみん認定）を受けています。



※プラチナくるみん…くるみん認定企業のうち、より高い水準の取組を行い、一定の要件を満たした企業のみが、認定を受けることができます。



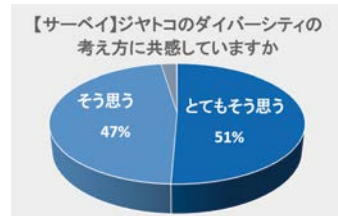
女性の活躍推進

ジャトコはダイバーシティ推進の柱の一つとして、女性の活躍推進に取り組んでいます。管理職に占める女性比率は、2025年度は5.9%で、厚生労働省が発表する産業ごとの管理職に占める女性の割合の平均値を上回っており、さらに7%の達成を目標に掲げて育成に力を入れています。女性従業員が仕事、育児、介護等の悩みを共有するイベントも定期的に行っています。男性従業員の育休取得による育児参加も推奨しており、2025年度の男性育休取得率は84.6%でした。



全社の理解促進

ジャトコのダイバーシティ&インクルージョンの考え方や全社の現在の状況について、従業員に広く周知し理解を促進するために、経営層を含む全社を対象としたe-Learning やサーベ이를毎年実施しています。2022年から新入社員にもダイバーシティ研修を導入し、従業員同士でディスカッションする機会を設けています。

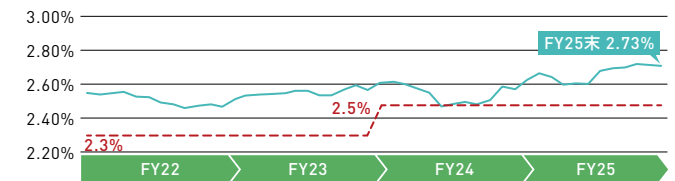


2025年のサーベイでは、回答者の98%がジャトコのダイバーシティの考え方に共感していると回答しています。

障がい者の活躍推進

ジャトコでは障がいがある多くの従業員が活躍しています。特性に合わせた配置、屋内農園などの職場の設置、悩みごとの相談や定着のサポートをする職業生活相談員やジョブコーチ養成研修修了者の配員も行い、活き活きと働き続ける環境を提供しています。また、評価・報酬制度を導入するなど、やりがいや成長を実感できる取り組みも行っています。2025年度の障がい者雇用率は2.73%と法定雇用率を上回っています。屋内農園で栽培されたハーブ製品や野菜は、昼休みに食堂で使用、販売されており、従業員からも大好評です。

障がい者雇用率推移（FY22～FY25）



レタスなどの水耕栽培 (JATCO Green Farm)

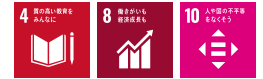


ハーブ栽培・加工（海老名農園）



工場では、障がいがある従業員も、他の職場メンバーと一緒に、組立・加工・物流などの作業を担当しています。

人財育成 ～ジャトコの人財育成の考え方～



ジャトコは、従業員一人ひとりを会社を支える重要な人的資本として捉え、自身の成長と働きがいを実感できる企業を目指しています。多様性を尊重し、個々の強みを活かしながら、一人ひとりの成長と挑戦を支援することで、企業の競争力向上と持続的な価値創造を実現していきます。

企業理念を体現する共通の価値観として「T-E+A-M」を掲げ、その価値観や行動の基準をグローバルコンピテンシーとして明示しています。また、部署や職種ごとに専門コンピテンシーを定め、会社が従業員に求める能力として全従業員に共有しています。

ジャトコでは、従業員が期待される行動特性・スキル・知識を体系的に習得できるよう、「階層別教育」と「専門教育」を柱とした人財育成体系を構築しています。また、一人ひとりが成長段階や役割に応じて必要な力を身につけられるよう、多様な成長機会を提供しています。

【主な成長機会】

- ・上司との年3回の定期面談による従業員の主体的なキャリア開発の支援
- ・OJTによる職場での支援、および適切な業務アサインによるスキルの習得
- ・職種・役割に応じた体系的な教育の実施(階層別教育、専門教育等)
- ・QCサークル大会、イノベーションアイデアコンテスト、デジタルコンテストなどの社内イベントを通じた成長支援

従業員は、これらの成長機会を通じて主体的に自己成長に取り組み、ジャトコとともに持続的な成長を実現することを目指しています。ジャトコは、従業員一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことで、人的資本を企業の競争力へとつなげ、持続的な企業価値の創出を図ってまいります。



全社基本技能競技大会の様子

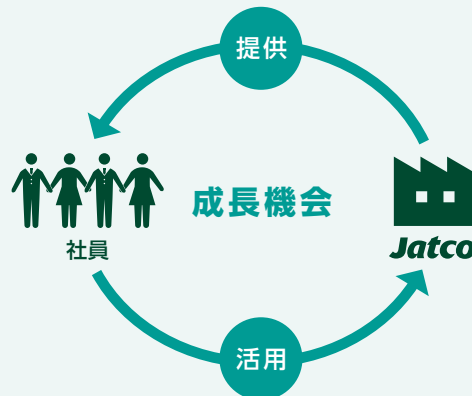
ジャトコの人財開発方針

求める人財像

私たちは企業理念に共感し、その実現に必要なT-E+A-M・マネジメント力・専門力を持って、事業計画の達成と持続的な会社の成長に貢献し続けることを求められています。

社員と会社の相互成長の実現

求める人財像の実現に向け、上司は社員一人ひとりが持つ、多様な背景を尊重しながら、成長機会を継続的に提供する責任があります。私たち社員は、自身の成長に責任をもち、その成長機会を最大限に活用していきましょう。



共通の価値観「T-E+A-M」

T 全員によるチームリーダーシップ 全員が「一歩踏み出す」リーダーに。等身大＋少し背伸び。包容力inclusivenessを。変革を起こせ。	E アントレプレナーシップ 社会課題に視野を広げ、関心を持って探索する。常識を疑い、自ら徹底的に考え抜く。失敗を恐れず、新しいことに挑戦する。変化を、楽しめ。
E 外界志向・顧客志向 世界を知る。顧客を知る。競合を知る。とにかく外に出る、現場に出る、他部門と交流する。	A 勝利へのこだわり 結果・成果への渴望、こだわり。最後にもう一歩踏み張る。多様性を尊重する。組織の壁を乗り越える。
M モノづくりの極み 三現主義を徹底し、いまの仕組みをさらに進化させる。品質重視。専門性を高める。周囲にも伝授し、モノづくりを継承させる。	

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

人財育成の実践 ～事務系・技術系 間接社員の成長を支える学びと挑戦の機会～

学びと挑戦を通じた成長支援

ジャトコでは、研修による学習に加え、職場でのOJTや実践的な課題への挑戦を通じて成長を支援しています。入社後数年間は、基礎力の習得から主体的な課題解決まで、段階的な成長機会を提供しています。

1年目：新入社員研修、生産現場実習、部門研修などを通じて、ジャトコのモノづくりと仕事の基礎を身につけます。また、フレッシュマンリーダー制度により、先輩社員のサポートを受けながら、安心して会社生活をスタートできる環境を整えています。

2年目：担当業務を持ち、自ら考え、お客様を意識しながら仕事を進める力を身につけます。近年では、富士市の地域課題をテーマとしたチームアクションラーニングを実施しています。社会課題を自分ごととして捉え、課題の深掘りや仮説立案を行い、フィールドワークによる実地検証を通じて解決策を検討します。その成果を行政へ提案することで、地域社会との共創を通じた価値創造に

挑戦する機会を提供しています。

3年目：より大きな役割や新たな挑戦に向けて、レジリエンス研修を実施しています。自身の強みや思考の傾向、コンディションを客観的に把握するとともに、困難な状況にも前向きに向き合い、乗り越える力や、自ら考え学び続ける姿勢を養います。

グローバル共通の役割別実践プログラム

ジャトコでは若手から部長層に至るまで、各階層への昇格初年度に、求められる役割の理解と実践力の向上を目的とした約1年間の育成プログラムを実施しています。参加者同士の対話や経験共有を通じて内省を深めるとともに、部門や地域を越えたつながりを形成しながら、自身の役割を主体的に実践する力を養っています。これらの役割別育成プログラムは「MMP (Manager Management Practice) シリーズ」として体系化されており、海外拠点を含むグローバル共通の育成基盤のもと、将来のリーダー人財が役割を発揮しながら成長できる環境づくりと、組織力の向上につなげています。

キャリア自律を支援する年代別キャリア研修

ジャトコでは、従業員一人ひとりが年齢やキャリアステージに応じて成長し続け、活き活きと働き続けられるよう、年代別のキャリア研修を実施しています。研修では自身の経験や強みを振り返りながらキャリアオーナーシップを高め、将来ありたい姿を描きます。研修後は、上司との対話を通じてキャリアの方向性を共有し、実現に向けて具体的な行動計画へとつなげています。

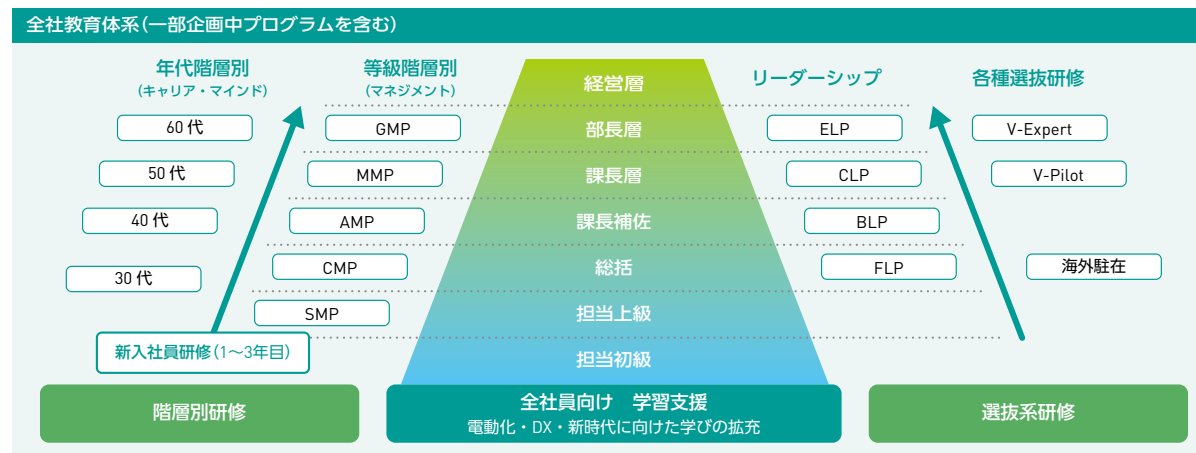
社内公募制度

ジャトコでは、従業員が自らの意志で新たな職務や事業領域に挑戦できる社内公募制度を運用しています。本制度を通じて、従業員一人ひとりのキャリアオーナーシップを促進するとともに、適所適材の実現や組織の活性化につなげています。



新入社員研修の様子

間接員向け教育体系（事務・技術系）



リーダーシップ研修の様子

イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

人財育成の実践 ～製造現場社員の成長を支える学びと挑戦の機会～

人財の成長を支える学びと成長支援

変化し続ける事業環境の中で、ジャトコが世界中のお客さまに競争力のある高品質な製品を提供し続けるためには、モノづくり現場における技術・技能の向上が欠かせません。ジャトコでは、生産部門の従業員がモノづくりの基礎から高度な専門技能まで段階的に習得し、成長し続けることができるよう、入社時から管理監督者に至るまで体系的な教育を実施しています。

新入社員研修

入社後約2か月間にわたり、安全・品質・モノづくりの基礎を学ぶとともに、製造プロセスツアーや各職種での実習を通じて、ジャトコの製品がどのような工程を経て生み出されているのかを理解します。また、宿泊研修やグループワーク、成果報告会などの実践的なプログラムを通じて、同期との協働や主体的に考え行動する姿勢を養います。さらに、モノづくりの現場で求められる安全意識や品質へのこだわり、改善の考え方を学びながら、ジャトコの文化や仕事の進め方への理解を深め、将来のモノづくりを支える人財としての基礎を築きます。



新入社員研修の様子

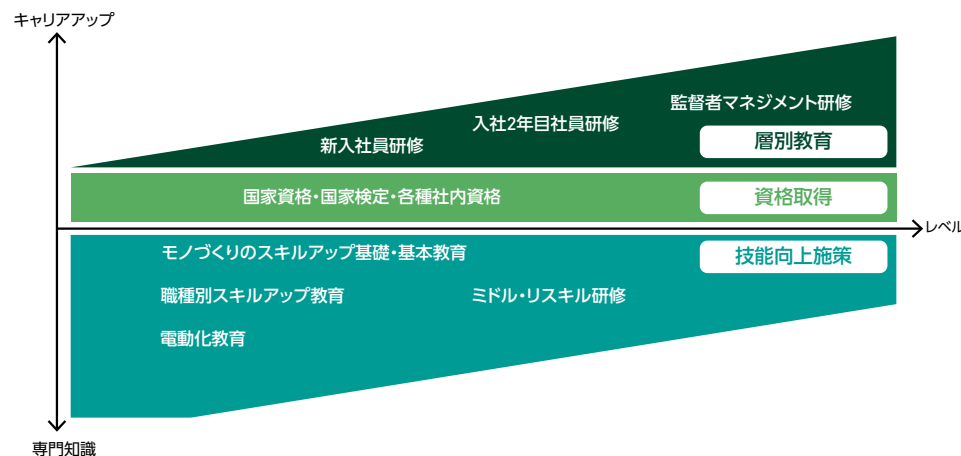
監督者マネジメント研修

現場で経験を積んだ従業員が、職場のリーダーとして活躍できるよう監督者マネジメント研修を実施しています。安全・品質・に加え、部下育成やコミュニケーションなどのマネジメントスキルを習得し、強い現場づくりを支える人財を育成しています。

全社基本技能競技大会

ジャトコでは、全社基本技能競技大会を通じて、技能向上への挑戦意欲を高めるとともに、モノづくり人財の育成を推進しています。競技に向けた訓練や相互研鑽を通じて技能を磨き、拠点を越えた交流や学び合いの機会にもつながっています。

教育体系（技能系）



スキルアップ研修（日本）



専門組立基本技能（タイ）

モノづくりのスキルアップ研修

モノづくりの基礎技能から専門技能、高度技能まで、個々の成長段階に応じた教育を実施しています。実践を通じて技能を習得するとともに、技能競技会や資格取得にも挑戦し、自律的な成長を支援しています。

電動化人財の育成

電動化をはじめとする事業環境の変化に対応し、将来の成長領域を担う人財の育成に取り組んでいます。

CVTやATなどの既存事業で培ったモノづくり技術を基盤としながら、電動化分野に求められる新たな知識・技能の習得を支援し、既存事業の競争力向上と将来の成長領域を支える人財の育成につなげています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

労働安全衛生



ジャトコは、従業員が安全・健康で生き活きと働ける職場環境実現のため、「安全絶対」で、災害火災のない職場づくり・安全に強い人づくりと、「健康経営」で、従業員のフィジカルとメンタルの健康の継続的な改善に取り組んでいます。

安全衛生基本方針

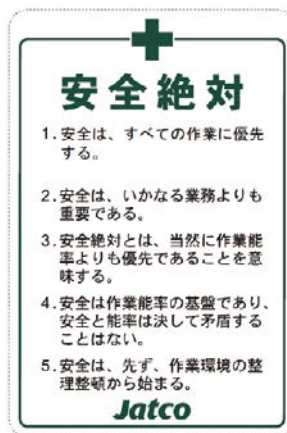
従業員一人ひとりが積極的に参画する安全衛生活動の実施

従業員の安全と健康を確保することは企業活動の基本である。これらは企業活動の重要課題であり、後退は企業の存続にも関わる事を認識し、一人ひとりが積極的に参画する安全・衛生活動を労使一丸となって推進していく。

企業発展に繋げた安全衛生活動

安全と健康を継続的に確保する事で従業員はもとより家族、お客様、地域に対して信頼され、安心して働ける企業を目指す。その実現のため、設備の本質安全化の効率的な追求や作業環境・作業方法等の改善と教育訓練を進め、労働災害、職業性疾病、交通災害のゼロを目指し企業の発展に繋げる。

ジャトコの合言葉は「安全絶対」



安全確保の取り組み

安全活動の3本柱

私たちジャトコは安全活動について下記3本柱を立てています。

1. 安全に強い人づくり
2. 安全な設備・作業方法の実現
3. 災害再発防止の取組み

まずは、人財育成という観点から方策として、「教育」が必要不可欠だと考え、安全に行動することの大切さ、不安全状態の怖さを繰り返し訴えかけています。

二つめに、安全な設備や作業方法の実現に向けて「異常処理撲滅活動」を行っています。活動主目的は、「異常処理を撲滅すること」ですが、物的対策を実施しても撲滅するまで管理するため、現場作業員と連携し活動を実施しています。

最後に「災害再発防止」に対する取り組みとして、過去に発生した災害の総点検を行っています。ハード対策はもちろん、ソフト対策についても実施出来ることを洗い出し災害を風化させないように活動しています。



安全衛生関係者による現場パトロール

安全に強い人づくり

従業員全体の安全レベルの底上げ

工場を主体とした、安全CAPDo^{*1}活動を軸に安全活動を継続して実施していますが、休業/不働災害共に継続して発生している状況です。災害発生要因を4M^{*2}の観点から分析した結果、下記4点が浮き彫りとなりました。

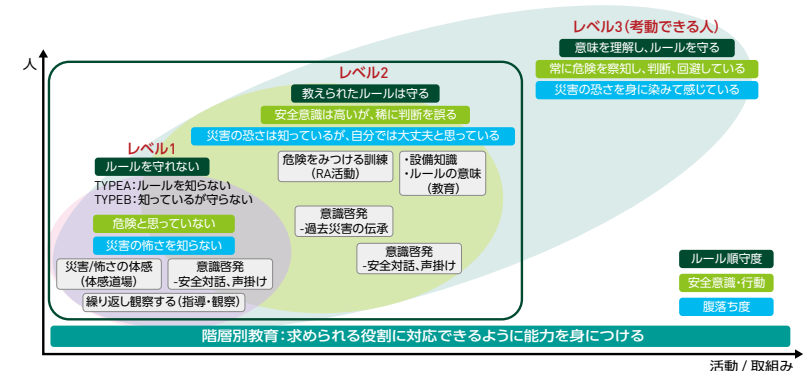
1. 安全知識の不足
2. 危険感受性の不足
3. 日常作業の確認不足
4. 不随作業の見落とし

安全CAPDoといった基礎的な軸は、変えずに危険感受性を高めること（レベル1）、を第一とし、危険取行性を高めプラスして社内ルールを守ることを「レベル2」と決めました。

更に安全ルールの意味を理解するとともに、常に危険を察知し、判断、回避することが出来る従業員を「レベル3」と定義し、現在レベル3の「考動できる人」を目標に日々安全活動に尽力しています。

*1 CAPDo：計画を最初に立てるPDCAに対し、PDCAの順番を変えて「C（Check=現状把握）」から始める改善サイクル手法

*2 4M：Man（人）・Machine（機械）・Material（材料）・Method（方法）の4要素の頭文字を取って名付けられたフレームワーク



“安全に強い人づくり” ありたい姿

労働安全衛生

安全に強い人づくり

安全体感訓練道場の刷新

危険を認識し不安全行動や不安全状態の「怖さ」を体感できるよう、心に訴えかける教育を目標に安全道場での体感教育を実施しています。コンテンツは、従業員が実際にヒヤリとしたことがある内容や実際に発生した災害をもとに作成されたものです。

更に実際に再現すると危険が伴う災害/ヒヤリ事例については、シアター型体感教育ツールを導入しました。これにより、受講者があたかも実際にその空間に存在し作業を実施しているかのようなバーチャル空間で危険を体感することができます。



シアター型体感教育ツールによる教育風景



フィジカル体感教育 実演会

労働安全衛生教育の実施

(1) 危険有害物に対する技能向上教育	
労働安全衛生法に基づく技能講習を実施することで社内に有資格者を育成しています。	
受講対象者	有資格者数
危険有害物取扱業務従事者	142人
社内認定安全監査者（グリーンセスラー）	2,778人
2026年3月末時点	

(2) 階層別安全教育			
課長を始めとする安全健康管理係長、工長、リーダーは年に一度必ず安全教育を受講しています。			
特に重点に置いているのは、現場指導はもとより、部署や課の従業員に対する安全・健康活動の責任者として存在する安全健康管理係長への「新任安全健康管理係長研修」です。			
階層	現状		FY25
	頻度	内容	
課長	昇格時のみ	新任管理職研修	重点 1回/年 繰り返し教を実施
安全健康管理係長	↑	新任安全健康管理係長研修	
工長	↑	職長教育	
リーダー	↑	↑	
一般	入社時のみ	受入れ教育（共通）	改善 DX体感型安全教育の新規導入 フィジカル体感教育ツール更新 ドライブシミュレータの新規導入
	各1回	↑ SHOP別	
		↑ 配属後	
		スキルアップ教育（基礎・基本）	
		↑ 初級	
		↑ 中級	
		↑ 上級	

安全教育体系と重点について

安全な設備 / 作業方法の実現

従業員全員で取り組む安全活動

安全の確保はすべての作業に優先するという認識から「安全絶対」を合言葉に掲げ、リスクアセスメント活動を始めとする、SESI*1、5S パトロール*2、工場（課）安全パトロール、公開作業観察、安全専門観察などの「現場を観る活動」を中心に災害ゼロから危険ゼロ職場にする為、安全CAPDoをアジャイル（臨機応変に素早く）に回し安全活動に取り組んでいます。

*1 SESI(Safety Evaluation System I)：職場の安全レベルを定量的に評価するシステム

*2 5S パトロール：「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の5S が保たれる様、定期的に現場を巡回する活動



海外拠点を含めグローバルでSESIを実施

労働安全衛生

安全な設備 / 作業方法の実現

異常処理作業の撲滅

特に重点を置いているのは、労働災害発生リスクが高く、生産活動のロスでもある異常処理作業の撲滅です。

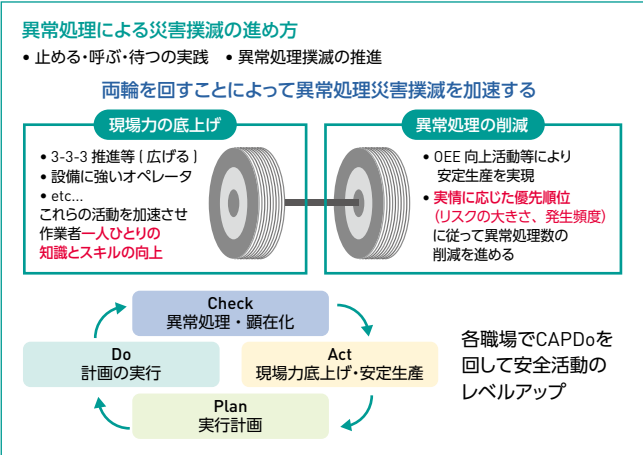
各活動で検出されたリスクは、リストにて把握し、リスクの大きさに応じて対応の優先度や適切な対応策を決め、本質安全対策（設備改善などのハード対策）や、教育・指導などのソフト対策を迅速に実施しています。

また、職場のリスクアセスメント活動の活性化により、すべての従業員が安全で快適に働ける職場づくりを推進しています。

安全健康管理係長の配置

安全健康管理を専門に管理するため、全ての生産課に専任の安全健康管理係長をそれぞれ配置しています。課の安全/火災/交通事故/健康管理に責任を持ち、職場で働く仲間の声を聞き改善していくことを職務として担っています。

また専門家として、社内外に強い安全および健康に関するネットワーク構築することで、お互いに良いものを吸収し合うチームづくりを目指しています。また、外界志向で多様なアイデアをお互いに発言し合うことで、“すぐ行動する”、“よいことは褒める”、“ダメなことはダメと言える”風土づくりにもチャレンジしています。



災害再発防止の取り組み

過去に発生した災害水平展開の総点検活動

過去に発生してしまった災害を二度と再発させないよう、全社へ水平展開された対策内容が現場に浸透しているか、また、継続的対策内容が実施されているかを安全健康管理部が各課の安全健康管理係長と協力して対策内容の状況を確認し、フォローアップしている活動です。活動の主目的は、災害の再発防止ですが、新規に配属された仲間へのOJT（危険周知）も含め、総点検しています。

風化させない安全風土づくり

上記に加えて、「災害メモリアル」と題し、過去災害事例を安全健康管理部より配信しています。過去に発生した災害から学んだことを風化させない・同じ災害を繰り返し発生させない為、過去10年間当社で発生した労働災害を月ごとに同月発生した災害事例として全従業員へ展開しています。

日常の安全活動に各部署の朝礼での注意喚起など、全ての従業員を対象に災害について考える時間を作っています。

安全活動管理指標

災害発生状況

年	区分	実績
2025年	死亡災害	0 件
	休業災害	1 件
2024年	死亡災害	0 件
	休業災害	0 件
2023年	死亡災害	0 件
	休業災害	1 件

業務上の負傷（休業災害度数率*3）

年	区分	実績	全産業*5	輸送用機械器具製造業*5
2025年	休業災害度数率	0.185	2.010	—
	損失日数*4	7	45.7	—
2024年	休業災害度数率	0.000	2.10	0.660
	損失日数	0	43.5	50.2
2023年	休業災害度数率	0.093	2.14	0.600
	損失日数	56	40	73.7

*3 休業災害度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数〔(死傷者数/実労働時間数) ×1,000,000〕

*4 損失日数：労働災害による死傷者の延べ労働損失日数を表す

*5 出展：厚生労働省統計表
対象範囲：ジャトコ株式会社

労働安全衛生

健康経営の取り組み

健康経営宣言

ジャトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「資産」であり、従業員が活き活きと働きやすい会社となることを目指して「ジャトコグループ『健康経営宣言』」を掲げています。

ジャトコグループ「健康経営宣言」

従業員一人ひとりがリーダーシップを発揮して、お客さまのニーズに応える先進的な商品を開発すること。モノづくりの技術を高め、世界の競合他社を上回る品質を実現すること。地域社会とのかかわりを大切に公正な事業を行い、地域の活性化に貢献すること。それら全ての原動力は、ジャトコグループ全従業員の活力です。

その活力は、従業員の心身の健康の上に成り立ちます。ジャトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「財産」と捉え、従業員が活き活きと働くとともにプライベートも充実するよう、クオリティオブライフ（QOL）の向上を図ることで、従業員と企業の幸福の実現を目指します。従業員一人ひとりとそのご家族が健康であることが、ジャトコグループの持続的な発展の礎であるとともに、健康寿命の延伸などの社会要請に応えるものと考えます。

ジャトコグループは、重要な経営課題の一つとして、従業員一人ひとりの健康増進と健康で活き活きと働きやすい会社となるための活動に取り組み続けることを宣言します。

ジャトコ株式会社
社長兼最高経営責任者

佐藤 明由

健康経営方針

目指す姿を実現するための健康経営方針を策定しています。

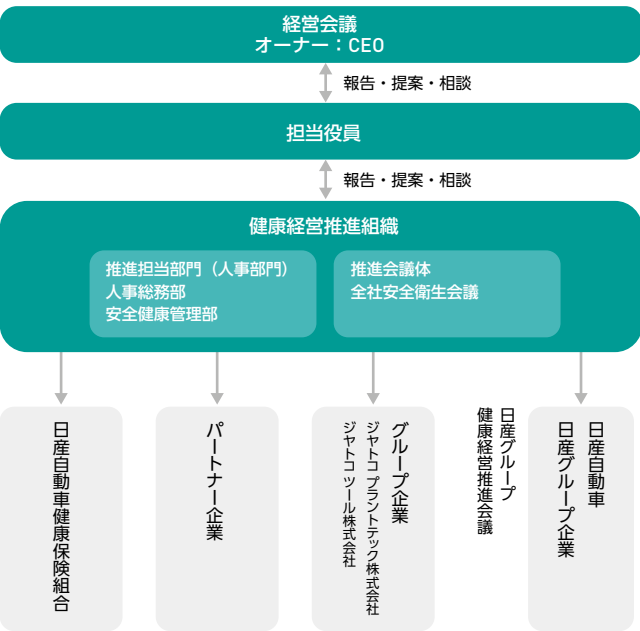
健康経営方針	従業員が活き活きと働きやすい会社を実現する		
	アブセンティーズムの低減		プレゼンティーズムの改善
結果系 KPI	休業休職者千人率		仕事の出来の自己採点（平均点）
要因系 KPI	フィジカル 有所見者率（%）	メンタル 高ストレス者率（%）	
アプローチ	①生活習慣改善	●	●
	②がん早期発見	●	
	③メンタル不調早期発見		●
	④早期復職、再発防止	●	●
	⑤ストレス耐性の向上	●	●
	⑥働きやすい職場環境	●	●

健康経営中期計画

3か年中期計画を策定し健康経営6本柱の活動を実行しています。

	(1期) 基盤整備			(2期) 継続的改善			(3期) 活動と周知の定着		
	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23	FY24	FY25	FY26
★健康経営宣言 ★優良法人認定 ★ホワイト500認定									役員管理職層勉強会
1 食事・運動・睡眠指導	FY13-運動、食育イベント FY15-ロコモ予防講座		昼休み ミニセミナー		体力測定イベント 年代別イベント	J-GYM 健康なび情報発信		J-GYMの地区拡大 年代別課題に応じた改善	
2 卒煙サポート	FY17-敷地内全面禁煙 FY14-禁煙外来				ニコチネルガム配布 *喫煙者に一律配布			ニコチネルパッチ配布	
3 がん早期発見	がん検診 婦人科検診 33歳ドック				「がんを知る」情報提供			がん検診・人間ドック 受診の利用拡大	
4 メンタル早期対応	FY06-社内カウンセラー FY15-メンタルコアチーム		リモート面談		体験カウンセリング			カウンセリングの 拡大利用	
5 早期復職再発予防	FY14-復職のてびき		職場復帰支援サポート (Eパートナー)		リワークのすすめ				
6 ストレス耐性向上サポート	FY11-セルフケア個別教育		リーダー層教育		ゾーンケア教育			高ストレス層に向けた セルフケア教育強化	
働きやすい職場環境づくり	FY11-職場改善サポート				改善良好事例水平展開			ストレスチェック結果による 職場改善サポート拡大	

健康経営推進体制



結果系 KPI

KGI/KPI	2023年度	2024年度	2025年度
アブセンティーズム*1	9.5	10.6	11.2
プレゼンティーズム*2	36.7%	36.3%	36.1%

*1 傷病休業者千人率
*2 ストレスチェックと同時に、WHO-HPQの絶対的プレゼンティーズム（0～100点(%)）を用いた従業員調査を定期的に実施。実績値は損失割合を計算し全従業員の平均を算出しており、値が高いほど損失が大きいことを示す。実績値は全従業員平均。

労働安全衛生

生活習慣改善

健康づくりイベント・健康教育

従業員が抱える健康リスクに対してより良い生活習慣の定着を図るため、健康増進活動を継続して実施しています。楽しみながら実践できる参加型のイベントを各事業所で実施し、健康意識の向上を目指します。

運動習慣改善

社内ジム

今まで運動習慣が無い人でも気軽に運動できる環境づくりとして、事業所内にトレーニングジムを設置しています。



社内ジム

ウォーキングイベント

従業員のご家族・友人や地域との繋がりを感じながら楽しく運動できるウォーキングイベントを各地で開催しています。



ウォーキングイベント

食育

定期的に各地区の工場の食堂などの会場にて開催しています。日産自動車健康保険組合や食堂運営業者とのコラボレーションによって健康に関する情報提供をすることで、従業員のヘルスリテラシーが高まり、従業員一人ひとりがよりよい食生活を送れるように働きかけています。



要因系 KPI（フィジカル）

KGI/KPI	2023年度	2024年度	2025年度
定期健診有所見率	56.1%	56.6%	58.0%
精密検査受診率	88.2%	90.2%	92.4%
適正体重維持者率	53.0%	52.1%	51.3%
運動習慣者比率	28.2%	29.4%	30.7%

卒煙活動

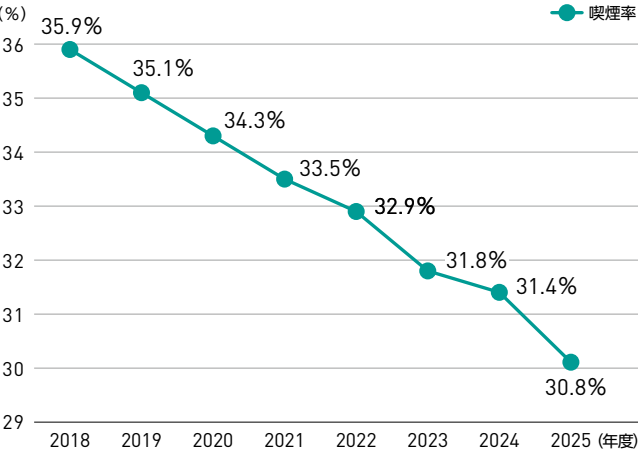
当社はグループ会社も含め2003年より喫煙対策を始めており、2007年から本格的な分煙活動、2013年から禁煙時間の設定を実施し2017年より構内（敷地内）禁煙を開始しました。また、喫煙者に対する「卒煙（禁煙）」活動として、禁煙パッチの配布、社内禁煙外来の開設をしています。

また日産健康保険組合の禁煙支援（みんチャレやオンライン禁煙）も卒煙活動のツールとして積極的に利用しています。

その結果、従業員の喫煙率は徐々に減少傾向となっています。

2026年に30%まで下げることが目標とし、あと一歩のところまでできています。

喫煙率の推移



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

労働安全衛生

メンタルヘルス対策の取り組み

ジャトコは従業員、管理監督者、産業保健スタッフ、人事部門それぞれを対象とするメンタル支援施策を整備し、メンタルヘルスに関する基礎知識・ストレス対処（セルフケア）に関する知識、部下への対処（ラインケア）に関する知識の習得と理解の浸透に取り組んでいます。2018年度からは健康経営活動のひとつとしてよりPDCAを意識した取り組みや在宅勤務など働き方の変化や多様化に伴う精神的負担感に対するアプローチも行っています。

要因系 KPI（メンタル）

KG/KPI	2023年度	2024年度	2025年度
コンサルタントによるストレスチェック結果の社内説明会の開催件数	5件	10件	11件

0次予防から再発防止までのメンタルヘルス対策

	項目
予防管理 (0次予防)	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックに基づく高ストレス者フォロー、職場改善活動 ・階層別／年代別メンタルヘルス教育（4つのケア） ・体験カウンセリング ・ハラスメント防止教育
兆候管理 (1次予防)	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング・面談 ・長時間勤務者フォロー
発症管理 (2次予防)	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング・面談 ・休業休職者フォロー
再発管理 (3次予防)	<ul style="list-style-type: none"> ・復職支援・リワーク ・メンタルコーチング活動



管理職・監督者向けの産業医によるセミナーの様子

外部評価

2019年から7年連続して「健康経営優良法人（ホワイト500）」に認定されています。

2024年から2026年の3年連続して健康経営度調査の最上位の1位から50位の評価をいただきました。



スポーツ庁の「スポーツエールカンパニー2025」に認定されています。本件は2021年2月に初めて認定され、今回で5回目の認定になります。



農林水産省「食育実践優良法人2026」に認定されています。





事業基盤

誠実な経営と事業基盤の強化

信頼される品質

人権

持続可能で責任ある調達

ステークホルダーエンゲージメント

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

災害対策（物理的ハザード）

情報セキュリティ



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

信頼される品質



品質に関する方針・考え方

ジャトコは、企業理念として「社会から信頼される企業」を掲げ、商品・サービスを通じてモビリティに新たな価値を提供することをミッションとしています。品質を全社的な重要課題と位置づけ、品質マネジメントシステムに基づき品質方針を策定するとともに、その実現に向けた取り組みを推進しています。製品の企画・開発から生産、物流、販売、アフターセールスに至るまで、お客さまと関わるあらゆる場面において高品質を提供し続けることで、お客さまの満足を追求し、信頼される企業を目指しています。

品質に関するマネジメント

ジャトコでは、グローバルで品質向上を推進する体制を構築し、品質向上活動の責任者や業務プロセスを、IATF16949に準拠した品質マネジメントシステムに基づいて明確に定め、全世界で適用しています。2026年9月現在、生産拠点において、10拠点をすべてがIATF16949の認証を取得しています。また、新入社員、現場監督者、管理職といった各階層を対象に、階層別の品質マネジメントシステム研修を実施しています。

IATF16949認証取得状況



品質方針

信頼される品質で社会・お客さまに満足と価値を提供

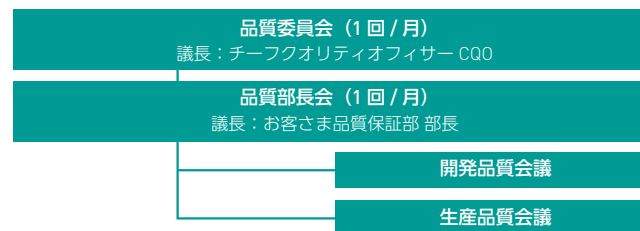
- ・ **社会からの信頼** ……法令を遵守し高い倫理観と透明性を企業文化に浸透
- ・ **お客さまの満足** ……お客さまの満足を最優先に商品・サービスを通じて新たな価値を提供
- ・ **商品・サービスの質** ……技術と情熱で仕事の質を高め高品質な商品・サービスを提供
- ・ **継続的改善** ……組織の人々の協働・共創による品質マネジメントシステムの有効性向上
- ・ **品質を創る人材** ……挑戦する姿勢とやり抜く力の育成

品質に関するマネジメント体制

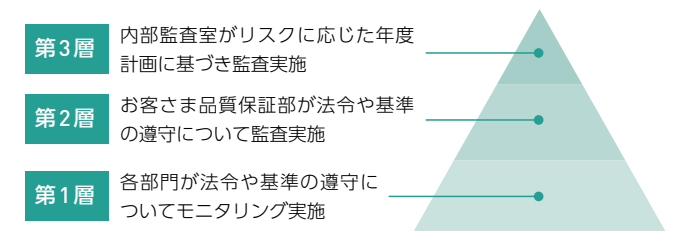
ジャトコでは、お客さまの満足を追求し、信頼される企業を目指すため、チーフクオリティオフィサー（CQO：Chief Quality Officer）を品質専任の執行職として選任しています。また、CQOを議長とする品質委員会を毎月開催し、製品およびサービスに関する品質課題について、各部門の役員と連携しながら、迅速な解決と改善活動の推進に取り組んでいます。

さらに、コンプライアンスの徹底に向けて、3層構造のモニタリングおよび監査体制を構築するとともに、監査活動の強化にも取り組んでいます。

マネジメント推進体制



モニタリング・監査体制



イントロダクション・目次	CEOメッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

信頼される品質

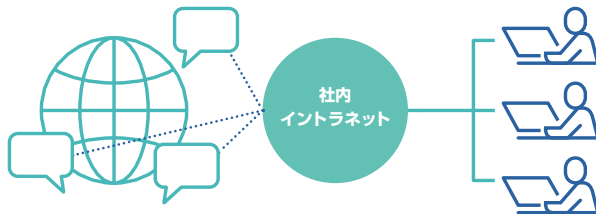
品質向上への取り組み

お客さまの声を品質向上活動に反映

ジャトコは、お客さまの期待する価値を提供するとともに、お客さまの感じる不満などに迅速に対応するため、お客さまからのすべての声に耳を傾け、開発からサービスに至る品質の改善活動に反映させています。

お客さまの声への迅速な対応とタイムリーな情報共有

ジャトコでは、自動車メーカーを通じてお客さまからの問い合わせや相談に応じています。また、市場で得られたお客さまの声は、従業員がいつでも閲覧できるよう、社内イントラネットに掲載し、共有しています。



市場でのお客さまの声を共有

お客さまの声を製品やサービスに反映

ジャトコでは、市場でのお客さまの声を、企画、開発、生産、販売など、あらゆる部門で確実に共有し、製品やサービスに反映する仕組みを整えています。

グローバルでお客さまが製品に求める期待値は、地域や年齢、嗜好などによって異なり、さらに製品の普及度や気候といった市場

特性の影響を受けることがあります。ジャトコでは、グローバルデザインを基本仕様としながら、地域のニーズに応じた対応も行っています。

これらの活動を主導するのが、チーフクオリティエンジニア (CQE) です。CQE は、企画段階からお客さまの視点を製品やサービスに反映させる役割を担っています。

お客さま視点を醸成するための取り組み

高品質の実現には、従業員一人ひとりがお客さまの視点で業務に取り組むことが重要です。ジャトコでは、全社研修や日常的なフィードバックの共有を通じて、マインド醸成を図っています。

2006年より実施している「ジャトコクオリティフォーラム」では、品質に関する取り組みや市場の声に対する改善活動を、展示や体験・体感イベントを通じて紹介し、従業員の理解を深めています。



2006年から実施する「ジャトコクオリティフォーラム」

製品・サービスの品質の向上

お客さまに長く安心して快適にご使用いただくため、お客さまの不満を的確に把握し、その解消に向けてあらゆるプロセスで対策活動を実施することで、一人でも多くのお客さまに満足いただけるよう品質の向上に取り組んでいます。

市場品質改善活動

初期品質の向上



お客さまに高品質の製品をお届けするために、

- ・企画・開発・生産などの全プロセスで一貫通貫の品質を確保
- ・リスクの可視化により不具合の未然防止を徹底

耐久品質の向上



お客さまに長く快適にクルマに乗り続けていただくために、

- ・使用済み部品を回収し、品質確認と早期不具合検出に活用
- ・各種データを活用し劣化抑制技術の開発を促進

サービス品質の向上



お客さまへの対応の質を向上させるために、

- ・交換部品の最小限化による負担軽減
- ・点検・修理方法の最適化

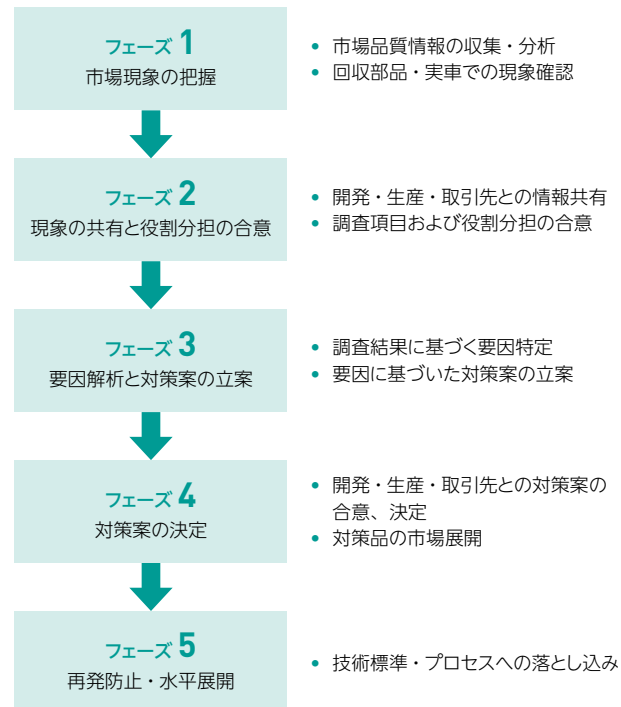
イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

信頼される品質

市場での迅速な品質改善への取り組み

ジャトコの企業活動がグローバルに拡大するに伴い、不満や不具合が世界各地で発生する可能性があります。そうした不具合を現地で迅速に解析し要因を分析するため、ジャトコでは日本、米国、フランス、スペイン、中国、韓国、メキシコ、タイの計8カ所に調査拠点を設けています。同調査拠点では、市場品質の調査・解析活動を5つのフェーズに分けて実施しています。

5つのフェーズでの市場品質調査・解析活動の概念図



また、ジャトコは自動車メーカーを通じて、販売会社や「お客さま相談室」などに寄せられた不満や不具合の状況を把握し、開発・生産部門と情報を共有するとともに、原因究明および対策検討を行い、不具合の流出防止につなげるなど、恒久的な対策を推進しています。

重大な不具合への公正・迅速な対応について

製品の不具合を発生させないよう最善を尽くすことが責務であると同時に、複雑な工業製品であるパワートレインづくりにおいては、万が一に備えることも私たちの責務です。ジャトコでは透明で公正・迅速な対応を基本姿勢としています。具体的には、お客さまの安全確保およびお客さまへの迷惑を最小限に抑えること、ならびに法令遵守を最優先とし、迅速な改修につなげています。

取引先との取り組み

部品の品質や供給に関するリスク対応を含め、ジャトコは取引先と協働しながら、すべての生産拠点において、部品の設計段階から品質向上に取り組んでいます。

取引先と推進するリスク評価・低減のマネジメント

グローバル品質マネジメントの強化を進めるとともに、取引先各拠点における生産工程の品質管理状況を現場・現物で確認し、ジャトコの要求レベルを満たすことができるように取引先の改善活動を支援しています。

また、ジャトコへ部品納入している取引先のみならず、その構成

部品を生産する二次取引先まで巻き込んだ共同改善活動を行うなど、さまざまな品質向上策に取り組んでいます。

納入部品の品質向上のための監査・トレーニング

ジャトコは、納入部品の品質を確保するため、取引先と協働しながら監査を実施しています。

取引先からひとつの部品がジャトコに納品されるまでには、企画段階での確認から、設計図面の作成、試作品の製作、性能確認、量産体制の確立など、さまざまな工程が必要です。ジャトコでは、この一連の流れにおいて必要な品質保証活動を取引先のための品質管理基準として規定し、すべての部品一つひとつに適用することで、正確な部品が納品される仕組みを整えています。さらに、独自の取引先品質評価基準である「取引先ヘルスチェック」に準拠し、取引先の支援を行っています。良品・不良品の明確な識別方法の有無やトラブル防止の仕組みの確認など、取引先の作業現場を確認しています。

また、製造工程のみならず、部品材料についても取引先と連携した品質管理体制により、すべての部品について材料認証を取得していることを確認しています。すべての取引先に対して、取引先向けの品質管理基準に関するトレーニングを実施し、取引先内で展開、実行することで、正確な部品が納入される体制を構築しています。

加えて、取引先向けスコアカードを用いた納品品質や市場品質の診断とともに、マネジメント体制を確認する工場監査を実施しています。これにより、良質な部品を安定的に供給する仕組みや、継続的な品質改善活動の実施状況を定期的に確認しています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

人権

人権についての考え方

ジャトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスを実現するために、すべてのステークホルダーの人権を尊重すること、適用される法令、基準を遵守すること、ならびに当社の従業員が社内規則に定められた最高の倫理基準に基づいて行動することが不可欠であると認識しています。従業員や取引先、お客さま、地域社会の多様性を評価・尊重し、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認しません。役員および従業員が相互の人権を尊重し、人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向、その他の理由による差別やいやがらせを行うことや、その状態を容認することを認めません。世界人権宣言（UDHR）をはじめ、市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（ICESCR）、労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関宣言（ILO 中核的労働基準）に記載された人権を尊重します。国連のビジネスと人権に関する指導原則（UNGPs）を参照すべき国際基準と位置づけ、事業活動から生じる可能性のあるリスクを管理し、すべての人権への影響を積極的に防止する取り組みを行っています。

人権尊重に関する考え方をサプライチェーンも含め、より明確かつ強固なものにするために「人権尊重に関する基本方針」を、各国地域のジャトコの従業員がより安心して働けるよう、人権に対するコミットメントを説明し事業活動における人権尊重が確実に実施されるようにするために「グローバル人権ガイドライン」をそれぞれ公開しました。同ガイドラインではジャトコの事業活動に照らし合わせ、7つのテーマを設定し、事業全体での従業員に対する人権尊重の取り組みをより一層強化しています。

人権に対する取り組み

従業員の労働および人権の適切な管理を可能とするだけでなく、QOL（Quality of Life: 生活の質）を高いレベルで維持・向上させていくために各国・地域で働きやすい職場づくりを推進しています。年次有給休暇について、日本では法律遵守（年間最低5日取得）はもちろんのこと、一人年間15日、年次有給休暇を取得できるよう部署で長期休暇の前後に「取得奨励日」を設定するなどの取り組みを行っています。また、各国で、ES（Employee Satisfaction）向上委員会などを定期的に開催し、従業員からの改善要望をダイレクトに受け入れる仕組みを導入し、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

また、ジャトコは、人権を尊重していく上で、従業員と対話することを重要な機会と捉えています。従業員の代表との労使間での定期的な協議はもちろんのこと、四半期に一度、Global Employee Meetingを開催し、経営層からメッセージを伝えるだけでなく、従業員からの質問に経営層が回答する機会を設けています。各国地域で、現地社長と従業員のダイレクトコミュニケーションタイムを設定するなど、グローバルで従業員とマネジメント層のコミュニケーションを大事にしています。

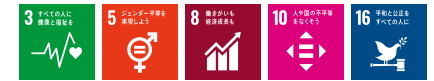
職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントやその他のハラスメント（いやがらせ）を「しない」「させない」「許さない」という姿勢のもと、性別（男性・女性・その他）を問わず、すべての従業員が被害に遭わないよう、防止に努めています。その施策としてグローバル全拠点を対象にe-ラーニングにて人権方針・ガイドラインに関する内容を織り込んだ行動規程教育を実施し、さらに2024年からはそれまで日本の管理職を対象に行っていたハラスメント研修を人権ガイドラインに基づく内容に改定し、

グローバル全拠点で行うなど、従業員の意識向上、啓発に努めています。

人権尊重の悪影響を与えかねない違反行為に関しては、内部通報システムの導入により、救済措置をとっています。

人権マネジメント

人権に対する悪影響を未然に防ぐため、日産グループの企業として、人権デューデリジエンスプロセスを実施し、リスク管理を行っています。2024年には、専門コンサルタントによる人権デューデリジエンス監査を日本で実施し、非常に良好なコーポレートカルチャーを醸成していると評価されています。また、人権ガバナンスについて、課題やリスクは、必要に応じて当社の経営会議で議論されます。人権に関する取り組みを、自社の活動を越えた範囲で実施することの重要性を認識しており、グローバルなサプライチェーンのすべての段階において、倫理的かつ社会・環境に配慮した事業活動を実現することを目標としています。この目標を達成するために、私たちはサプライヤーや委託業者を含む全てのビジネスパートナーと協力し、人権に配慮した事業展開を実践しています。



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

持続可能で責任ある調達



サプライチェーンに対する基本的な考え方

ジャトコは、法令や人権を尊重しながら、さまざまなステークホルダーとコミュニケーションを取り、刻々と変化する社会や環境に配慮しつつ、企業としての責任を果たすことを目指しています。

また、「技術と情熱でモビリティの可能性を拓ける」というコーポレートパーパスのもと、新規事業にも挑戦しており、今後も企業活動のフィールドを拡大し続けます。

この過程において、ジャトコは環境・社会・ガバナンスの視点を統合したサステナビリティ戦略と併せて、誰もが能力を発揮できるインクルーシブな組織文化の構築に取り組んでいます。加えて、当社は自社の取り組みをサプライチェーン全体へ波及させることが重要だと考え、主要なビジネスパートナーと連携して持続可能な調達方針や行動規範、環境・労働・人権に関する基準を共有化しています。併せて、必要に応じて取引先への実地確認や改善支援を行い、ビジネスパートナーの状況に応じた活動を行うことで、実効性のある改善を図っています。

さらにステークホルダーとしてのビジネスパートナーの信頼に応えるため、様々なコミュニケーションの機会を企画し、企業情報や主要な指標を定期的に公表しています。こうした活動を通して、当社とビジネスパートナーは相互に学び合いながらサプライチェーン全体で継続的で公正な社会の実現に取り組んでいます。

今後、更なる評価・透明性の向上のために、定期的なセルフアセスメントや第三者監査を通じて、さらに透明性や公平性の向上を目指します。

ビジネスパートナーとの相互信頼を深めるために

「パートナーシップ構築宣言」への署名

ジャトコは2022年に「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、宣言書に署名しました。この宣言に基づき、サプライチェーン全体の共存共栄を図ると同時に、規模や系列を超えた新たな連携を推進しています。

また、取引慣行や商慣行の是正に積極的に取り組んでおり、適正取引の推進を重視しています。

私たちは、この宣言に従って振興基準を遵守し、取引の適正化に努めるとともに、さまざまな課題に取り組み、ビジネスパートナーと共に持続的な発展を目指しています。



「JATCO Purchasing Way」と「CSR ガイドライン」の設定

ジャトコでは、Tier1ビジネスパートナーだけでなく、Tier2以降のビジネスパートナーにも当社のビジョンや方針、責任を理解していただくことが重要だと考えています。

そのため「JATCO Purchasing Way」によって取引を行う際に重視する価値観をビジネスパートナーに明示し、同時に「CSR ガイドライン」により、サプライチェーン全体で継続的に発展するために求められる社会的な責任を明示しています。



JATCO Purchasing Way

「JATCO Purchasing Way」では、ジャトコとビジネスパートナーとの間で信頼を構築するうえでの不可欠な価値観として「信頼」「相手への敬意」「透明性」の3つを定義しています。

この価値観に基づき、社会的な責任を共有するだけでなく、ビジネスパートナーの課題を分かち合い、社内のノウハウや人材を活用してサポートすることを約束しています。

CSR ガイドライン

「CSR ガイドライン」では、企業の社会的責任を果たし、お互いが継続的に発展するための要素を「コンプライアンス」「安全と品質」「人権と労働」「環境」「情報開示」の観点から解説しています。ビジネスパートナーに対し、さまざまな課題に対する取り組みを要望しています。また、人権や環境の側面から、環境負荷物質や紛争鉱物への管理体制の構築も併せて願っています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

持続可能で責任ある調達

このガイドラインにおいて、ビジネスパートナーに対する公平・公正かつ透明性を徹底することはもちろん、国籍や企業規模、取引実績の有無にかかわらず、幅広く取引の参入機会を提供することを約束しています。

一方、重要な法規や人権・インクルーシブ・サステナブルな社会の実現に反する活動について、ジャトコは明確に否定しており、そのような企業活動を継続的にを行っているビジネスパートナーに対しては、取引の中止などの対応をとることを明確にしています。

グリーン調達ガイドラインの設定

ジャトコは、「全ての事業活動を通じて持続可能な地球環境に貢献」という環境方針に基づき、製品のライフサイクルにおいて環境に配慮した取り組みを推進しています。そのため、ビジネスパートナーと共有すべき環境に関する方針や基準を「グリーン調達ガイドライン」として定め、環境への取り組みや環境負荷物質の管理について明記しています。

特に環境負荷物質に関しては、サプライマネジメントの観点からIMDS（International Material Data System）へのデータ入力をお願いしています。このIMDSデータに基づき、製品に使用されている環境負荷物質の管理状況や各種規制への適合性を確認しています。

ビジネスパートナーと事業継続活動

BCPの協力体制の強化と被災時の支援活動

近年、自然災害や感染症パンデミックによる休業や操業停止など、影響が広範囲かつ長期化している問題が頻発しており、サプライチェーンのさらなる強化が求められています。

ジャトコは、これまでもビジネスパートナーと一体となってBCP（事業継続計画）を策定し、自然災害の発生に対応できるサプライチェーンを構築してきました。併せてBCM（事業継続マネジメント）の観点から、有事の際の人道支援や生産活動の復旧支援はもちろん、平時においてもさまざまな取り組みでビジネスパートナーに支援を行い、サプライチェーンの安定化に努めています。

例えば、定期的にビジネスパートナーの生産拠点を訪問し、当社オリジナルの評価表を使用して被災リスクの見える化を進めています。この評価結果をもとに、各社の実情に合った対策や優先順位を協議し、リスク軽減に協力しています。

サイバーセキュリティにおける連携

現代では、コンピューターシステムやネットワークを標的とするサイバー攻撃が大きな脅威として認識されています。自然災害と同様に、サプライチェーンが被害を受けた場合、各社の基幹システムが停止し、企業活動に多大な影響を及ぼす可能性があります。

ジャトコはビジネスパートナーと共にサイバーセキュリティに対する取り組み状況を見直し、予防対策や被害が発生した場合の事業活動への影響を確認しています。また、一部のビジネスパートナーとは、サイバー攻撃を受けたと仮定したシミュレーションを実施しています。このシミュレーションにより明らかになった課題と対策をビジネスパートナーと共有し、連携をさらに強化しています。

持続可能な地球環境に向けた取り組み

ジャトコでは、気候変動への影響を抑え、社会環境の維持・向上を目指した活動を推進しています。

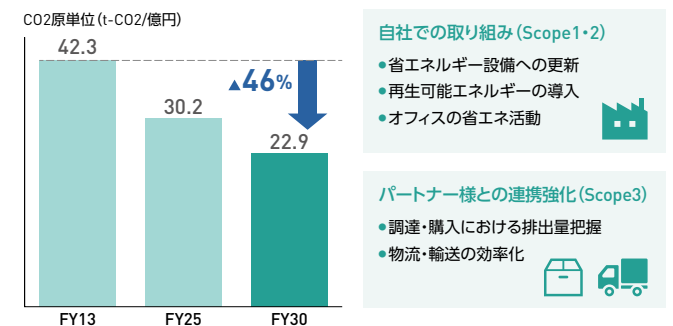
カーボンニュートラルへの取り組み

カーボンニュートラルについても、ジャトコは2013年を起点にCO2排出量を2030年までに46%削減し、2050年には排出量ゼロを目標にしています。

この取り組みは、自社事業所での活動だけでなく、サプライチェーン全体を巻き込んだ活動に取り組みなければ実現できません。そのためカーボンニュートラルに向けた活動を加速するためには、ビジネスパートナーと協働で環境改善を進めることが重要です。

今後も、ビジネスパートナーやお客様との連携を図り、CO2排出量を削減し、持続可能な社会の実現を目指します。

サプライチェーン全体でのCO2排出量削減目標



持続可能で責任ある調達

サーキュラーエコノミーへの取り組み

ジャトコは、耐久性に優れた製品を設計することで廃棄物を減らし（Reduce）、市場から回収された製品の部品を選別・再生し（Reuse）、アルミ材など再資源化可能な材料の部品を積極的に採用して（Recycle）、循環型経済の実現に努めています。

また、新規事業における新製品については、リサイクル材だけでなく、グリーンアルミ材の採用も検討しており、再生可能エネルギーの利用についても積極的に推進しています。

環境マネジメントシステムの構築

環境への負担を減らし、持続可能な社会に貢献するためには、さまざまな法規や規則を遵守するだけでなく、積極的に環境保全への取り組みを推進する必要があります。そのため当社はもちろん、ビジネスパートナーにも環境マネジメントを積極的に取り入れ、課題に取り組んでいただくよう努めています。

環境負荷物質に対する管理の向上

ジャトコは、各国・地域の環境負荷物質に関する法令を遵守し法令変更にも迅速に対応しています。特に化学物質については、各国で管理対象物質が増加しており、使用制限が急速に進んでいます。

そのためには、法令で禁止された化学物質を原材料に使用しない製品の開発だけでなく、製造過程においても該当する化学物質を使用しないことが重要です。ジャトコは、ビジネスパートナーの協力を得て、環境に影響を及ぼす物質に対するマネジメント体制を構築し、使用情報の収集や管理を行っています。

特定紛争鉱物に対する管理の向上

紛争地域で採掘される特定鉱物資源は、武装勢力の資金源となり、紛争の長期化や人権侵害を引き起こす要因として広く知られています。特定紛争鉱物の問題は人権に限らず、違法な採掘行為によって森林破壊、土壌汚染、水質汚染などの環境破壊を引き起こし、深刻な生態系への影響を及ぼしています。

ジャトコは、環境負荷物質だけでなく、製品に含まれる構成物質の生産工程に関する情報を集約し、サプライチェーンの透明化と紛争鉱物の排除に取り組んでいます。

ビジネスパートナーとのコミュニケーションの向上

サステナブルな社会の実現に向けた企業活動は、ご協力いただいているビジネスパートナーの企業活動にも影響を及ぼすため、ビジネスパートナーとの公正で対等な関係性を維持・向上させることがサプライチェーンを維持するための重要な要素となります。

ジャトコは、両社が公正で対等な関係性を維持するため、様々な取り組みを行っています。

「方針説明会」を開催し、ビジネスパートナーに当社の方向性や課題を発信しています。



さらに、サステナブル活動を積極的に推進し、当社の活動に尽力していただいているビジネスパートナーを、グローバルおよび各リージョン毎に毎年表彰しています。



2025年度ビジネスパートナー表彰

Jatco

2025年度 ビジネスパートナー表彰

QCDS ベストパフォーマンス賞
開発賞
品質賞
特別賞

Copyright © 2025 JATCO Ltd 56

2025年度ビジネスパートナー表彰

Jatco

2025年度ビジネスパートナー表彰概要

ビジネスパートナー表彰：19件（42社）

Award Category	Global Award	Regional Award
QCDS ベストパフォーマンス賞	1件（1社）	
開発賞	2件（2社）	
品質賞	1件（1社）	1件（19社）
特別賞	-	14件（19社）

Copyright © 2025 JATCO Ltd 57

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ステークホルダーエンゲージメント



ステークホルダーとの対話を通し、関心事を理解する

ジャトコの企業活動はさまざまなステークホルダーのみなさまとの信頼関係の上に成り立っています。ジャトコは、自社の持続的な成長とよりよい社会の発展を両立させるために、ステークホルダーの関心事について積極的に対話を行い、ステークホルダーの声に耳を傾け企業活動に反映することが重要だと考えています。ステークホルダーとの対話の機会を設けることは、リスクやオポチュニティを見出すことにもつながります。ジャトコでは、より多くの声を企業活動に反映させるため、様々な対話の機会を設け、その結果を確実に社内にフィードバックしています。

信頼関係の構築に向けて

変化するお客さまのニーズには迅速に対応し、安全・安心を第一に考えた商品やサービスの提供により、お客さまの真の満足を追求します。

ビジネスパートナーとも、相互信頼に基づいた公正な取引を通じて、互いの成長を実現する取り組みを進めています。

また、多様性の尊重と人財育成を実践し、従業員一人ひとりが成長を実感できる働きがいのある職場づくりを目指しています。

そして、ジャトコが事業を展開するすべての地域において「よき企業市民」であるため、地域社会と一体となった社会課題の解決や、それぞれの地域に根ざしたコミュニケーション活動に取り組んでいます。

ステークホルダー	対話の機会	主なテーマ	主な取り組み
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> 日常事業活動でのコミュニケーション 企業サイト SNS メディア等を通じた情報提供 問い合わせ窓口の設置等 	<ul style="list-style-type: none"> 製品やサービスの品質 お客さまへのサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 技術説明会・試乗会 お客さま要求事項への対応 お客さまによる当社評価の分析・改善
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 経営と従業員との対話 各種従業員対象意識調査 労使協議 上司との定期面談・キャリア開発面談 内部通報制度 社内ポータル 	<ul style="list-style-type: none"> 会社方針と目標・業績・経営課題 働きがい・エンゲージメント 職場環境・安全衛生 DE&I 人財育成・キャリア形成 	<ul style="list-style-type: none"> 経営層による経営方針・業績状況の共有 経営層と従業員による直接意見交換会の実施 定期的な従業員意識調査の実施と結果共有 キャリア開発面談を通じた成長・キャリア形成支援 内部通報制度〔イージーボイス・スピークアップ〕の周知・運用 従業員交流イベント（ジャトコフェスタ等）の実施
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> 日常事業活動でのコミュニケーション 取引先経営層との交流 お取引先様ウェブサイト 各種ガイドライン等 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先との相互信頼関係の構築 社会的責任の共有化 事業継続活動における連携 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先方針説明会 取引先表彰
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 自治体・地域団体とのコミュニケーション 従業員による社会貢献活動 地域住民を交えたイベント等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会への貢献 社会課題の解決に向けた自治体や地域団体との協働 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員によるボランティア活動 自治体及び地域企業間交流 地域住民を交えた事業所イベント（ジャトコフェスタ）
株主	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会 	<ul style="list-style-type: none"> ジャトコの事業戦略・業績・企業価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会

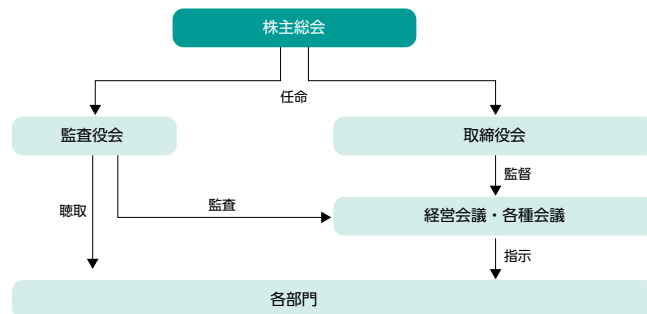
ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス



コーポレート・ガバナンスの徹底

企業統治の体制

ジャトコは会社法上の監査役会設置会社となっており、株主総会、取締役会、監査役会を法定の機関として設置しています。取締役会は原則毎月一回開催し、経営にかかわる重要な事項の決定、業務執行の内容の監督を行っています。取締役会は、業務執行を行う取締役のほか、社外取締役から構成されており、客観的に業務執行の状況を監督できる体制となっています。また、効率的・機動的に経営を行うため、執行役員制度を採用し、明確な形で執行役員に権限委譲を行ったうえで、事業を運営しています。



内部統制システムの強化

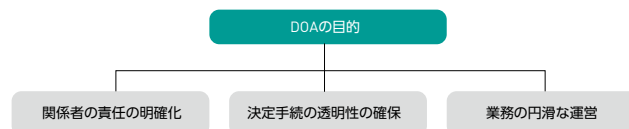
ジャトコは、適正かつ効率的な企業活動を確実なものとするため取締役会において決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき、内部統制の維持・強化を図っています。「内部統制システムの基本方針」では、主要項目として下記を定めており、内部統制システムが有効に機能しているか否かについては半年ごとに確認し、その結果を取締役に報告しています。

「内部統制システムの基本方針」の主要項目

- 取締役・従業員の職務の執行の法令・定款への適合
- 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理
- 適切なリスクマネジメント
- 取締役の職務の効率的な執行
- 企業グループ（親会社および子会社）における職務の適正の確保
- 監査役の監査の実効性の確保等

重要な業務事項とその決定

重要な業務事項とその決定に関わる権限基準はDOA（Delegation of Authority の略、権限委譲）にて定めています。DOA制定の目的は、関係者の責任の明確化、決定手続の透明性の確保、業務の円滑な運営です。



コンプライアンスの強化

コンプライアンスの基本的な考え

ジャトコグループでは、各国・地域の法令を遵守することは、社会から信頼されるための最低限の条件であると考えています。また、法令遵守はもちろん、グループのすべての従業員が高い倫理観をもって公正で誠実に行動することも重要と考えています。ジャトコは「グローバル行動規範」を制定し、グループ内のすべての役員、従業員が守るべき行動指針を示し、コンプライアンスの徹底に努めています。

グローバル行動規範で定めている項目

1. 法律・ルールの遵守
2. 安全の推進
3. 利益相反行為の禁止
4. 会社資産の保護
5. 公平・公正な関係
6. 透明性と説明責任の確保
7. 多様性の尊重と機会平等
8. 環境保護
9. 実践・報告の義務

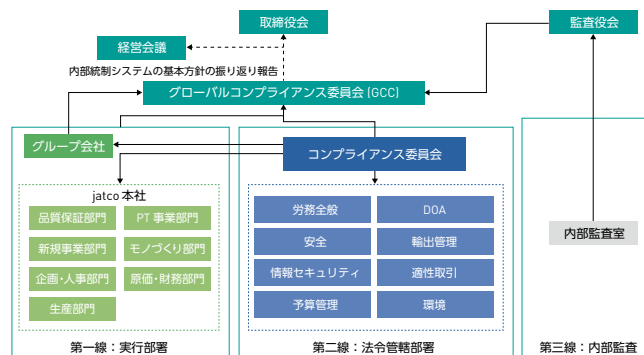
イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

コンプライアンスの推進体制

ジャトコグループのコンプライアンス活動は、法務知財部と人事総務部にて組織されるコンプライアンス事務局をセンターとして、①活動方針策定、②活動状況のモニタリング、③内部通報対応、④コンプライアンス教育・啓蒙を通じ、活動推進しています。また、コンプライアンス事務局は、各部門並びに各子会社にて任命されたコンプライアンスプロモーターと連携しながら個々の活動推進をサポートしています。

コンプライアンス体制の概要



ガバナンス

役員および国内外グループ会社社長を委員とするグローバルコンプライアンス委員会（GCC）を組織し、コンプライアンス事務局により年4回の会議を開催しています。GCCでは、コンプライアンスにかかわるグローバル共通事項の共有、具体的発生事案の共有、各社のコンプライアンス活動内容の確認などを行い、適切にPDCAを回すことに努めています。

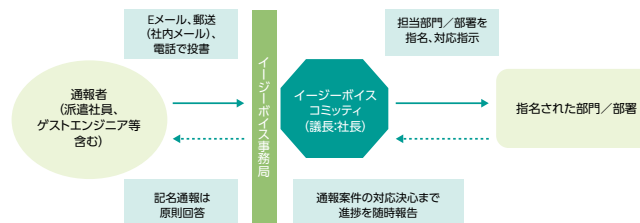
モニタリング

毎年、コンプライアンス総点検として第二線である法令管轄部署に対し、法令違反時の対応プロセスの確認等を実施し、活動状況のモニタリングを実施しています。

内部通報対応

コンプライアンス違反行為及びその懸念がある行為等に関し、従業員等が通報できる内部通報制度として、社内の窓口による「イージーボイス」と、社外（日産グループ）の窓口による「SpeakUp」を設けており、コンプライアンス違反行為等を早期発見、是正を図ることができる環境を整えています。

イージーボイスシステムの概要



イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

リスクマネジメントへの取り組み

リスクマネジメントの推進

グローバルな事業展開に伴い多様化するリスクに対応するため、ジャトコでは、内部統制の一環としてリスクマネジメントを実施しています。

具体的には、リスクユニバース12項目について、役員含めた関係者にインタビューを実施し、年度ごとにリスクを洗い出し、経営会議において取り組むべき項目を決定し、項目ごとに任命された責任者のもと、リスク低減のための対策を立案・実行しています。各項目における取り組みの進捗は経営会議に報告され、年度末に各項目のコントロールレベル評価が行われます。

リスクユニバース12項目

①商品戦略	⑦マネジメント品質
②生産戦略	⑧倫理および不正行為
③販売&マーケティング戦略	⑨人財
④事業継続性	⑩金融&市場リスク
⑤商品およびサービス品質	⑪外部環境変化に対する適応性
⑥情報品質	⑫法務リスク

コーポレートリスク管理のための年間計画	
役員インタビューなどによるリスク抽出	1月～2月
リスクアセスメントによる評価と課題候補の選定	2月
CRM* 課題定義と課題オーナーの決定 (経営会議)	3月～4月
中間報告：方策の方向性の合意	9月～10月
最終報告：方策実行の完了	3月

*CRM: Corporate Risk Management

BCM*委員会による取り組み

地震・台風などの自然災害をはじめ事業の継続を危うくするような事態が発生するケースがあります。ジャトコでは発生し得るさまざまなリスクを想定し、リスク発生の未然防止および発生時のリスク低減に向け、BCM委員会を設けて対策を実行しています。生産の継続に影響を与える事態が実際に発生した場合は、ただちに関係者に周知され、BCM委員会が中心となり、全社の各部門の協力を得ながら問題の解決を図ります。

大規模地震発生時の初動の対応、早期復旧のための適切な対応に従業員が身に付けられるように、毎年BCMシミュレーション訓練を実施しています。

* BCM: Business Continuity Management の略で、事業継続マネジメントのこと。大規模災害、病気の流行など、企業が事業を継続できなくなる事態に備え、対応策の決定やその実行、そのための訓練などを行うこと

グループ会社のリスクマネジメント体制

ジャトコグループでは、海外生産拠点をはじめとするグループ会社において、各社固有のリスクに対する包括的なリスクマネジメントを実施しています。BCM活動で培った経験やノウハウをグループ全体に展開し、グローバル共通リスクについては各社が連携して対応にあたっています。

適正かつ効率的な経営を実現するため、国内・海外のグループ会社は本社各担当部門との密接な連携のもと経営を行っています。ガバナンス体制の実効性を確保するため、監査役・内部監査室員を定期的に派遣し、各社の内部統制システムの有効性を継続的に確認しています。

具体的な取り組みとして、グループ会社社長が自ら経営の健全性と効率性を確認するための Easy Check Listを導入し、ガバナンス維持・向上の視点からチェック項目を体系化した支援ツールの活用や、グループ会社を含む新任取締役に対するガバナンス教育を実施し、グループ全体のガバナンス意識の向上を図っています。これらの取り組みにより、ジャトコグループ全体における経営の透明性と健全性の確保を推進しています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

災害対策（物理的ハザード）



メッセージ

災害の経験を未来の強さへ変える

ジャトコでは、発生が懸念された東海地震への対応を皮切りに、様々なリスクに備え20年以上にわたりBCM（事業継続マネジメント）の取り組みを進めてきました。

その間、新潟中越沖地震、東日本大震災、静岡県東部地震などの経験を通じて、設備や建物の耐震化や災害対策本部機能の強化、サプライチェーンリスクへの対応など、活動領域を大きく広げてきました。

特に2011年の静岡県東部地震では、自らが被災企業となり、事前の備えの有効性と同時に、新たな課題も明確になり、設備固定方法の見直しや通信手段の多重化、実践的なシミュレーション訓練の充実など、その後の改善活動につながっています。

災害対策に終わりはありません。社会環境や事業環境が変化する中で、新たなリスクを捉え、PDCAを回し続けることこそが企業のレジリエンス向上につながると考えています。

これからもジャトコは「人命を守ること」を最優先に、お客様への安定供給を支える事業継続力を強化するとともに、ビジネスパートナー、地域社会、グローバル拠点との連携を深めながら、持続可能で強靱な企業基盤の構築に取り組んでまいります。



生産部門長
執行役員
吉野 智昭

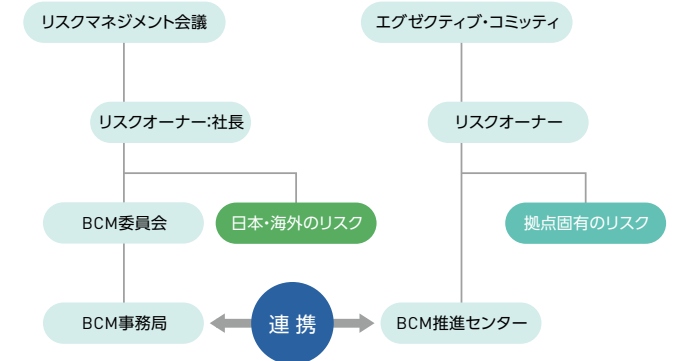
大規模災害発生時の事業継続に向けて

ジャトコのBCMの一環として、近い将来発生が懸念される大規模地震（震度6強以上）に対し、初動活動として人命救助、二次災害防止、また事業復旧活動として迅速かつ効果的な復旧を目標としたBCM活動を進めてきました。BC構築の取り組みは新潟中越沖地震（2007年7月）、東日本大震災（2011年3月）、そして自工場に大きな被害をもたらした静岡県東部地震（2011年3月）等の経験を経て、見直し・強化されています。想定する災害も、地震はもちろん、新型コロナウイルス、IT障害、サプライチェーン供給停止と多岐にわたり、メキシコ、中国、タイ等の海外拠点が直面するリスクも日本国内のBCM整備で得られた経験を活用しジャトコグループ全体でグローバルに展開しています。さらに過去の災害からサプライチェーンを重視した活動を推進するために、各社にBCM体制診断等を通じ、サプライチェーン全体の強化にも努めています。

ジャトコの実効性の高いBCMの原動力は繰り返し行われる訓練にあります。2008年以降、毎年BCMシミュレーション訓練を実施し、発災後の初動対応と事業継続への復旧体制を確認しています。この訓練は、想定される被害状況をもとに自動車メーカー・ビジネスパートナー対応、地域社会やメディア対応など、事業継続に関する課題を各部署・各拠点が連携して解決していくもので、このような訓練を繰り返し実施し、災害発生時の迅速な対応を目指しています。こうした拠点間連携を重視したシミュレーション訓練の成果は、静岡県東部地震での富士宮工場における各拠点からの円滑な支援受け入れと早期復旧となって具体的に現れています。

BCM推進組織

ジャトコのBCM推進組織



BCMシミュレーション訓練

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

災害対策（物理的ハザード）

従業員・地域の安全を守るために

従業員の安全確保

大規模地震が発生した際に従業員の安全を確保するために、ジャトコでは避難場所や避難行動についての手順を細かく定めています。

2025年度からは各工場に「緊急避難ゾーン」を設け、従業員が地震発生時の1分・1秒を争う中で、命を守る行動をとれるようシェイクアウト行動の訓練を実施しています。



緊急避難ゾーンでのシェイクアウト行動訓練の様子



イラスト提供：日本シェイクアウト提唱会議

日ごろからの備え

従業員一人ひとりが災害発生時の行動スキルを身につけるよう繰り返し訓練を行い、減災に取り組んでいます。

また、災害発生時の物資が届かない事態を想定し、水や食料、ヘルメット、毛布、寝袋、非常用トイレなどの備品を備蓄し、災害対応拠点としてそれらが本当に使える状態か定期点検、実際に使用した訓練も毎年行っています。



AEDの使用訓練や、防災備品使用訓練&点検実施風景

“7秒で守る”——歩いて知る、工場の防災

My JATCO（社内報）で、ジャトコの防災への取り組みを紹介しています。

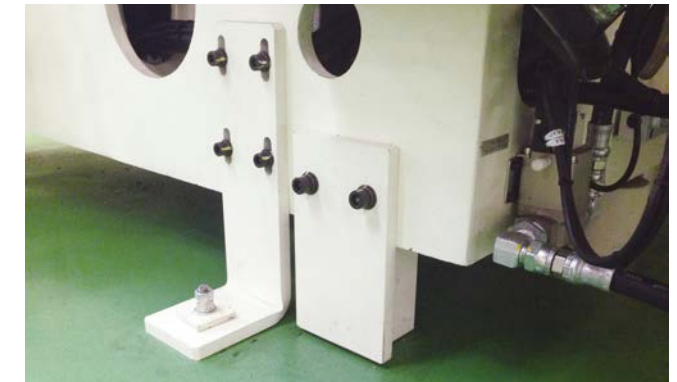
<https://my-jatco.com/featured/5052/>



日本国内における建屋や設備の地震対策

大規模地震が発生した際の建屋・設備・従業員への被害を防ぎ、一日も早い工場機能の復旧を図ることができるよう、日本国内の主要生産拠点では建物の耐震補強や生産設備の固定、天井やクレーンからの落下物対策など、幅広い「地震対策」を実施しています。

サプライチェーンの一員として、お客さまの生産への影響を最小限にとどめるよう、常に対策を考えています。



新たに付加した設備の補助脚

地域住民の安全・安心を確保

地域社会とともに歩むジャトコとして、地域の暮らしにおける安全・安心の確保に積極的に協力しています。

大規模災害が発生した場合に避難場所のない地域住民の方々に社内施設を緊急避難場所として提供できるよう、自治体の避難場所リストに登録し、体制の整備を推進しています。

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRIスタンダード対照表	

情報セキュリティ



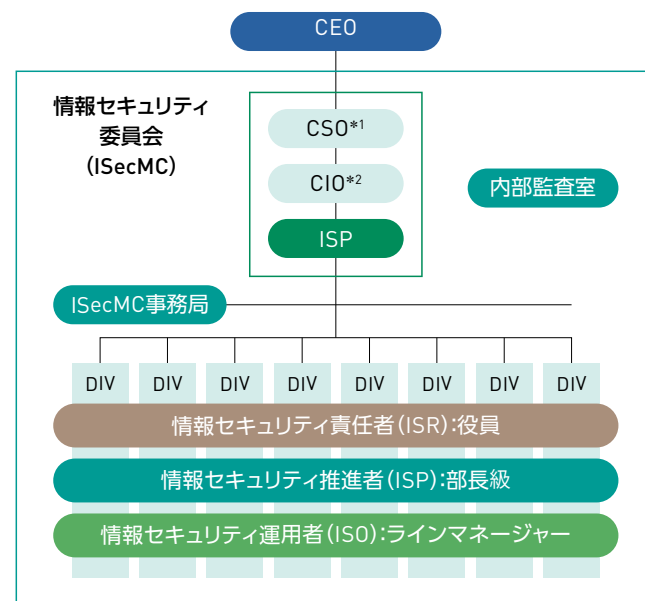
情報セキュリティの強化

情報セキュリティの推進体制

ジャトコでは高い情報セキュリティを維持するため、全従業員が情報セキュリティを意識し、業務に取り組めるよう、「情報セキュリティ規程」を制定しています。

情報セキュリティ規程とは、日産グループに準拠した情報セキュリティに関する基本方針を網羅的に示したものであり、以下の通り、情報の機密性・完全性・可用性を維持することを目的に制定されています。

情報セキュリティ委員会



*1 CSO: Chief Security Officer *2 CIO: Chief Information Officer

1. 機密性：アクセスを許可された者だけがアクセスできること
 2. 完全性：情報の正確性を保ち、処理方法の正確性及び透明性を保つこと
 3. 可用性：許可されたユーザーが、必要時に利用できること
- これらが損なわれることにより、情報漏洩や誤った情報の公開、または情報が使えなくなるといった事態を引き起こすことがないよう、ジャトコでは「情報セキュリティ委員会」を設置し、推進体制を構築しています。委員会を通じてグループ共通の課題や対策を共有し、各部門または各グループ会社の実行状況を確認しています。

情報管理の徹底と教育・啓発活動を推進

近年、会社や組織が保有するデータの重要性が急速に高まる中、情報漏洩やハッキング、マルウェア攻撃などの脅威も増えており、堅固な情報セキュリティは、会社の成長にとって不可欠な要素となっています。

ジャトコは情報インフラのさらなる強化に努めています。

サイバー攻撃などに備えるため、外部からの攻撃を防ぐさまざまな技術的施策を実施するとともに、万一侵入を許した場合でも情報流出を防げるよう、「サイバー攻撃対策本部」を設置し、速やかな対応が出来る体制・マニュアルを整えと共に、実際の有事を想定した訓練を年1回行っております。

情報セキュリティは、情報を取り扱う従業員一人ひとりの適正な管理意識にかかっていることから、標的型メール訓練等を通じて、新たな脅威に対する情報漏洩のリスク低減を図ると共に、情報資産管理台帳を用いた情報資産の管理徹底、グループの全従業員を対象とした情報セキュリティに関する教育を定期的実施するなど、継続的な管理意識の向上に努めています。

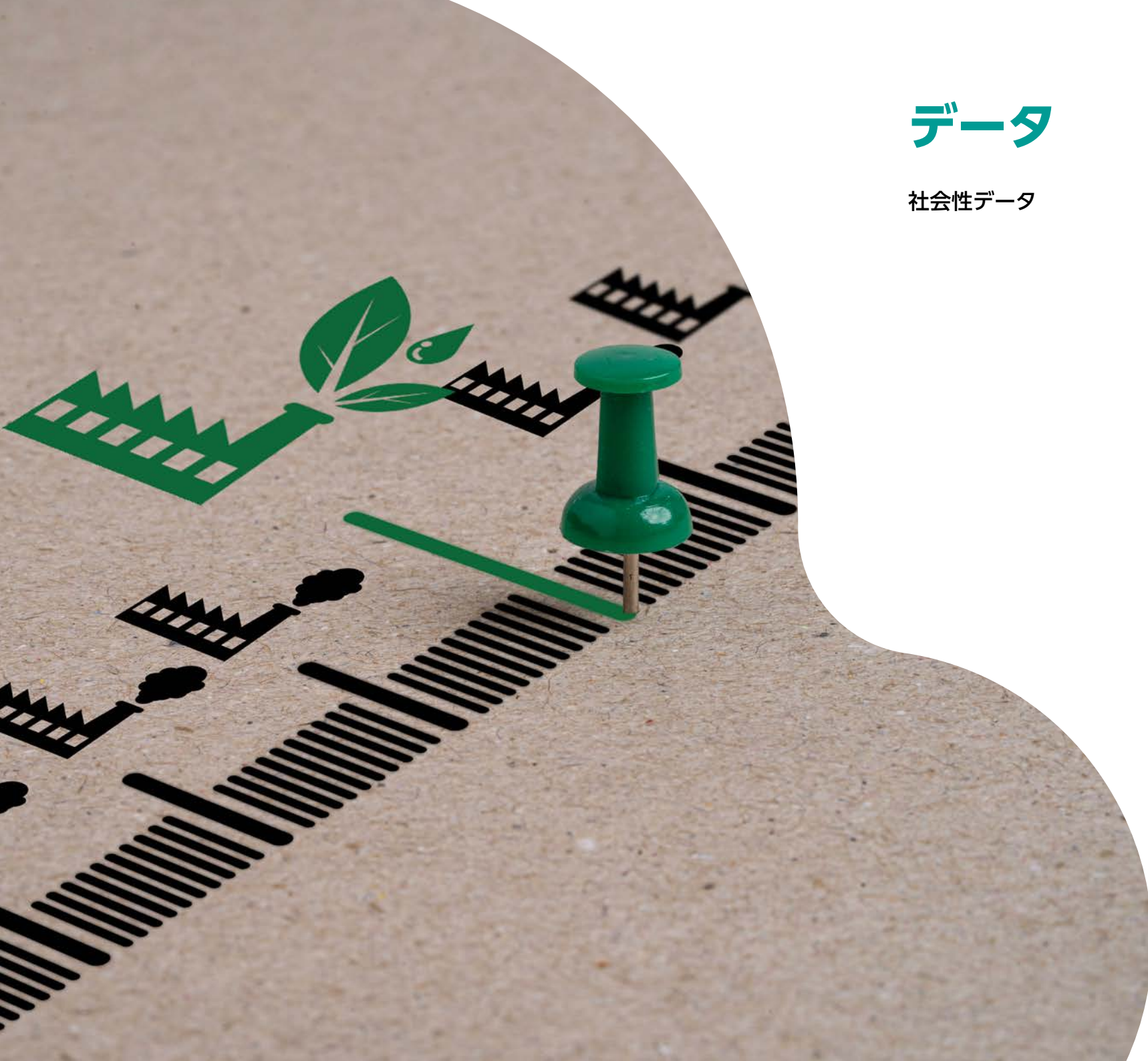
各部門・グループ各社の情報セキュリティ活動

情報セキュリティを適切に運営していくためには、部門・会社の単位で、情報セキュリティに関する現状やリスクを正確に把握してから、対策を立案・実施し、結果をレビューすることが不可欠であることから、ジャトコでは国際規格ISO27001に基づく、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) に準拠した日産グループによる評価を毎年実施するとともに、世界的な調査会社であるガートナー社によるセキュリティーアセスを受審しています。自社のセキュリティ成熟度やリスクを評価し、改善のロードマップを策定するなど、適切なPDCAを回し、対策しています。

各部門・各社における情報セキュリティにかかわる活動内容や発生したインシデント事案については、年3回行われる情報セキュリティ委員会で共有され、各部門・各社のベストプラクティスを互いに取り入れることで、海外拠点を含めたグループ全体における情報セキュリティ活動の標準化、共通施策の導入、教育の推進などより一層の充実を図っています。

データ

社会性データ



社会性データ

従業員データ (年度)

ジャトコ株式会社		単位	2023	2024	2025
従業員数		人	4,909	4,695	5,102
	男性	人	4,478	4,266	4,628
	女性		431	429	474
平均年齢		歳	43	44	44
	男性	歳	44	44	44
	女性		39	39	40
勤続年数		年	18.8	21.8	17.0
	男性	年	19.2	22.3	17.3
	女性		15.6	17.5	14.8
障がい者雇用率		%	2.57	2.58	2.73
男性の育児休業取得率		%	30.2	38.6	84.6
育児休業後の復職率		%	100	100	100
	男性	%	100	100	100
	女性		100	100	100
年休取得日数		日	15.8	18.5	18.5
平均残業時間		時間/月	22.8	21.9	18.9
女性管理職		人	14	16	17
	比率	%	5.2	5.3	5.9
新規採用人数		人	42	65	117
	男性	人	36	56	96
	女性		6	9	21

範囲: ジャトコ株式会社

*2025年度の従業員数; ジャトコエンジニアリング株式会社 吸収合併後の従業員数。

GRIスタンダード対照表



GRI スタンダード対照表

利用に関する声明	ジャトコ株式会社は、2025年4月1日から2026年3月31日までの期間について、GRI スタンダードを参照し、本対照表に記載した情報を報告します。
利用した GRI 1	GRI 1: 基礎 2021

GRIスタンダード			開示事項	該当ページタイトル	ページ数 (PDF)
一般標準開示項目					
2	一般開示事項2021	2-1	組織の詳細	企業情報	P.5
		2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	編集方針 企業情報	P.2 P.5
		2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	編集方針	P.2
		2-4	情報の修正・訂正記述	—	—
		2-5	外部保証	—	—
		2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	価値創造のあゆみ コア技術 持続可能で責任ある調達	P.7 P.9 P.61-63
		2-7	従業員	社会性データ	P.72
		2-8	従業員以外の労働者	—	—
		2-9	ガバナンス構造と構成	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.65
		2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.65
		2-11	最高ガバナンス機関の議長	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.65
		2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.65
		2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.65
		2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	ジャトコのサステナビリティ コーポレート・ガバナンスの徹底	P.14-15 P.65
		2-15	利益相反	サプライチェーンに対する基本的な考え方 コンプライアンスの強化	P.61 P.65-66
		2-16	重大な懸念事項の伝達	コンプライアンスの強化 リスクマネジメントへの取り組み	P.65-66 P.67
		2-17	最高ガバナンス機関の集会的知見	—	—
		2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	コーポレート・ガバナンスの徹底	P.65
		2-19	報酬方針	—	—
		2-20	報酬の決定プロセス	—	—
		2-21	年間報酬総額の比率	—	—
		2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	CEO メッセージ 企画・人事部門長メッセージ	P.3 P.14
		2-23	方針声明	モノづくりの考え方 サステナビリティ基本方針 ジャトコの環境方針 ジャトコの人財開発方針 安全衛生基本方針 健康経営宣言 品質に関する方針・考え方 人権についての考え方 サプライチェーンに対する基本的な考え方	P.10-12 P.15 P.19 P.47 P.50 P.53 P.57 P.60 P.61

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）	
	2-24	方針声明の実践		モノづくりの考え方 サステナビリティ基本方針 ジャトコの環境方針 ジャトコの人財開発方針 安全衛生基本方針 健康経営宣言 品質に関する方針・考え方 人権についての考え方 サプライチェーンに対する基本的な考え方	P.10-12 P.15 P.19 P.47 P.50 P.53 P.57 P.60 P.61	
	2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス		人権についての考え方 コンプライアンスの強化	P.60 P.65-66	
	2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度		コンプライアンスの強化	P.65-66	
	2-27	法規制遵守		コンプライアンスの強化	P.65-66	
	2-28	会員資格を持つ団体		モノづくりの考え方	P.12	
	2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ		ステークホルダーエンゲージメント	P.64	
	2-30	労働協約		—	—	
	マテリアルな項目					
	3	マテリアルな項目 2021	3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	マテリアリティ（重要課題）	P.15
			3-2	マテリアルな項目のリスト	マテリアリティ（重要課題） マテリアリティ（重要課題）と目指す姿	P.15 P.16
		3-3	マテリアルな項目のマネジメント	マテリアリティ（重要課題） マテリアリティ（重要課題）と目指す姿 環境 事業 社会 人的資本 事業基盤	P.15 P.16 P.18-36 P.37-40 P.41-44 P.45-55 P.56-70	
生物多様性						
101	生物多様性2024	101-1	生物多様性の損失を止め、反転させるための方針	ジャトコの環境方針	P.19	
		101-2	生物多様性へのインパクトの管理	大気・水資源・土壌保全 社会貢献活動	P.34-36 P.43-44	
		101-3	アクセスと利益配分	—	—	
		101-4	生物多様性へのインパクトの特定	中長期視点での環境課題への対応 水リスク管理と法令遵守の推進	P.20 P.35	
		101-5	生物多様性へのインパクトを伴う場所	大気・水資源・土壌保全 社会貢献活動	P.34 P.43-44	
		101-6	生物多様性の損失の直接的な要因	大気・水資源・土壌保全	P.34-36	
		101-7	生物多様性の状態の変化	—	—	
		101-8	生態系サービス	—	—	
経済						
201	経済パフォーマンス 2016	201-1	創出、分配した直接的経済価値	企業情報 価値創造のあゆみ	P.5 P.7	
		201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	—	—	
		201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	—	—	
		201-4	政府から受けた資金援助	—	—	
203	間接的な経済的インパクト 2016	203-1	インフラ投資および支援サービス	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.42 P.43-44	
		203-2	著しい間接的な経済的インパクト	—	—	

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRI スタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数 (PDF)
205	腐敗防止 2016	205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—	—
		205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	コンプライアンスの強化	P.65-66
		205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	—	—
206	反競争的行為 2016	206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—	—
環境					
301	原材料 2016	301-1	使用原材料の重量または体積	マテリアルバランス	P.21-22
		301-2	使用したリサイクル材料	循環型経済の構築	P.31-33
		301-3	再生利用された製品と梱包材	循環型経済の構築	P.31-33
302	エネルギー 2016	302-1	組織内のエネルギー消費量	マテリアルバランス カーボンニュートラルへの取り組み 生産領域での取り組み	P.21-22 P.24 P.26
		302-2	組織外のエネルギー消費量	ライフサイクル全体での取り組み	P.25
		302-3	エネルギー原単位	マテリアルバランス	P.21
		302-4	エネルギー消費量の削減	マテリアルバランス	P.21
				PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.23
				2025年度 CO2排出量実績 (グローバル)	P.24
		302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	環境マネジメント	P.19
				エネルギー効率の追求	P.40
				脱炭素化の推進	P.24-27
		303	水と廃水 2018	303-1	共有資源としての水との相互作用
303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント			大気・水資源・土壌保全	P.34-36
303-3	取水			マテリアルバランス	P.22
303-4	排水			マテリアルバランス	P.22
303-5	水消費			マテリアルバランス	P.22
305	大気への排出 2016	305-1	直接的な温室効果ガス (GHG) 排出 (スコープ1)	カーボンニュートラルへの取り組み	P.24
		305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出 (スコープ2)	カーボンニュートラルへの取り組み	P.24
		305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出 (スコープ3)	ライフサイクル全体での取り組み	P.25
		305-4	温室効果ガス (GHG) 排出原単位	PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.23
				カーボンニュートラルへの取り組み	P.24
				PDCA サイクルに基づいた継続的な環境負荷低減	P.23
		305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	マテリアルバランス	P.22
305-6	オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	—	—		
305-7	305-7 窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出物	化学物質の管理活動 生産拠点別環境 大気データ	P.36 P.36		
306	廃棄物 2020	306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	循環型経済の構築	P.31-33
		306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	循環型経済の構築	P.31-33
		306-3	発生した廃棄物	マテリアルバランス	P.22
				廃棄物対策への取り組み	P.31
				化学物質の管理活動	P.36
306-4	処分されなかった廃棄物	廃棄物対策への取り組み	P.31		
306-5	処分された廃棄物	ユニット修理・再生への取り組み	P.33		
308	サプライヤーの環境面の アセスメント 2016	308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.61-63
		308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	持続可能で責任ある調達	P.61-63

イントロダクション・目次	CEO メッセージ	ジャトコについて	サステナビリティマネジメント	環境	事業
社会	人的資本	事業基盤	データ	GRI スタンダード対照表	

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
社会					
401	雇用 2016	401-1	従業員の新規雇用と離職	社会性データ	P.72
		401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	—	—
		401-3	育児休暇	社会性データ	P.72
402	労使関係 2016	402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	—	—
403	労働安全衛生 2018	403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	労働安全衛生	P.50-55
		403-2	危険性（ハザード）の特定、リスク評価、事故調査	労働安全衛生	P.50-55
		403-3	労働衛生サービス	労働安全衛生	P.50-55
		403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	労働安全衛生	P.50-55
		403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	労働安全衛生	P.50-55
		403-6	労働者の健康増進	健康経営の取り組み	P.53
		403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	労働安全衛生	P.50-55
		403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	安全衛生基本方針	P.50
		403-9	労働関連の傷害	安全活動管理指標	P.52
		403-10	労働関連の疾病・体調不良	健康経営結果系 KPI	P.53
404	研修と教育 2016	404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	—	—
		404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人財育成	P.47-49
		404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	人財育成	P.47-49
405	ダイバーシティと機会均等 2016	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	ダイバーシティ&インクルージョン	P.46
				人権マネジメント コンプライアンスの強化	P.60 P.65-66
		405-2	基本給と報酬の男女比	—	—
406	非差別 2016	406-1	差別事例と実施した救済措置	—	—
407	結社の自由と団体交渉 2016	407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	—	—
408	児童労働 2016	408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
409	強制労働 2016	409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
410	保安慣行 2016	410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—	—
411	先住民族の権利 2016	411-1	先住民族の権利を侵害した事例	—	—
413	地域コミュニティ 2016	413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.42 P.43-44
				—	—
414	サプライヤーの社会面の アセスメント 2016	413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在化しているもの、潜在的なもの）を 及ぼす事業所	—	—
		414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.61-63
		414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	—	—
415	公共政策 2016	415-1	政治献金	—	—
416	顧客の安全衛生 2016	416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	信頼される品質	P.57-59
		416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—	—
417	マーケティングとラベリング 2016	417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	—	—
		417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	—	—
		417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—	—
418	顧客プライバシー 2016	418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	—	—

Jatco